

Oracle Services for MSCS for Windows

エラー・メッセージ

リリース 3.3.1

2002 年 9 月

部品番号 : J06613-01

ORACLE®

Oracle Services for MSCS for Windows エラー・メッセージ, リリース 3.3.1

部品番号: J06613-01

原本名: Oracle Services for MSCS Error Messages, Release 3.3.1 for Windows

原本部品番号: A96683-01

Copyright © 1999, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
対象読者	iv
構成	iv
関連資料	iv
表記規則	v

1 メッセージの使用方法

1.1	Oracle Services for MSCS エラー・メッセージ	1-2
1.2	変数テキスト	1-2
1.3	メッセージの正確性	1-3
1.4	オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡	1-3
1.5	トレース・ファイルとアラート・ファイル	1-3

2 エラー・メッセージと状態メッセージ

2.1	FS-10000 ～ FS-10049	2-2
2.2	FS-10050 ～ FS-10099	2-8
2.3	FS-10100 ～ FS-10149	2-15
2.4	FS-10150 ～ FS-10199	2-22
2.5	FS-10200 ～ FS-10249	2-29
2.6	FS-10250 ～ FS-10299	2-35
2.7	FS-10300 ～ FS-10349	2-42
2.8	FS-10350 ～ FS-10399	2-45
2.9	FS-10400 ～ FS-10449	2-50
2.10	FS-10450 ～ FS-10499	2-56
2.11	FS-10500 ～ FS-10549	2-63

2.12	FS-10550 ~ FS-10599	2-70
2.13	FS-10600 ~ FS-10649	2-78
2.14	FS-10650 ~ FS-10699	2-83
2.15	FS-10700 ~ FS-10749	2-90
2.16	FS-10750 ~ FS-10799	2-94
2.17	FS-10800 ~ FS-10849	2-100
2.18	FS-10850 ~ FS-10899	2-104
2.19	FS-10900 ~ FS-10949	2-107
2.20	FS-10950 ~ FS-10999	2-108
2.21	FS-11000 ~ FS-11049	2-111
2.22	FS-11050 ~ FS-11099	2-116
2.23	FS-11100 ~ FS-11199	2-122
2.24	FS-11200 ~ FS-11299	2-125
2.25	FS-11300 ~ FS-11399	2-129
2.26	FS-11400 ~ FS-11499	2-138

はじめに

このマニュアルには、Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard サーバーの Oracle Services for MSCS から返されるメッセージが掲載されています。

対象読者

このマニュアルは、Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard の全ユーザーを対象としています。

構成

このマニュアルは次の 2 つの章から構成されています。

第 1 章

この章では、メッセージの使用方法を説明します。

第 2 章

この章では、メッセージ、考えられるエラーの原因および推奨する処置などを示します。

関連資料

Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard の詳細は、次の資料を参照してください。

- ソフトウェアの更新、オンライン・マニュアルへのアクセス、その他のリリース固有の情報は、『Oracle Fail Safe for Windows リリース・ノート』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows リリース・ノート』を参照してください。
- インストール、削除およびアップグレードの詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows インストレーション・ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows インストレーション・ガイド』を参照してください。
- 不明点の説明を参照するためのオンライン・ヘルプが用意されています。オンライン・ヘルプの項目にアクセスするには、Oracle Fail Safe Manager のメニュー・バーにある「ヘルプ」をクリックしてください。

関連製品に関する詳細は、次の資料を参照してください。

- クラスタ・システムの詳細は、Microsoft Cluster Server (MSCS) のマニュアルを参照してください。
- ODBC の詳細は、Oracle ODBC のマニュアルを参照してください。また、ODBC ドライバの Oracle 固有の実装の詳細は、「Oracle ODBC オンライン・ヘルプ」を参照してください。（たとえば、フェイルオーバーの設定方法などを説明しています。）

その他の関連製品の詳細は、各製品のマニュアルを参照してください。

注意： 以前のリリースの Oracle Real Application Clusters Guard では、グラフィカル・ユーザー・インタフェースを Oracle Real Application Clusters Guard Manager と呼んでいました。リリース 3.3.1 からは、Oracle Real Application Clusters Guard Manager および Oracle Fail Safe Manager は 1 つのマネージャに統合されています。このマネージャを Oracle Fail Safe Manager と呼びます。

Oracle Real Application Clusters Guard で構成したオブジェクトを Oracle Fail Safe Manager を使用して参照する場合、その Oracle Fail Safe Manager は Oracle Real Application Clusters Guard モードで実行中であると表現します。簡潔に表すために、Oracle Real Application Clusters Guard モードで実行中の Oracle Fail Safe Manager を指して、Oracle Real Application Clusters Guard Manager と呼ぶことがよくあります。

表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

表記規則	意味
< >	ユーザー指定の名前を囲む記号。

メッセージの使用方法

この章では、エラー・メッセージに関する一般情報と役立つヒントを説明します。

1.1 Oracle Services for MSCS エラー・メッセージ

Oracle Services for MSCS には一元化されたメッセージ機能が備わっています。ある操作を実行した結果、エラーが発生すると、システムはエラーに対応するメッセージを検索し、そのメッセージを表示します。メッセージにはメッセージ接頭辞、一意のエラー番号およびメッセージ・テキストが表示されます。次に例を示します。

FS-10001: クラスタを開こうとして失敗しました。

接頭辞

すべてのメッセージには、メッセージを生成したプログラムを示すテキストが接頭辞として付けられます。たとえば、「FS」という接頭辞の付いたメッセージは、Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard の両方のサーバーである、Oracle Services for MSCS ソフトウェアによって生成されたものです。

このマニュアルでは、Oracle Services for MSCS のメッセージのみを扱います。その他のメッセージ、たとえば Oracle データベース・サーバーに固有のメッセージ（接頭辞は「ORA」）、またはその他の製品に固有のメッセージについては、該当する製品のマニュアルを参照してください。

メッセージ・テキスト

メッセージのテキストにはエラーに関する追加情報が示されます。通常は、メッセージを生成した状況が説明されています。

システムによるメッセージのレポート

メッセージは Oracle Fail Safe Manager によって対話式に表示され、トレースを有効にした場合はトレース・ファイルに表示されます。

1.2 変数テキスト

エラーの検索および修正に役立つように、一部のメッセージにはオブジェクト名、数値および文字列が埋め込まれています。これらの埋込み変数は、%s、%u、0x%X または %d で表されます。%s は文字列、%u は符号なし数値、0x%X は 16 進数、%d は 10 進数を表します。

たとえば、「FS-10014: グループ %s の移動に失敗しました。」というメッセージは次のように表示されます。

FS-10014: グループ FS-GROUP の移動に失敗しました。

1.3 メッセージの正確性

このマニュアルのメッセージで最も重要なのは、その正確性です。時折、メッセージの改訂がソフトウェアに反映されていない場合があります。このマニュアルのメッセージと異なるメッセージがシステムで表示された場合、改訂されたそのメッセージ・テキストは通常リリース・ノートで発表されるか、ソフトウェアの次のリリースに反映されます。

1.4 オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡

オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する際に必要な情報の詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

1.5 トレース・ファイルとアラート・ファイル

トレース・ファイルとアラート・ファイルの詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

エラー・メッセージと状態メッセージ

この章には、Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard サーバーの Oracle Services for MSCS から返されるメッセージが掲載されています。メッセージは、メッセージ・コード番号に従って示されています。メッセージごとに、考えられるエラーの原因と推奨する処置を示します。

2.1 FS-10000 ~ FS-10049

FS-10001: クラスタを開こうとして失敗しました。

原因: クラスタ・サービスがローカル・システムで稼働していません。

処置: 次の手順でクラスタ・サービスをローカル・システムで起動します。

1. デスクトップ上で、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」の順にクリックします。
2. 「コントロール パネル」で「サービス」をダブルクリックします。
3. 起動するクラスタ・サービスを選択して、「スタート」をクリックします。

FS-10002: クラスタを検出するために Oracle Enterprise Manager で使われる TCL スクリプトを作成できません。

原因: クラスタを検出するために Oracle Enterprise Manager で使用される TCL スクリプトを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10003: 構成リストへの TCL ファイル %s の追加に失敗しました。

原因: TCL ファイルを <Oracle_Home>%Network%Agent%Config ディレクトリの Nmiconf.lst ファイルに追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10004: リソース %s は、Oracle データベースではありません。

原因: 指定したリソース名が Oracle データベースのリソース名ではありません。

処置: Oracle データベースの指定を正しく入力していることを確認します。

FS-10005: リソース %s をグループに追加できません。

原因: 指定したリソースをグループに追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10006: リソース %s を開けません。

原因: 指定したクラスタ・リソースを開けません。

処置: リソース名が正しく入力されていることを確認します。

FS-10007: ローカル・クラスタを開けません。

原因: クラスタ・サービスが稼働していないか、クラスタ・ソフトウェアがローカル・システムにインストールされていません。

処置: クラスタ・ソフトウェアがインストールされ、クラスタ・サービスが起動していることを確認します。

FS-10008: クラスタ・ノード %s を開けません。

原因: クラスタ内の指定したノードを開けません。

処置: ノード名が正しく入力され、かつそのノードがクラスタ内にあることを確認します。

FS-10009: クラスタ情報の取出しに失敗しました。

原因: クラスタ情報を取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10010: グループ %s をオンラインにできませんでした。

原因: 指定したグループをオンライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10011: グループ %s をオフラインにできませんでした。

原因: 指定したグループをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10012: クラスタ・リソース %s をオンラインにできませんでした。Windows イベント・ログでメッセージを確認してください。

原因: 指定したクラスタ・リソースをオンライン化できません。

処置: メッセージおよび副次的なエラー・メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。

FS-10013: クラスタ・リソース %s をオフラインにできませんでした。

原因: 指定したクラスタ・リソースをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10014: グループ %s の移動に失敗しました。

原因: 指定したグループを移動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10015: グループの列挙に失敗しました。

原因: グループのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10016: クラスタ・リソースの列挙に失敗しました。

原因: クラスタ・リソースのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10017: 列挙のためにグループ %s を開けませんでした。

原因: 列挙のために指定したグループを開けません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10018: クラスタ・ノードの列挙に失敗しました。

原因: クラスタ・ノードのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10019: グループ %s の名前の変更に失敗しました。

原因: 指定したグループ名に新しい名前を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10020: リソース %s のリソース名の変更に失敗しました。

原因: 指定したリソース名に新しい名前を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10021: Oracle Services for MSCS の登録に失敗しました。

原因: Oracle Services for MSCS のリモート・プロシージャ・コール (RPC) サーバーを登録できません。

処置: 問題 (ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10022: Oracle Services for MSCS のリスナーの起動に失敗しました。

原因: Oracle Services for MSCS を管理するためのリモート・プロシージャ・コール (RPC) ・サーバーのリスナーを起動できません。

処置: 問題 (ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10023: クラスタ内のあるノードの名前の取出しに失敗しました。

原因: クラスタ内のあるノードの名前を取り出せません。

処置: クラスタ内に少なくとも 2 つのノードがあることを確認します。

FS-10024: ノード %s 上での Oracle Services for MSCS の起動に失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したノード上で Oracle Services for MSCS を起動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10025: ノード %s 上での Oracle Services for MSCS へのバインドに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したノード上の Oracle Services for MSCS リモート・プロシージャ・コール (RPC) ・サーバーにバインドできません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10026: ノード %s 上での Oracle Services for MSCS の停止に失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したノード上の Oracle Services for MSCS を停止できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10027: 指定した操作状態は無効です。

原因: ソフトウェア内部の不具合です。

処置: 問題（ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10028: クラスタ・ディスクの一覧に失敗しました。

原因: クラスタ・ディスクを一覧表示できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10029: クラスタ・ディスク %s をグループ %s に移動できませんでした。

原因: 指定したクラスタ・ディスクを指定したグループに移動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10030: グループ %s の作成に失敗しました。

原因: 指定したグループを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10031: グループ %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したグループを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10032: データベース %s の起動に失敗しました。

原因: 指定したデータベースを起動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10033: 指定したデータベース・インスタンス %s は存在しません。

原因: 指定したデータベース・インスタンスが存在しません。

処置: データベース・インスタンスを正しく指定していることを確認します。

FS-10034: データベース・インスタンス %s で使用されているディスクの間合せ中にエラーが発生しました。

原因: データベース・インスタンスで使用されているディスクの間合せ中にエラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10035: データベースはファイル %s にクラスタ化されてないディスクを使用しています。

原因: データベースが、指定したファイルにクラスタ化されていない（非共有）ディスクを使用しています。

処置: 可用性の高いデータベースとして構成するためには、そのすべてのデータベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに格納する必要があります。データベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動してください。

FS-10036: リソースでディスク %s が使われています。これは別のグループでクラスタ・リソース %s としても使われています。

原因: 別の Microsoft Cluster Server グループ内の別のクラスタ・リソースもそのディスクを使用しているため、ディスク・グループを変更できません。

処置: データベースと他のクラスタ・リソースの両方が同じディスクを使用することが必要な場合は、それらのリソースを同じグループに置きます。

FS-10037: グループ %s のデータの書込みに失敗しました。

原因: 指定したグループのデータを書き込めません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10038: グループ %s のデータの取出しに失敗しました。

原因: 指定したグループのデータを取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10039: グループの一覧作成に失敗しました。

原因: グループを一覧表示できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10040: データベース・リソース %s の作成に失敗しました。

原因: 指定した Oracle データベース・リソースを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10041: データベース・リソース %s の削除に失敗しました。

原因: 指定した Oracle データベース・リソースを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10042: Oracle Services for MSCS リソースの一覧に失敗しました。

原因: Oracle Services for MSCS リソースを一覧表示できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10043: データベース %s のデータの取出しに失敗しました。

原因: 指定したデータベースに関する Oracle データベース・リソース・データを取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10044: データベース %s のデータの変更に失敗しました。

原因: 指定した Oracle データベース・リソースのデータを変更できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10045: リソース %s をグループから削除できません。

原因: 指定したリソースをグループから削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10046: グループ・リソース %s の検証に失敗しました。

原因: 指定したグループ・リソースを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10047: グループ %s の検証に失敗しました。

原因: 指定したグループを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10048: データベース %s のリスナー名の設定に失敗しました。

原因: 指定した Oracle データベース・リソースにリスナー名を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10049: インストール済の Oracle Fail Safe Manager のバージョン (%s) は Oracle Services for MSCS のバージョン (%s) と非互換です。

原因: Oracle Fail Safe Manager と Oracle Services for MSCS のバージョンが一致していません。

処置: Oracle Services for MSCS と Oracle Fail Safe Manager のバージョンが同じことを確認します。

2.2 FS-10050 ~ FS-10099

FS-10050: リソース %s をグループから削除できません。リソース %s が依存しています。

原因: リソースが、削除しようとしているリソースに依存しています。他のリソースがそのリソースに依存している場合、そのリソースはグループから削除できません。

処置: 削除しようとしているリソースに依存しているすべてのリソースを削除します。

FS-10051: Oracle Net 構成ファイル %s の読み込みに失敗しました。

原因: listener.ora または tnsnames.ora ファイルを開けません。そのファイルには構文エラーがあります。

処置: listener.ora または tnsnames.ora ファイル内のすべての構文エラーを解決します。

FS-10052: Oracle Net 構成ファイル %s を開くときに失敗しました。

原因: listener.ora または tnsnames.ora ファイルを開けません。

処置: Oracle Net 構成ファイルがシステムに存在しているかどうかを調べます。

FS-10053: Oracle Net 構成ファイル %s (%s) の読み込みに失敗しました。

原因: listener.ora または tnsnames.ora ファイルを更新または検証できません。そのファイルには構文エラーがあります。アプリケーションでこのファイルを使用している場合、そのアプリケーションでは Oracle Services for MSCS による変更は認識されません。

処置: listener.ora または tnsnames.ora ファイル内のすべての構文エラーを解決します。

FS-10054: Oracle Net 構成ファイル %s (%s) を開くときに失敗しました。

原因: 更新または検証のために listener.ora または tnsnames.ora ファイルを開けませんでした。そのファイルを開く際に問題があります。アプリケーションでこのファイルを使用している場合、そのアプリケーションでは Oracle Services for MSCS による変更は認識されません。

処置: listener.ora または tnsnames.ora ファイル内またはディレクトリ内のすべてのエラーを解決します。

FS-10055: %s パラメータの値は %s (%s、ノード %s) です。

原因: Oracle Net デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: 副次のメッセージを参照してください。

FS-10059: 必要な情報が見つかりません。

原因: Oracle Net に関する必要な情報を見つけることができません。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10060: 同じサービス名 %s がすでに存在しています。

原因: 同じノード上で TNS サービス名が重複することはできません。

処置: 別の TNS サービス名を使用して、データベース・サーバーにアクセスします。

FS-10061: 対応するサービス名 %s が見つかりません。

原因: tnsnames.ora ファイルで TNS サービス名を見つけることができません。

処置: データベースの tnsnames.ora ファイルが正しく構成されていることを確認します。tnsnames.ora ファイルの TNS 名が変更されていないことも確認します。元の TNS 名がわからない場合は、Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard の <Oracle_Home>\Network\Admin ディレクトリ内に作成されたバックアップ・ファイルを調べてください。tnsnames.ora バックアップ・ファイルの名前は tnsnames.00n となっています。n の部分は整数です。

FS-10062: Oracle Net リスナーがデータベース・インスタンスに対して一意ではありません。

原因: Oracle Net リスナーが、複数の Oracle インスタンスを処理しています。

処置: 問題 (listener.ora ファイルのコピーを含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。このリスナーの listener.ora ファイルを調べます。

FS-10063: グループにネットワーク名が割り当てられていません。

原因: グループにネットワーク名が割り当てられていません。

処置: グループにネットワーク名を割り当ててください。各グループには一意のネットワーク名が必要です。

FS-10064: Oracle Net リスナーの構成計画の生成でエラーが発生しました。

原因: Oracle Net の構成計画を生成するときに、エラーが検出されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10065: Oracle Net リスナーの構成中にエラーが発生しました。

原因: 構成計画を使用して Oracle Net リスナーを再構成するときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10066: Oracle Net リスナーの Windows サービス %s が開始できませんでした。

原因: Oracle Net リスナーのサービスを起動できません。Oracle Services for MSCS は、リスナーの定義を変更した後、または新しいリスナーを定義した後でリスナーを起動しようとした。この失敗は、次の 2 つの条件のいずれかが原因です。最初の条件が最も一般的です。

- 実行中の別の Oracle Net リスナーが、すでにデータベースをリスニングしていること。Oracle Net リスナーは、システム上の 2 つのリスナーが同じアドレスまたはデータベース SID をリスニングしていないことを確認します。この問題が発生すると、更新されたリスナーおよびサービス名の定義を含む listener.ora ファイルと tnsnames.ora ファイルがロールバック・ファイルとして保存されます。ロールバック・ファイルのファイル名は、<name>_rlb.ora です。<name> は、listener または tnsnames です。
- Oracle Services for MSCS がリスナーを起動しようとしているノード上で、リスナーが使用する仮想アドレスがアクティブになっていないこと。

処置: 最初の問題が原因と思われる場合は、ロールバック・ファイルを読み込んで、リスナーの定義を探します。この定義を、システム上で稼働している他のすべてのリスナーの定義と比較します。リスナー間でアドレスまたはデータベース SID 名の重複がないようにしてください。複数の Oracle ホームがあるシステム上のすべての listener.ora ファイルを調べます。2 番目の問題が原因と思われる場合は、Oracle Services for MSCS がリスナーを起動しようとしているノード上で、リスナーが使用する仮想アドレスがアクティブになっていることを確認します。

FS-10067: Oracle Net リスナーの Windows サービス %s が停止できませんでした。

原因: Oracle Net リスナーの指定したサービスを停止できません。

処置: クラスタ上の listener.ora ファイルを調べます。

FS-10068: Oracle Net リスナーの Windows サービス %s を削除できませんでした。

原因: 指定した Oracle Net リスナー・サービスを削除できません。

処置: クラスタ上の listener.ora ファイルを調べます。

FS-10069: Oracle Net リスナーの Windows サービス %s が存在しません。

原因: Oracle Net リスナーに指定した Windows サービスが存在しません。

処置: クラスタ上の listener.ora ファイルを調べます。

FS-10070: Oracle Net: %s

原因: Oracle Net ファイルのデータを読み込みまたは更新できません。次のいずれかが原因です。

- 不適切な更新や破損のため、これらのファイルが有効でなくなっていること
- グループのサービス名、データベース SID またはネットワーク名が不適切なこと
- データベース SID が、(複数 Oracle ホーム環境で) 複数のリスナーに含まれていること

処置: 不適切な更新またはファイルの破損によってこれらのファイルが有効でなくなっている場合、これらを使用して仮想サーバー情報を構成することはできません。これらのファイルの有効なバージョンを取り出すか、Oracle Net Assistant を使用して再作成します。

これらのファイルが有効な場合は、操作で使用されているグループのサービス名、データベース SID およびネットワーク名が正しいかどうかを調べます。情報が不適切な場合、この手順が失敗することがあります。

複数 Oracle ホーム環境でシステムを使用している場合は、データベース SID が複数のリスナーに含まれていないことを確認します。システム上のすべての listener.ora ファイルを調べます。

FS-10071: Oracle Net デフォルト・ドメインの取得に失敗しました。

原因: sqlnet.ora ファイルから Oracle Net デフォルト・ドメインを取り出すことができませんでした。

処置: クラスタ上の sqlnet.ora ファイルに、NAMES.DEFAULT_DOMAIN パラメータの値が含まれているかどうかを調べます。その値がない場合、このファイルの変更方法は『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

FS-10072: データベース %s 上でチェックポイントの実行中にエラーが発生しました。

原因: データベース上のチェックポイント操作を実行できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10073: グループ %s のクラスタ・リソースをオフラインにできませんでした。

原因: 指定したグループ内のリソースをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10074: 要求された操作のために Oracle Net を構成しているときに、エラーが発生しました。

原因: 要求された操作のため Oracle Net を構成するときに、エラーが検出されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10075: Oracle Net サービス名の構成中にエラーが発生しました。

原因: 構成計画を使用して Oracle Net サービス名を再構成するときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10077: Oracle 共有ソケットが %s ホーム（ノード %s）のリスナーに対して使用可能にされています。共有ソケットを使用不可にしてください。

原因: USE_SHARED_SOCKET 環境変数が TRUE に設定されています。共有ソケットが使用可能になっている場合、Oracle Services for MSCS がリスナーを再起動できないことがあります。

処置: 指定したノード上で、USE_SHARED_SOCKET 環境変数が FALSE に設定されていることを確認します。

FS-10078: グループ %s のリソースのリソース再起動ポリシーの再設定中にエラーが発生しました。

原因: 指定したグループのリソースに対する再起動ポリシーを再設定できません。

処置: 指定したグループ内のリソースに対する再起動ポリシーが正しいことを確認します。デフォルト設定は、再起動するすべてのリソースに対するものであり、グループに影響します。

FS-10080: ネットワーク名リソースの検証に失敗しました。

原因: ネットワーク名リソースを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10081: クラスタの複数ノード上に Oracle データベース・インスタンス %s があります。

原因: クラスタの複数ノード上に、Oracle データベース・インスタンスが存在しています。

処置: スタンドアロン・データベースの Oracle データベース・インスタンスは、クラスタの一方のノードにのみ常駐します。「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを発行して（「トラブルシューティング」→「スタンドアロン・データベースの検証」）、クラスタ環境をクリーン・アップし、再度データベースをグループに追加します。

FS-10082: Oracle データベース・インスタンス %s はすでに存在しています。

原因: 指定した Oracle データベース・インスタンスは、ノードにすでに存在しています。

処置: ノードから指定した Oracle データベース・インスタンスを削除し、操作を再試行します。

FS-10084: スタンドアロン・リソースによって使われるディスク %s は、ノード %s 上ではオンラインではありません。

原因: スタンドアロン・リソースはノード %s 上にありますが、リソースが使用するディスクはオフラインになっているか、別のノード上でオンラインになっています。

処置: ディスクがオフラインの場合は、MSCS クラスタ アドミニストレータを使用してオンライン化します。別のノード上でオンラインになっている場合は、MSCS クラスタ アドミニストレータを使用して、指定したディスクを含むグループを別のノードに移動します。グループ内の他のリソースがある場合は、新規グループを作成してそのグループにディスクを移動し、スタンドアロン・リソースが置かれているノード上に新規グループを移動することを検討してください。

FS-10085: この操作によって指定されたインスタンス名 %s はインスタンス名 %s (ネット・サービス名 %s で見つかった) と同じではありません。

原因: 不適切な SID 名が指定されている可能性があります。

処置: データベースに対して正しい SID 名を指定していることを確認します。

FS-10086: 詳細はクラスタ・ログを参照してください。

原因: クラスタは、リソースをオンライン化できません。

処置: 理由に関する詳細情報はクラスタ・ログを参照してください。

FS-10087: Oracle Net の構成がサポートされていません。

原因: システム上の Oracle Net の構成がサポートされていません。

処置: 説明は、副次的エラーを参照してください。

FS-10088: データベース・インスタンスを扱うリスナーは、複数のホストと異なるポートでリスニング中です。

原因: そのデータベース・インスタンスを扱うリスナーは、複数のホストと異なるポート番号をリスニング中です。このタイプの構成はサポートされていません。

処置: Oracle Services for MSCS は、複数ホストを同じポート番号を使用してリスニングするリスナーをサポートしています。可能な場合は、リスナーの構成をそれに従って変更してください。

FS-10089: ネットワーク名リソース %s がオンラインではありません。

原因: ネットワーク名リソースがオンライン状態にありません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10090: ノード %s での Oracle Net の変更をロールバックしています。

原因: 指定したノードでの Oracle Net の変更をロールバックしています。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10091: Oracle Net リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリに登録できませんでした。

原因: 持続クラスタ・レジストリ (PCR) へのリスナー情報の登録操作でエラーが発生しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10092: Oracle Net リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリから削除できませんでした。

原因: 持続クラスタ・レジストリ (PCR) からのリスナー情報の削除操作でエラーが発生しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10093: 指定した操作ではクラスタ・ノード %s が必要ですが、現在は使用できません。

原因: 指定したクラスタ・ノードが停止しているか、クラスタ・サービスがノード上で稼働していません。

処置: 指定したクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-10094: Oracle Net リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリから取り出せませんでした。

原因: 指定したクラスタ・ノードが停止しているか、クラスタ・サービスが稼働していません。

処置: 指定したクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-10095: クラスタにあるノードは1つのみなので、グループを移動できません。

原因: グループを移動するには、少なくとも2つのクラスタ・ノードが必要です。

処置: クラスタに別のノードを追加してください。

FS-10096: グループの移動には宛先ノードを指定する必要があります。

原因: クラスタには3つ以上のノードがあるため、宛先ノードの指定が必要です。

処置: 宛先ノードを指定してください。

FS-10097: ノード %s と %s では最高データベース・バージョンの Oracle ホームで Oracle Net デフォルト・ドメインが一致しません。

原因: Oracle Net デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10098: クラスタ・ノード間で一貫性の無い Oracle Net デフォルト・ドメインはデータベースへのアクセスで問題となる可能性があります。

原因: Oracle Net デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: Oracle Net デフォルト・ドメインがクラスタ・ノード間で一致するようにします。

FS-10099: データベース・リソース %s は非所有者ノードからのデータベースへのアクセスには使用できません。ドメイン名が必要です。

原因: Oracle Net デフォルト・ドメインが必要です。

処置: データベース・リソース名にドメイン名を追加します。

2.3 FS-10100 ~ FS-10149

FS-10100: 子プロセス内の要求された操作はタイムアウトになりました。

原因: 子プロセスで要求された操作がタイムアウトになり、完了できません。

処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、その問題（ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10101: クラスタ上のユーザー %s¥%s の認証に失敗しました。

原因: クライアントを認証できません。

処置: Oracle Fail Safe Manager インタフェースからクラスタ接続を確立するときにこのエラーを受け取った場合は、正しいユーザー名とパスワードを入力していることを調べます。クラスタ・サーバー・サービスがローカル・ノード上で稼働中であることも確認します。Oracle Enterprise Manager コンソールから「編集」機能を使用するときこのエラーを受け取った場合は、有効な優先接続情報リストを持っていることを確認します。優先接続情報リストを変更するには、Oracle Enterprise Manager の「ファイル」メニューの「設定」をクリックし、サービスのリストからクラスタ別名を選択します。そして、クラスタにアクセスするための有効なユーザー名（クラスタ・ドメインを含む）とパスワード（クラスタのドメイン管理者のアカウントとパスワード）を入力します。

FS-10102: クラスタ上でのクライアントの擬似作成に失敗しました。

原因: クライアントを擬似作成できません。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10103: Oracle Services for MSCS は、クライアント・コンテキストの有効性検査に失敗しました。

原因: このエラーは通常、Oracle Fail Safe Manager が Oracle Services for MSCS との接続を失ったことを意味します。

処置: 「ファイル」メニューの「クラスタ接続の変更」をクリックし、クラスタ接続を指定しなおして、Oracle Services for MSCS に再接続します。

FS-10104: Oracle Services for MSCS でメモリーが不足しています。

原因: Oracle Services for MSCS でメモリーが不足している状態です。

処置: Oracle Services for MSCS が使用できるメモリーを増やしてください。

FS-10105: 要求した操作はノード %s 上で実行される必要があります。

原因: 要求された操作は、特定のノード上で実行される必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager が、適切なノードに要求を転送します。

FS-10106: Oracle Services for MSCS によって通知されたエラー・メッセージはありません。

原因: Oracle Services for MSCS はエラーを報告しませんでした。

処置: 問題（実行している操作に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10107: クラスタワイド操作に対するロックの取得に失敗しました。

原因: クラスタワイド操作に対するロックを取得できません。すでに進行しているクラスタワイド操作が、ロックを保持している可能性があります。

処置: 現在実行中の操作が完了するまで数分待ってから、操作を再試行します。クラスタワイド操作が実行されていない場合は、MSCS クラスタ アドミニストレータを使用して、クラスタ・グループの Oracle Services for MSCS を停止してから再起動します。次に、別のノード（クラスタ・グループを実行していないノード）上で、Oracle Services for MSCS を再起動するために、Windows の「コントロール パネル」プログラム・グループの「サービス」をダブルクリックし、「OracleMSCSServices」サービスを停止してから起動します。

FS-10109: クラスタ・ネットワークの一覧に失敗しました。

原因: クラスタ・ネットワークを一覧表示できません。

処置: クラスタ・サーバーがローカル・システム上で稼働中であることを確認します。

FS-10110: グループは整合性がとれていません。グループ %s に依存オブジェクトがありません。

原因: 検証操作によって、指定した依存オブジェクトがグループにないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループを削除し、再作成してから再移入します。あるいは、問題（クラスタ構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10111: グループ %s の検証に失敗しました。

原因: グループの検証で、エラーが検出されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10112: リソース %s の検証に失敗しました。

原因: グループ内の指定したリソースが、検証に成功しませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10113: %s のリソース依存性の検証に失敗しました。

原因: グループ内の指定したリソースが、リソース依存性の検証に成功しませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10115: Oracle データベース・インスタンス %s をノード %s 上に作成できませんでした。

原因: 指定した Oracle データベース・インスタンスの作成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10116: ディスク %s のリソース情報の取得に失敗しました。

原因: ローカル・クラスタからディスク・リソース情報を取得できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10117: グループに対する操作が失敗しました。リソースが保留中または失敗した状態です。リソースをチェック後再試行します。

原因: 指定したグループには、保留状態または障害が発生した状態のリソースがあります。リソースがこのどちらかの状態にある間、グループに対する操作は実行できません。

処置: リソースが保留状態または障害が発生した状態ではないときに、再試行します。

FS-10118: グループ %s の移動が完了するまでの待機に失敗しました。

原因: 「グループを別のノードに移動」操作の完了を待機中に、障害が発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10119: グループが宛先ノードに常駐できませんでした。

原因: グループを移動するコールは、成功しました。ただし、移動操作の完了後もグループが元のノードに常駐しています。そのグループが宛先ノードからフェイルバックしたか、もしくはクラスタ・ソフトウェアにエラーが発生しました。

処置: 問題がフェイルバックによるものであれば、グループをオフラインにして「グループを別のノードに移動」操作を再試行します。次に、宛先ノードで、個々のリソースをオンラインに戻して、どのリソースがフェイルバックの原因となったのかを判断します。問題がクラスタ・ソフトウェア内のエラーによるものであれば、そのクラスタ・ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

FS-10120: リソース %s を見つけられません。

原因: 要求されたリソースを見つけることができません。

処置: 正しいリソース名を入力していることを確認します。

FS-10121: ORACLE_HOME 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: ORACLE_HOME 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: ORACLE_HOME が正しく構成されていることを確認します。

FS-10122: NLS_LANG 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: NLS_LANG 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: NLS_LANG が正しく構成されていることを確認します。

FS-10123: Oracle Net 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: Oracle Net 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: Oracle Net が正しく構成されていることを確認します。

FS-10124: ORA_<sid>_PWFIL 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: ORA_<sid>_PWFIL 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: ORA_<sid>_PWFIL が正しく構成されていることを確認します。

FS-10125: サポートされている記憶リソースをクラスタ内に見つけれません。

原因: サポートしている記憶リソースをクラスタ内で見つけることができませんでした。

処置: カスタム記憶リソース・タイプがクラスタ内で使用されている場合、Oracle Services for MSCS が記憶リソース・タイプをサポートするために、リソース・タイプは、そのリソース DLL 内のリソース制御関数 CLUSCTL_RESOURCE_STORAGE_GET_DISK_INFO をサポートする必要があります。

FS-10126: このグループ %s 用のネットワーク名リソースが必要ですが、見つかりませんでした。

原因: このグループ内のリソースにはネットワーク名リソースが必要ですが、グループ内にネットワーク名リソースが見つかりませんでした。

処置: グループにネットワーク名リソースを追加します。

FS-10127: このグループ %s 用のリスナー・リソースが必要ですが、見つかりませんでした。

原因: このグループ内のリソースにはリスナー・リソースが必要ですが、グループ内にリスナー・リソースが見つかりませんでした。

処置: グループにリスナー・リソースを追加します。

FS-10128: グループ %s はリスナー・リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

原因: グループはリスナー・リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

処置: グループからリスナー・リソースを削除します。

FS-10129: グループ %s は Oracle Intelligent Agent リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

原因: グループは Oracle Intelligent Agent リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

処置: グループから Oracle Intelligent Agent リソースを削除します。

FS-10130: グループ %s への Oracle Intelligent Agent の追加に失敗しました。

原因: グループに Oracle Intelligent Agent を追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10131: グループ %s からの Oracle Intelligent Agent の削除に失敗しました。

原因: グループから Oracle Intelligent Agent を削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10132: グループ %s の Oracle Intelligent Agent 情報の問合せに失敗しました。

原因: グループの Oracle Intelligent Agent 情報を問い合わせることができません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10133: グループ %s の Oracle Intelligent Agent 情報の変更失敗しました。

原因: グループの Oracle Intelligent Agent 情報を変更できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10134: Windows レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報へのアクセスまたは変更失敗しました。

原因: Windows レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報へのアクセスまたは変更ができません。

処置: Windows レジストリを調べます。

FS-10135: Oracle Intelligent Agent 構成ファイルの移動に失敗しました。

原因: Oracle Intelligent Agent 構成ファイルを移動できません。

処置: そのグループの Oracle Intelligent Agent がオンラインになっていないことを調べます。また、Oracle Intelligent Agent が使用した以前のディスクと新規ディスクがオンラインになっていることも調べます。

FS-10136: Oracle Intelligent Agent の Windows サービス %s をノード %s に作成できませんでした。

原因: Oracle Intelligent Agent の Windows サービスの作成が失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10137: Windows レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報の作成に失敗しました。

原因: Windows レジストリ内への Oracle Intelligent Agent 情報の作成が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10138: Windows レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報の訂正に失敗しました。

原因: Windows レジストリ内の Oracle Intelligent Agent 情報の訂正が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10139: Oracle Intelligent Agent の実行環境格納ファイルの読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Intelligent Agent の実行環境格納ファイルを読み込めません。この情報がないと、Oracle Intelligent Agent を検証できません。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループからエージェントを削除し、次にエージェントを再構成します。

FS-10140: Oracle Intelligent Agent 構成パスは、グループにないディスクを参照しています。

原因: Oracle Intelligent Agent 構成パスは、グループにないディスクを参照しています。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループから Oracle Intelligent Agent を削除し、次に Oracle Intelligent Agent を再構成します。

FS-10141: Oracle データベース・インスタンス %s をノード %s 上から削除できませんでした。

原因: Oracle データベース・インスタンスの作成が失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10142: Oracle Intelligent Agent %s は、完全には削除されていません。

原因: Oracle Intelligent Agent のために作成された一部の Oracle Fail Safe 構成情報が、Windows レジストリ内に残っている可能性があります。

処置: 問題（ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成と、副次的エラーに関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10143: 次のいずれかの Oracle DLL のロードに失敗しました : %s

原因: 指定した Oracle DLL をロードできません。

処置: 検索パスに、正しい Oracle ホームの bin ディレクトリが含まれていることを確認します。

FS-10144: サポートされていないバージョンの Oracle データベース・サーバーが見つかりました。

原因: システム上で見つかった Oracle データベース・サーバーのバージョンがサポートされていません。

処置: サポートされている Oracle データベース・サーバーのバージョンをインストールします。

FS-10145: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンが、%s Oracle ホーム（ノード %s）にインストールされていません。

原因: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンが、指定した Oracle ホームにインストールされていません。

処置: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンを、指定した Oracle ホームにインストールします。

FS-10146: Oracle Enterprise Manager の TCL スクリプトを生成するための有効な位置を見つけられません。

原因: Oracle Enterprise Manager がクラスタを検出するために使用する、TCL スクリプトを作成するための有効な位置を見つけることができません。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10147: リソース依存性レベルを判別中のエラー。

原因: グループのリソースの依存性レベルを判別しているときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10048: Oracle Intelligent Agent リソース %s の作成に失敗しました。

原因: 指定した Oracle Intelligent Agent リソースを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10149: グループからのクラスタ・ディスクの削除に失敗しました。

原因: グループからクラスタ・ディスクを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.4 FS-10150 ~ FS-10199

FS-10150: ファイル %s は、使用不能なクラスタ・ディスク（グループ %s、ノード %s）にあります。

原因: 指定したファイルは、現在このノードから使用できないクラスタ・ディスクに常駐しています。

処置: そのクラスタ・ディスクが常駐しているグループを、このノードに移します。

FS-10151: パラメータ・ファイルを開くことができません。

原因: その操作に対するパラメータ・ファイルを開けません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10152: クラスタ・リソース名 %s はすでに存在します。

原因: 指定したクラスタ・リソースは、すでに存在しています。

処置: 一意のクラスタ・リソース名を指定します。

FS-10153: %s に対するデータベース情報の問合せが失敗しました。

原因: 指定したデータベースに関する情報を取得できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10154: データベース・バージョン %d.%d.x では、オフライン・モードは無効です。

原因: そのデータベースに対して指定したオフライン・モードは、指定したデータベースのバージョンには無効です。

処置: 指定したデータベースのバージョンに有効なオフライン・モードを指定します。たとえば、transactional モードは 8.1.5 以上のデータベースでのみ有効です。

FS-10155: データベース %s（ノード %s）には他のノード上のパスワード・ファイルより 1 時間以上古いパスワード・ファイルがあります。

原因: 指定したデータベースの指定したクラスタ・ノード上のパスワード・ファイルは、他のクラスタ・ノード上のパスワード・ファイルより 1 時間以上古いものです。

処置: 指定したデータベースに対するすべてのパスワード変更が、指定したノード上で行われたことを確認してください。

FS-10156: スタンドアロン・データベース・リソース %s はノード %s に構成されます。

原因: 指定したノードが指定したスタンドアロン・データベース・リソースの所有者として選択されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10157: スタンドアロン・データベース・リソース %s を検証するには、所有者ノードを選択する必要があります。

原因: 指定したスタンドアロン・データベース・リソースの所有者となるノードを、ノード選択リストから1つ選択します。

処置: 「スタンドアロン・データベースの検証」を再度実行して、選択します。

FS-10158: データベース・インスタンス %s が複数ノードに存在します。スタンドアロン・データベース・リソースは1ノードのみ存在できます。

原因: スタンドアロン・データベース・リソースのデータベース・インスタンスが、クラスタの複数のノード上に存在しています。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10159: ノード・リストからスタンドアロン・データベース・リソース %s が常駐するノードを選択してください。

原因: スタンドアロン・データベース・リソースが常駐する必要のあるノードが指定されていません。

処置: 選択してください。リストから、ノードを1つ選択します。

FS-10160: スタンドアロンの Oracle データベース %s の検証に失敗しました。

原因: Oracle データベースの検証が失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10161: Oracle データベース %s (所有していないノード %s 内) への参照を削除しようとしていますが、失敗しました。

原因: Oracle データベースが常駐していないクラスタ・ノード上の、そのデータベースへの参照を削除しようとしてしました。

処置: 指定したノード上の Oracle Net ファイルのデータベースへの参照を調べます。

FS-10162: 選択していないノードのインスタンスは削除されます。

原因: 選択していないノード上のインスタンスが削除されます。

処置: 他のノードからインスタンスを削除してもいいかどうか、確認します。

FS-10163: サービス名が %s、SID が %s のデータベースは MSCS リソース %s であり、スタンドアロン・データベースではありません。

原因: スタンドアロン・データベースではなく、高可用性のために構成されたデータベースが検証のために指定されました。

処置: そのデータベースを含むグループに対して「グループの検証」を実行します。「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドで検証できるのは、スタンドアロン・データベースのみです。

FS-10164: Oracle database%s では Is Alive ポーリングは使用不可です。

原因: このデータベースに対する Is Alive ポーリングは、FSCMD アクションの DISABLEISALIVE によって使用不可にされています。

処置: FSCMD アクションの ENABLEISALIVE を使用して、このデータベースに対する Is Alive ポーリングを再度使用可能にします。

FS-10165: Oracle Real Application Clusters database のインスタンス %s では Is Alive ポーリングは使用不可です。

原因: このデータベース・インスタンスに対する Is Alive ポーリングは、ORACGCMD アクションの DISABLEISALIVE によって使用不可にされています。

処置: ORACGCMD アクションの ENABLEISALIVE を使用して、このデータベース・インスタンスに対する Is Alive ポーリングを再度使用可能にします。

FS-10166: スタンドアロン・データベースの検証中に、Oracle Net の構成に失敗しました。

原因: スタンドアロン Oracle データベースの検証中に Oracle Net を構成しようとしたが、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10167: %s サービス名エントリ内の SID の値とユーザーが指定した値の違いを解決できません。

原因: 指定したサービス名に対するエントリは tnsnames.ora ファイルにありましたが、その SID はユーザーが入力した SID と一致しません。

処置: 「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドでは、サービス名から SID へ正しくマッピングされている必要があります。入力値が正しく指定されていることを確認します。tnsnames.ora に、サービス名と SID のマッピングが正しくないエントリがある場合は、tnsnames.ora ファイルを修正し、「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを再実行します。

FS-10169: リソース %s はグループ %s のクラスタ・ディスクを使用しており、グループ %s と同じノードにはありません。グループ %s を移動しますか？

原因: 指定したリソースは、他のノード上のクラスタ・ディスクを使用しています。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したクラスタ・ディスクを含むグループを移動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10170: ネット・サービス名 %s に SID または SERVICE_NAME パラメータが存在しません。

原因: サービス名エントリには、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータが必要です。

処置: サービス名エントリに、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータを追加します。

FS-10171: ネット・サービス名エントリに (SID=%s) を追加してください。8.1.5 以降では (SERVICE_NAME=...) パラメータを使用できます。

原因: サービス名エントリには、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータが必要です。

処置: サービス名エントリに、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータを追加します。

FS-10172: %s サービス名エントリ内の SERVICE_NAME パラメータ値は、データベース・パラメータ・ファイル内の値と一致する必要があります。

原因: サービス名エントリ内の SERVICE_NAME パラメータの値は、データベース・パラメータ・ファイル内の値と一致する必要があります。

処置: SERVICE_NAME パラメータの正しい値を判断し、それに従って変更します。

FS-10173: Oracle データベース・ホームの最高バージョンの取得に失敗しました。

原因: Oracle データベース・ホームの最高バージョンを取得できません。

処置: このエラーによる問題は発生しません。Oracle Services for MSCS は、パスから DLL ファイルをロードしようとします。副次的エラーを参照してください。

FS-10174: 現行のディレクトリの取得に失敗しました。

原因: 現行のディレクトリを取得できませんでした。

処置: このエラーによる問題は発生しません。Oracle Services for MSCS は、パスから DLL ファイルをロードしようとします。副次的エラーを参照してください。

FS-10175: メモリーを %s に割り当てられません。

原因: 指定したルーチンにメモリーを割り当てられません。

処置: 実行中の Oracle Services for MSCS 操作をすべて取り消し、Oracle Services for MSCS を再起動します。

FS-10176: NL パーサーのファイル %s のロードに失敗しました。

原因: 指定した DLL ファイルをロードできません。

処置: このエラーによる問題は発生しません。副次的エラーを参照してください。

FS-10177: NL パーサーの DLL ファイルをロードできません。

原因: ロードできる NL パーサーの DLL ファイルがありません。

処置: 『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows インストレーション・ガイド』または『Oracle Fail Safe for Windows インストレーション・ガイド』を参照してください。

FS-10178: NL パーサーの DLL には記号 %s が見つかりません。

原因: 指定した記号が NL パーサーの DLL にありません。

処置: 『Oracle Fail Safe for Windows インストレーション・ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows インストレーション・ガイド』を参照してください。

FS-10179: NL パーサーの DLL ファイルに関連した問題が、ファイル %s を開いたときに発生しました。

原因: 副次的エラーのため、指定したファイルを開けません。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-10180: ファイル %s が見つかりません。

原因: 指定したファイルが見つかりません。

処置: 指定したファイルは存在するはずです。見つからない理由を確認してください。

FS-10181: NLEPE スタックからのステータス: emfi[%d] err_code[%d] flag[%d] os[%d]

原因: NL パーサー・エラー・コードのスタック。

処置: スタック内に見つかったエラーによる問題は発生しません。ただし、Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard で失敗した操作がある場合は、エラー・スタックをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10182: NL パーサーによって返されたエラーのため、ファイル %s のエントリが読み込めません。

原因: 指定したファイルのエントリが一部読み込めません。

処置: ファイル内の不適切なエントリを特定して修正するか、もしくはそのエラー・メッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10183: エントリの構文エラーのため、ファイル %s のエントリが読み込めません。

原因: 指定したファイルのエントリが一部読み込めません。

処置: ファイル内の不適切なエントリを特定して修正するか、もしくはそのエラー・メッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10184: NL パーサーによって返されたエラーのため、NL パーサーのコンテキストが作成できません。

原因: NL パーサーのコンテキストを作成できません。

処置: エラー・メッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10185: NL パーサーによって返されたエラーのため、NL パーサーのコンテキストを閉じることができませんでした。

原因: NL パーサーのコンテキストがエラーを返したため、閉じることができませんでした。

処置: エラー・メッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10186: ファイルへの書き込み時に一致しない引用文字列が見つかりました。文字列は次のとおりです: %20.20s

原因: 一致する引用符のない引用文字列があります。

処置: ファイル内の文字列を特定し、問題箇所を修正してください。

FS-10187: NL パーサーによって返されたエラーのため、関数 `nlpaseq` が失敗しました。

原因: NL パーサーの `sequence` 関数が失敗しました。

処置: スタック内に見つかったエラーによる問題は発生しません。ただし、Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard で失敗した操作がある場合は、エラー・スタックをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10188: NL パーサーによって返されたエラーのため、名前 %s に対する関数 `nlpagas` が失敗しました。

原因: NL パーサーの `get` 関数が失敗しました。

処置: スタック内に見つかったエラーによる問題は発生しません。ただし、Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard で失敗した操作がある場合は、エラー・スタックをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10189: NL パーサーによって返されたエラーのため、名前 %s に対する関数 `nlpassp(s)` が失敗しました。

原因: NL パーサーの `set` 関数が失敗しました。

処置: スタック内に見つかったエラーによる問題は発生しません。ただし、Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard で失敗した操作がある場合は、エラー・スタックをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10190: `nlspfile` 関数を使用した、ファイル %s へのエントリの書き込みはサポートされていません。

原因: ロードされた NL パーサーの DLL は、`nlspfile` 関数をサポートしていません。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10191: ファイル %s を書き込みのために開くことができません。

原因: 指定したファイルを書込みのために開くことができません。

処置: 指定したファイルを確認して問題の原因を特定します。

FS-10192: ファイル %s が正常に開きました。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10193: 静的記号 %s が見つかりません。

原因: 特定の記号が見つかりません。

処置: 内部でのみ使用されます。処置は必要ありません。

FS-10194: NL パーサーのハンドルが無効です。

原因: ハンドルが無効です。

処置: 内部でのみ使用されます。問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10195: パラメータが無効です。

原因: パラメータが無効です。

処置: 内部でのみ使用されます。問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10196: ファイル %s への書込みに失敗しました。

原因: 指定したファイルに対する書込み操作が失敗しました。

処置: 指定したファイルを確認して問題の原因を特定します。

FS-10197: エントリ %s がルーチン %s で NL パーサーによってパースされたファイルに見つかりません。

原因: NL パーサーにより解析されたファイルに指定したエントリが見つかりません。

処置: これは通知メッセージである場合があります。このメッセージに関連する 1 次エラーがある場合は、エントリを作成する適切な方法を見つけてください。

FS-10198: NL パーサー NLNV エラー・コード %d がルーチン %s からルーチン %s より呼び出されて返されました。

原因: 指定したエラー・コードおよびその他の情報の NLNV 操作が失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。副次的エラーを使用しても問題が解決できない場合は、このエラーおよび副次的エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10199: NL パーサーに渡された文字列: %s

原因: 指定した文字列の NLNV 操作が失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。副次的エラーを使用しても問題が解決できない場合は、エラーおよび副次的エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.5 FS-10200 ~ FS-10249

FS-10203: ディスク・リソース %s のグループはクラスタ・リソース %s に依存しているため変更できません。

原因: ディスクはその現行グループ内のクラスタ・リソースに依存しているため、そのディスク・リソースを他のグループに移動できません。

処置: ディスクのあるグループにリソースを追加するか、リソースを追加する前に MSCS クラスタ アドミニストレータを使用して、ディスクのリソースおよびそのリソースが依存する全リソースを、リソースの検索先であるグループへと変更します。

FS-10204: 持続クラスタ・レジストリには、これ以上リスト項目が存在しません。

原因: 持続クラスタ・レジストリ内のリストの終わりに達したため、要求された項目を返すことができません。

処置: これはコール側コンポーネントへの通知状態です。処置は必要ありません。

FS-10205: エージェントがオンラインの場合、エージェントの構成ファイルを移動できません。

原因: エージェントがオンラインのため、構成ファイルを移動できません。

処置: エージェントをオフラインにしてから、構成ファイルの移動を再試行します。

FS-10209: データベース・リソース %s のデータベース・バージョンを取得できません。

原因: 指定したデータベースのバージョンを取得できません。このエラーは、データベースがオフラインの場合に発生します。

処置: データベースをオンラインにしてから、操作を再試行します。副次的なエラーを調べます。

FS-10210: ユーザー %s の認証に失敗しました。ドメイン・アカウントを指定する必要があります。

原因: アカウントがドメイン・アカウントではないため、クライアントを認証できませんでした。

処置: ドメイン・アカウントを使用してサーバーにログインします。

FS-10211: ユーザー %s の認証に失敗しました。ユーザーはすべてのクラスタ・ノードに対して管理者権限を持っていなければなりません。

原因: アカウントにはすべてのクラスタ・ノードに対する管理者権限がないため、クライアントを認証できませんでした。

処置: Oracle Fail Safe Manager へのログインに使用するアカウントが、すべてのクラスタ・ノードに対して管理者権限を持っていることを確認します。

FS-10212: Oracle Services for MSCS はクラスタの全ノード上に同じユーザー・アカウントでインストールする必要があります。

原因: Oracle Services for MSCS がクラスタの全ノード上に同じユーザー・アカウントでインストールされていません。

処置: 副次的メッセージを確認して異なるノードを特定し、変更する必要があるノードに対して Oracle Services for MSCS のセキュリティ設定ユーティリティを実行します。Oracle Services for MSCS のユーティリティを実行するには、Windows のタスクバーから、「スタート」→「プログラム」→「Oracle - <Oracle_Home>」→「Oracle Services for MSCS Security Setup」の順にクリックします。

FS-10213: Oracle Services for MSCS はユーザー・アカウント %s でノード %s にインストールされます。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10218: %s に必要な依存性を追加するには、リソース %s をオフラインにする必要があります。%s をオフラインにしますか？

原因: オンラインのリソースに依存性を追加できません。

処置: Oracle Services for MSCS でリソースをオフラインにし、依存性を追加した後で再びオンラインにする場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。依存性を追加しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10219: %s に必要な依存性を追加するには、リソース %s をオフラインにする必要があります。

原因: 指定したリソースには必要な依存性が欠落しており、依存性を追加するためにオフラインにする必要があります。

処置: 「グループの検証」操作を対話式に実行すると、必要な依存性を追加する前に指定したリソースをオフラインにするように求められます。

FS-10220: ネットワーク名 %s はクラスタ・リソース内の IP アドレス %s にマップされますが、システム上の IP アドレス %s にもマップされます。

原因: IP アドレスのマッピング・エラーが発生しました。

処置: ネットワーク名に対する IP アドレス・マッピングがクラスタとシステムで同じになる必要があります。ネットワーク名サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルのどちらかに、クラスタと同じ IP アドレス・マッピングがあるかどうかを調べてください。

FS-10221: グループ %s が作成されましたが、グループには次の問題があります：

原因：グループは作成されましたが、IP アドレスとネットワーク名の間にアドレス・マッピング・エラーがあります。

処置：ネットワーク名に対する IP アドレス・マッピングがクラスタとシステムで同じになる必要があります。ネットワーク名サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルのどちらかに、クラスタと同じ IP アドレス・マッピングがあるかどうかを調べてください。（詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照。）

FS-10222: ネットワーク名 %s をノード %s 上の IP アドレスに解決できません。

原因：ホスト名リゾルバ (gethostbyname) が、ネットワーク名を解決できません。

処置：ネットワーク名の解決に使用されるネットワーク管理データベースに、ネットワーク名が定義されているかどうかを調べます。

FS-10223: 副次的エラーにより、ネットワーク名 %s を有効性検査の目的でシステム上の IP アドレスに解決することができません。

原因：副次的エラーで示されている問題によって、ホスト名リゾルバ (gethostbyname) がネットワーク名を解決できません。

処置：Windows Socket 定義ファイルまたはマニュアルで、副次的エラーの原因を調べます。

FS-10224: グループ %s は、ネットワーク名および IP アドレス・リソースの両方を含んでいません。

原因：指定したグループは、ネットワーク名と IP アドレス・リソースの両方を含んでいません。

処置：ネットワーク名リソース、IP アドレス・リソース、またはその両方をグループに追加します。

FS-10225: IP アドレス %s はホスト %s (Winsock) に解決されますが、%s のクラスタに依存するネットワーク名 (Netbios) があります。

原因：指定した IP アドレスに対して、ホスト名とネットワーク名の間に一貫性がありません。指定した IP アドレスは、Windows Socket (Winsock) 機能によって解決されるホスト名を持っていて、それがクラスタ内で定義されたネットワーク名とは異なります。

処置：その不一致を解決するために、Winsock 定義 (DNS またはホスト・ファイル) とクラスタ内のネットワーク名定義のどちらかを変更します。

FS-10226: リソース %s は依存するネットワークを必要としますが、グループ %s 内に配置できませんでした。

原因: 指定したリソースの依存性リストにはネットワーク名と IP アドレスが必要です。が、どちらも見つかりませんでした。

処置: ネットワーク名リソース、IP アドレス・リソース、またはその両方をグループに追加して、指定したリソースに対する必要な依存性をマップします。

FS-10227: リソース %s はクラスタ・ディスクを必要としますが、グループ %s 内には見つかりませんでした。

原因: 指定したクラスタ・リソースには、クラスタ・ディスクが必要です。しかし、グループ内にそのディスクがありません。

処置: グループから問題となったリソースを削除して、再度追加します。

FS-10228: リソース %s は、クラスタ・ディスク %s を必要とします。これはグループ %s 内に存在しません。

原因: 指定したクラスタ・リソースには、指定したクラスタ・ディスクが必要です。しかし、グループ内に指定したディスクがありません。

処置: 指定したグループにクラスタ・ディスクを追加するか、もしくはグループから問題となったリソースを削除して、再度追加します。

FS-10229: リソース %s はネットワーク名リソースへの依存性がありません。

原因: 指定したリソースには必要なネットワーク名への依存性がありません。

処置: 「グループの検証」操作を再度実行して、指定したリソースのネットワーク名リソースへの依存性を確立します。

FS-10230: Oracle Net リスナー %s はホスト・アドレス・パラメータのホスト名を使用します。IP アドレス使用の為に変換する必要があります。

原因: Oracle Services for MSCS では、起動されたすべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10231: リスナーは現在実行中です。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10232: リスナーは現在停止しています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10233: リスナーを停止し、ホスト名を IP アドレスに変換し、その後リスナーを再起動しますか？

原因：Oracle Services for MSCS では、起動されたすべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置：Oracle Services for MSCS Server でリスナーを停止し、ホスト名を IP アドレスに変換してリスナーを再起動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10234: Oracle Services for MSCS でホスト名を IP アドレスに変換し、リスナーを起動しますか？

原因：Oracle Services for MSCS では、起動されたすべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置：Oracle Services for MSCS でホスト名を IP アドレスに変換してリスナーを起動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10235: 関連アクションを実行するには、リスナー %s を停止する必要があります。

原因：関連アクションを実行するために、このリスナーを停止する必要があります。

処置：副次的メッセージを参照してください。

FS-10236: パスワードは、データベースがオフラインの場合変更できません。パスワードの変更前にデータベースをオンラインにしてください。

原因：データベースがオンラインではないときに、データベースに対するパスワードの変更が試行されています。

処置：データベースのパスワードを変更する前に、データベースをオンラインにします。

FS-10237: パスワードは、全インスタンスがオフラインの場合変更できません。パスワード変更前にインスタンスをオンラインにしてください。

原因：すべてのデータベース・インスタンスがオフラインのときに、Real Application Clusters データベースに対するパスワードの変更が試行されています。

処置：データベースのパスワードを変更する前に、データベース・インスタンスをオンラインにします。

FS-10238: データベース・ユーザー %s のパスワードは変更されませんでした

原因：指定したデータベース・ユーザーに対するパスワードの変更が試行されています。

処置：副次的エラーを参照してください。

FS-10240: IP アドレスを使用して Oracle Net リスナー %s の構成に失敗しました。

原因: 指定した Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用するように再構成できませんでした。

処置: すべての Oracle Net リスナーの構成を調べます。すべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用するように、手動で再構成することを試行します。

FS-10241: 現在の操作を続行するためには、Oracle Net リスナー %s は IP アドレス使用の為に変換する必要があります。

原因: Oracle Services for MSCS では、起動されたすべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: システム上のリスナーを再構成して、起動しているすべての Oracle Net リスナーが IP アドレスを使用していることを確認します。

FS-10242: ホスト %s の IP アドレスの取得に失敗しました。

原因: 指定したホストの IP アドレスを取得できませんでした。

処置: システムの TCP/IP 構成のネーム・サービスを調べてください。

FS-10243: 試みた操作は、このバージョンのデータベースではサポートされません。

原因: そのデータベースのバージョンは、試行された操作をサポートしていません。

処置: この操作のための正しいバージョンのデータベースを使用してください。

FS-10244: データベース・インスタンス %s ではサポートされていない AUTOSTART オプションがオンに設定されました。変更しますか？

原因: データベース・インスタンスで、Windows レジストリの変数 ORA_<sid>_AUTOSTART がオン (TRUE) に設定されています。データベースがフェイルセーフになるためには、このオプションはオフ (FALSE) に設定されている必要があります。

処置: Oracle Services for MSCS で Windows レジストリの設定を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。設定を自分で変更する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10245: データベース・インスタンス %s ではサポートされていない SHUTDOWN オプションがオンに設定されました。変更しますか？

原因: データベース・インスタンスで、Windows レジストリの変数 ORA_<sid>_SHUTDOWN がオン (TRUE) に設定されています。データベースがフェイルセーフになるためには、このオプションはオフ (FALSE) に設定されている必要があります。

処置: Oracle Services for MSCS で Windows レジストリの設定を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。設定を自分で変更する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10246: %s リスナーを変更するための操作を断りました。このリスナーの起動時に問題が発生する可能性があります。

原因: IP アドレスを使用するために Oracle Net リスナーを変更するための操作を断りました。

処置: 現時点で必要な処置はありません。IP アドレスを使用するには、起動する前にリスナーを変更してください。

FS-10247: この操作のために指定したデータベース・パラメータ・ファイル %s はレジストリのパラメータ・ファイル値を上書きします。

原因: レジストリのパラメータ・ファイル値がユーザーの入力値と異なります。この操作では、ユーザーの入力値が使用されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10248: レジストリ・キー %s、%s の値は %s です。

原因: これは、指定したレジストリの場所から取得されたデータベース・パラメータ・ファイルのレジストリ値です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10249: この操作のために指定したインスタンス名 %s はパラメータ・ファイルで見つかったインスタンス %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルの SID 値がユーザーの入力値と異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

2.6 FS-10250 ~ FS-10299

FS-10250: この操作のために指定したデータベース名 %s はパラメータ・ファイルで見つかったデータベース名 %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルのデータベース名値がユーザーの入力値と異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

FS-10251: サービス名パラメータ %s (ネット・サービス名 %s で見つかった) はパラメータ・ファイルで見つかった値 %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルのサービス名パラメータ値が、ネット・サービス名のエントリと異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

FS-10252: パラメータ値の違いを解決するにはパラメータ・ファイル %s をチェックしてください。

原因: この操作におけるユーザーの入力とパラメータ・ファイルのパラメータ値に違いが見つかりました。

処置: 指定したパラメータ・ファイルを確認し、違いを解決します。

FS-10253: Oracle TNS Listener %s のリソース・タイプを変換できません。

原因: 指定された Oracle TNS Listener リソースのリソース・タイプを、汎用サービスから Oracle TNS Listener リソース・タイプに変換できません。

処置: 副次的エラーを確認して、Oracle TNS Listener リソース・タイプが MSCS に登録されていることを確認します。そうでない場合は「クラスタの検証」を実行して Oracle TNS Listener リソース・タイプを登録し、必要ならば、各クラスタ・ノードでクラスタ・サービスを再起動して新しいリソース・タイプを選択します。

FS-10255: このノードに一意のデータベース・インスタンスの作成中にエラーが発生しました。削除してから再試行してください。

原因: サンプル・データベースはこのクラスタに一意のインスタンスを作成できません。

処置: 古いインスタンスを削除してから、再試行します。

FS-10256: データベース・パラメータ・ファイル %s が無効です。

原因: データベース・パラメータ・ファイルを解析しようとしているときに、エラーが発生しました。

処置: パラメータ・ファイル名を調べて、完全なファイル名を指定していることを確認します。

FS-10257: サンプル・ディスク・ドライブ %s の検査中にエラーが発生しました。

原因: 「サンプル・データベースの作成」操作で指定したディスク・ドライブが使用できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べてから、再試行します。

FS-10258: このシステムのネットワーク名の取得中にエラーが発生しました。

原因: GetComputerName のコールが失敗しました。

処置: このシステムの名前が有効かどうかを調べてから、再試行します。

FS-10259: Oracle Net のデフォルト・ドメイン名の取得中にエラーが発生しました。

原因: デフォルトのドメイン名を入手するためのコールが失敗しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10260: スタンドアロンのサンプル・データベース %s を作成しようとしたが、失敗しました。

原因: 「サンプル・データベースの作成」操作が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べてから、再試行します。

FS-10261: スタンドアロンのサンプル・データベース %s を削除しようとしたましたが、失敗しました。

原因: 「サンプル・データベースの削除」操作が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べてから、再試行します。

FS-10262: サンプル・データベース作成のスクリプト・ファイル %s を開けません。

原因: サンプル・データベース作成のスクリプト・ファイルを開けません。

処置: 「サンプル・データベースの作成」スクリプト・ファイルがインストールされているかどうかを調べます。

FS-10263: Oracle Fail Safe で作成されたサンプル・データベースではないので、データベースを削除できません。

原因: Oracle Fail Safe サンプル・データベースではないデータベースを削除する選択をしました。

処置: 削除には、Oracle Fail Safe サンプル・データベースのみを選択してください。(Oracle Fail Safe サンプル・データベースとは、Oracle Fail Safe Manager の「データベース」メニューの「サンプル・データベースの作成」コマンドで作成されたデータベースです。)

FS-10264: スタンドアロン・データベースは、Oracle Fail Safe でサンプル・データベースとして作成されていません。

原因: サンプル・データベース情報を Windows レジストリから読み取ることができません。

処置: 削除するデータベースがサンプル・データベースであることを確認します。また、データベースが常駐するノードの Windows レジストリ項目が破損されていないことも確認します。レジストリ・ツリーは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥Failsafe¥SampleDB となります。

前述のレジストリ・ツリーにある文字列の値は次のとおりです。

名前: FS_<sid>_DB

値: <sid>、<service name>、<database name>、<parameter file>、<disk drive>

それぞれの値は次のとおりです。

- <sid> はデータベース・インスタンス (例: OFS1)、
- <service name> はデータベースのサービス名 (例: Sample.world)、
- <database name> はデータベースの名前 (例: OFS1DB)、
- <parameter file> はデータベース・パラメータ・ファイルの名前 (例: S:¥OFSDB¥OFS1¥PARAM¥FS_INIT.ORA)、
- <disk drive> はサンプル・データベースが使用するドライブ (例: S:)

FS-10265: サービス名 %s を使ったサンプル・データベースは見つかりません。Windows レジストリ内のエントリーは削除されています。

原因: スタンドアロン・データベースの HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥Failsafe¥SampleDB 内のサービス名エントリーが無効です。

処置: レジストリ内のエントリーは削除されています。処置は必要ありません。

FS-10266: ディスク %s のインスタンス %s にあるサンプル・データベースのディレクトリ・ツリーを削除できません。

原因: サンプル・データベースのディレクトリ・ツリーを削除しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: このデータベースのサンプル・データベース・ファイルが入っているディレクトリを手動で削除します (<disk>¥ofsdbs¥<instance>¥...)。

FS-10267: サービス %s のサンプル・データベース Windows レジストリ情報を削除できません。

原因: サンプル・データベースの Windows レジストリ情報を削除しようとして、エラーが発生しました。

処置: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FAILSAFE¥SAMPLEDB¥FS_<INST>_DB にある、サンプル・データベースの Windows レジストリ情報を手動で削除します。

FS-10268: 無効なノード %s がサンプル・データベース %s に対して指定されました。

tnsnames.ora ファイル内のエントリーをチェックしてください。

原因: サンプル・データベースを削除しようとしたときに、エラーが発生しました。指定したノードは、クラスタの有効なノードではありません。

処置: サンプル・データベース情報は、tnsnames.ora ファイルから取得されます。エントリーを調べて、データベースに正しいホスト名が指定されていることを確認します。

FS-10269: サンプル・データベース・ファイルを作成しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: 「サンプル・データベースの作成」操作で、クラスタ・ディスク上にサンプル・データベースのディレクトリを作成してデータを移入しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10270: Oracle Fail Safe サンプル・データベースのファイルがインストール・ディレクトリまたは CD-ROM に存在しません。

原因: インストール・ディレクトリ <Oracle_Home>%s%fs%svr%sample または CD-ROM 上に、サンプル・データベース・ファイルが見つかりません。

処置: Oracle Fail Safe のインストールを再実行して、必要なサンプル・データベース・ファイルをインストールするオプション、または Oracle Fail Safe CD-ROM をロードするオプションを選択します。

FS-10271: クラスタのスタンドアロン・データベースを一覧しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: クラスタ内のスタンドアロン・データベースを一覧表示しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10272: スタンドアロン・データベース・ファイル %s を %s にコピーするときにエラーが発生しました。

原因: スタンドアロン・データベースのイニシャル・ファイルをコピーするときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10273: クラスタ・ノード %s のデータベース SID を一覧しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: データベース SID を一覧表示しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10274: サンプル・データベース・スクリプトをコマンド - %s で実行しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: サンプル・データベース・スクリプトを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10275: ディスク %s はノード %s でオンラインではないため指定された操作には使用できません。

原因: クラスタ・ディスク・リソースは、現在のノード上でオフラインであるか、他のクラスタ・ノードにマウントされています。

処置: 目的のノードに対してディスクをオンライン化します。

FS-10276: サンプル・データベース %s の変数ファイルの作成に失敗しました。

原因: サンプル・データベースを作成するために DBCA で使用される変数ファイルを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10277: Oracle Real Application Clusters 環境で、サンプルのシングル・インスタンス・データベースを作成できません。

原因:「サンプル・データベースの作成」操作は Oracle Real Application Clusters 環境ではサポートされていません。

処置: サンプル・データベースの作成には Database Configuration Assistant を使用します。

FS-10278: テンプレート・ディレクトリ %s が見つかりません。

原因: Oracle Fail Safe は、Database Configuration Assistant で使用されるテンプレート・ディレクトリを見つけることができません。

処置: Database Configuration Assistant が正しくインストールされていることを確認します。

FS-10280: リソースがオンラインになるまでの待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: リソースがオンラインになるまでに、保留タイムアウト・パラメータで指定した時間を超過しました。

処置: グループ内のすべてのリソース（オンライン状態にしようとしたリソース）が最終的にオンラインになっているかどうかを検証します。

FS-10281: ノード %s 上のグループを検証した結果、次の問題が見つかりました。問題の修正が要求されました。

原因: グループの検証中に問題が 1 つ以上見つかりました。このメッセージの次に、見つかった問題が一覧表示されます。問題の修復が要求されました。

処置: 修復に成功した場合は、処置は必要ありません。修復に失敗した場合は、手動で問題を解決してください。

FS-10282: ノード %s 上のグループを検証した結果、次の問題が見つかりました。問題の修正は要求されませんでした。

原因: グループの検証中に問題が 1 つ以上見つかりました。このメッセージの次に、見つかった問題が一覧表示されます。修復は要求されませんでした。

処置: 手動で問題を解決してください。

FS-10283: リスナー %s は %s で SID %s に定義されていますが古いようです。この Windows サービスが見つかりません。リスナーを削除します。

原因: この SID に対して複数のリスナーがあります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある listener.ora ファイルを調べて、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの Windows サービスも調べます。

FS-10284: リスナー %s は %s で SID %s に定義されていますが古いようです。この Windows サービス %s が起動していません。リスナーを削除します。

原因: この SID に対して複数のリスナーがあります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある listener.ora ファイルを調べて、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの Windows サービスも調べます。

FS-10285: リスナー %s は %s で定義されていますが古いようです。この Windows サービスが見つかりません。リスナーを削除します。

原因: 使用できるリスナーが複数あります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある listener.ora ファイルを調べて、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの Windows サービスも調べます。

FS-10286: リスナー %s は %s で定義されていますが古いようです。この Windows サービス %s が起動していません。リスナーを削除します。

原因: 使用できるリスナーが複数あります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある listener.ora ファイルを調べて、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの Windows サービスも調べます。

FS-10287: ディスク %s をグループから削除できません。リソース %s がディスクに依存しています。

原因: 他のリソースがそのディスクに依存しているため、指定したディスクをグループから削除できません。

処置: 処置は必要ありません。これは、単なる通知メッセージです。

FS-10288: パラメータ・ファイル %s がクラスタ・ディスク上に存在しません。

原因: データベース・パラメータ・ファイルがクラスタ・ディスク上にありません。データベースをオンライン化するには、全ノードの同じ場所でパラメータ・ファイルがアクセス可能である必要があります。

処置: パラメータ・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動するか、全ノードの同じ場所にパラメータ・ファイルをコピーします。

FS-10289: リモート・ディスク・ドライブがデータベースによってファイル %s に使用されています。

原因: データベース・ファイルによってリモート・ディスクが使用されています。データベースをオンライン化するには、全ノードでこのファイルがアクセス可能である必要があります。

処置: ファイルを共有ディスクに移動するか、全ノードでリモート・ディスクが使用可能であることを確認します。

2.7 FS-10300 ~ FS-10349

FS-10300: Oracle Net リスナーのリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Net リスナーのリソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10301: Oracle Net リスナーのリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Net リスナーのリソース依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10302: TNS リスナーのリソース %s のリソース・タイプを変更中です。

原因: TNS リスナーのリソースのリソース・タイプを変更しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10305: 汎用リソース %s を検証中です。

原因: 汎用リソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10306: 汎用リソース %s の依存性を検証中です。

原因: 汎用リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10307: %s リソース %s を検証中です。

原因: 指定したリソース・タイプの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10308: %s リソース %s の依存性を検証中です。

原因: 指定したリソース・タイプの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10310: IP アドレスのリソース %s を検証中です。

原因: IP アドレスのリソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10311: IP アドレスのリソース %s の依存性を検証中です。

原因: IP アドレスのリソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10315: ディスク・リソース %s を検証中です。

原因: ディスク・リソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10316: ディスク・リソース %s の依存性を検証中です。

原因: ディスク・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10320: データベース・リソース %s を検証中です。

原因: データベース・リソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10321: データベース・リソース %s の依存性を検証中です。

原因: データベース・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10325: ネットワーク名のリソース %s を検証中です。

原因: ネットワーク名のリソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10326: ネットワーク名のリソース %s の依存性を検証中です。

原因: ネットワーク名のリソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10330: Oracle Intelligent Agent のリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Intelligent Agent のリソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10331: Oracle Intelligent Agent のリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Intelligent Agent のリソース依存性の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10340: データベース・インスタンス %s は開始しませんでした。よって完全な検証はできません。

原因: 指定したデータベース・インスタンスが停止しているため、完全な検証を実行できません。

処置: データベースを起動し、再度、検証操作を実行します。

FS-10341: データベース %s の検証を開始します。

原因: 指定したデータベースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10342: データベース %s の Oracle Net 構成情報の検証を開始します。

原因: 指定したデータベースの Oracle Net 構成情報の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10343: データベース %s のデータベース・インスタンス情報の検証を開始します。

原因: 指定したデータベースのデータベース・インスタンス情報の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10344: データベース %s の Oracle Intelligent Agent の検証を開始します。

原因: 指定したデータベースの Oracle Intelligent Agent の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10345: スタンドアロン・データベース %s の検証が正常に完了しました。

原因: 指定したデータベースを正常に検証しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10346: スタンドアロン・データベース %s のクラスタワイドの検証が正常に完了しました。

原因: クラスタ上の指定したデータベースを正常に検証しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10347: データベース %s の状態をチェックしています。

原因: 指定したデータベースの状態のチェックを開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10348: データベース・インスタンス %s が停止しています。データベースを起動しますか？

原因: 指定したデータベース・インスタンスが停止されているため、検証が行えません。

処置: Oracle Services for MSCS でデータベース・インスタンスを起動する場合は、「はい」と応答します。

FS-10349: データベース・インスタンス %s が稼働していません。データベースを停止して再起動しますか？

原因: 指定したデータベース・インスタンスが稼働していないため、検証が行えません。

処置: Oracle Services for MSCS でデータベース・インスタンスを停止して再起動する場合は、「はい」と応答します。

2.8 FS-10350 ~ FS-10399

FS-10350: データベース %s を起動します。

原因: 指定したデータベースを起動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10351: クラスタ・ディスク %s 上にディレクトリ・ツリーを作成し、データを移入しています。

原因: 指定したクラスタ・ディスク上に、新しいデータベースのディレクトリ・ツリーを作成し、移入しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10352: データベース・インスタンス %s をサンプル・データベースに対して作成しています。

原因: 新規のデータベース・インスタンスを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10353: サンプル・データベースを作成するスクリプトを実行中です。

原因: 新規のサンプル・データベースを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10354: サービス名 %s の Oracle Net リスナーを定義しています。

原因: Oracle Net リスナーを定義しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10356: サービス名 %s のデータベースの有効性を検査しています。

原因: サンプル・データベースの有効性を検査しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10358: %s がクラスタ・ディスク %s に作成されました。

原因: サンプル・データベース・ファイルが、共有ディスク上の指定したディレクトリにコピーされました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10359: サービス名 : %s

原因: これは、サンプル・データベースに使用されるサービス ID です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10360: インスタンス名 : %s

原因: これは、サンプル・データベース用に作成されたインスタンス名です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10361: データベース名 : %s

原因: これは、サンプル・データベース用に作成されたデータベース名です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10362: パラメータ・ファイル : %s

原因: これは、サンプル・データベースに使用されるパラメータ・ファイルです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10363: データベース・バージョン : %s

原因: これは、サンプル・データベースのデータベース・バージョンです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10364: SYS パスワード : %s

原因: これは、サンプル・データベースの SYS パスワードです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10365: SYSTEM パスワード : %s

原因: これは、サンプル・データベースの SYSTEM パスワードです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10366: SYS および SYSTEM 以外のデータベース・アカウントは、ロックされています。

原因: SYS および SYSTEM 以外のデータベース・アカウントはすべてロックされています。他のデータベース・アカウントを使用する場合は、Oracle DBA ツールを使用してアカウントおよびパスワードを管理します。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10367: %s のログ・ファイルで詳細を確認してください。

原因: これは、データベースを作成するためのログ・ファイルの場所です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10368: Database Configuration Assistant を呼び出してサンプル・データベースを作成しています ; この処理には数分かかります ...

原因 : Oracle*i* データベースの場合、Oracle Fail Safe はサンプル・データベースを作成するために Database Configuration Assistant をコールします。この処理は数分かかります。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10369: %s : %s の所有者ノード情報を分析中です。

原因 : 指定したリソースの所有者ノード情報が分析されています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10370: リソース %s をグループ %s に追加しています。

原因 : 指定したグループにリソースを追加しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10371: %s : 初期化処理を実行中です。

原因 : 指定した操作の初期化処理を実行しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10372: %s : リソース所有者情報を収集中です。

原因 : リソース所有者情報を収集しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10373: %s : リソース %s の所有者ノードを判断中です。

原因 : 指定したリソースの所有者ノードを判断するために所有者情報を分析しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10374: %s : 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を収集中です。

原因 : 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を収集しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10375: %s : 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を分析中です。

原因 : 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を分析しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10376: %s : リソース %s の構成を開始します。

原因 : 指定したリソースの構成を開始しています。

処置 : これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10377: %s: リソース %s のリソース情報の有効性を検査しています。

原因: 指定したリソースのリソース情報の有効性を検査しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10378: %s: リソース %s の構成を準備中です。

原因: 指定したリソースの構成を準備しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10379: %s: グループ %s をオンラインにしています。

原因: 指定したグループをオンラインにしています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10380: %s: リソース %s の仮想サーバー情報を構成中です。

原因: 仮想サーバー情報を構成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10381: %s: リソース %s のリソース情報を作成中です。

原因: 指定したリソースのリソース情報を作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10382: %s: リソース %s をオンラインにしています。

原因: 指定したリソースをオンラインにしています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10383: %s: リソース %s をオフラインにしています。

原因: 指定したリソースを停止しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10384: リソース %s はグループ %s に正しく追加されました。

原因: 指定したリソースを指定したグループに正常に追加しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10385: %s: リソース %s の構成が完了しました。

原因: 指定したリソースの構成が完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10386: データベース %s (ノード %s) に接続できません。

原因: 指定したノード上の指定したデータベースへの接続に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10387: データベース %s への接続の検証に失敗しました。

原因: 指定したデータベースへの接続の検証に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10389: データベース %s は使用できません。

原因: 指定したデータベースを使用できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10390: データベース %s が稼働しているか確認するチェックに失敗しました。

原因: 指定したデータベースが稼働していることを確認するチェックに失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10391: データベース・インスタンス %s の起動に失敗しました。

原因: 指定したデータベース・インスタンスの起動に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10392: データベース %s を構成するためのクラスタワイド操作を開始します。

原因: 指定したデータベースを構成するクラスタワイド操作を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10393: データベース %s を構成するためのクラスタワイド操作が完了しました。

原因: 指定したデータベースを構成するクラスタワイド操作が完了しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10394: データベース %s の構成解除のためのクラスタワイド操作を開始します。

原因: 指定したデータベースを構成解除するクラスタワイド操作を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10395: データベース %s の構成解除のためのクラスタワイド操作が完了しました。

原因: 指定したデータベースを構成解除するクラスタワイド操作が完了しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10396: %s を検証するためのクラスタワイド操作を開始します。

原因: 指定したオブジェクトを検証するクラスタワイド操作を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10397: %s を検証するためのクラスタワイド操作が完了しました。

原因: 指定したオブジェクトを検証するクラスタワイド操作が完了しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10398: %s : データベース・インスタンス・グループ %s を作成中です。

原因: クラスタ内にデータベース・インスタンス・グループを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10399: %s : カスタマイズされた Is Alive 問合せ "%s" (データベース・インスタンス %s) をテスト中です。

原因: データベース・インスタンスで指定した Is Alive 問合せをテストしています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

2.9 FS-10400 ~ FS-10449

FS-10400: データベースはアーカイブ・ログ・ファイル %s にクラスタ化されていないディスクを使用しています。

原因: データベースが、指定したクラスタ化されていない（非共有）ディスクをアーカイブ・ログ・ファイルに使用しています。

処置: 可用性の高いシングルインスタンス・データベースとして構成するためには、すべてのデータベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに格納する必要があります。データベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動してください。

FS-10401: %s : カスタマイズされた Is Alive 問合せは、データベース・インスタンス %s でエラー %s が発生し、失敗しました。

原因: データベース・インスタンスの Is Alive 問合せが失敗しました。

処置: 指定した Is Alive 問合せがデータベース・インスタンスで動作することを検証します。

FS-10402: データベース %s の起動により ORA-29702 エラーが戻されました。 %d 秒後、操作は再試行されます。

原因: アクティブな LMON プロセスによりデータベース・インスタンスの再起動が試行されましたが、失敗しました。Oracle Services for MSCS では、指定された秒数の後、操作を再試行します。

処置: 指定された秒数の後でもデータベース・インスタンスの再起動に失敗する場合は、Oracle の LMON トレース・ファイルでエラーを調べます。

FS-10403: データベースは Data Guard Broker の構成ファイル %s でクラスタ化されていないディスクを使用するよう設定されています。

原因: データベースが、指定のクラスタ化されていない（非共有）ディスクを Data Guard Broker の構成ファイルで使用しています。

処置: 可用性の高いシングルインスタンス・データベースとして構成するためには、すべてのデータベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに格納する必要があります。データベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動してください。

FS-10405: %s: データベース %s を構成解除するためのノード固有の操作を開始します。

原因: 指定したノードで構成解除操作を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10406: %s: データベース %s の構成解除の操作を準備中です。

原因: 指定したデータベースの構成解除を準備しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10407: %s: データベース %s を構成解除するためのノード固有の操作が完了しました。

原因: 指定したノードの構成解除操作が完了しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10408: %s: データベース %s の仮想サーバー構成を変更中です。

原因: 指定したデータベースの仮想サーバー構成を変更しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10409: %s: データベース %s のリソース情報を削除しています。

原因: 指定したデータベースのリソース情報を削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10410: %s: データベース・インスタンス %s への接続のオープンは、エラー %s が発生し、失敗しました。

原因: データベース・インスタンスへの接続のオープンが失敗しました。

処置: ユーザー名やパスワードなどの接続情報が正しいことを検証します。

FS-10411: %s: パラメータ %s の値を取得するための問合せは、データベース・インスタンス %s でエラー %s が発生し、失敗しました。

原因: 指定したデータベース・インスタンスに対するパラメータ取得の問合せが失敗しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10412: %s: パラメータ %s の値を変更するための問合せは、データベース・インスタンス %s でエラー %s が発生し、失敗しました。

原因: 指定したデータベース・インスタンスに対するパラメータ変更の問合せが失敗しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10413: ノード %s の Oracle Net でエラーが見つかりました ; グループのリスナーをオフラインにする必要があります。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10414: Oracle Net でエラーが見つかりました ; データベース及びリスナーをオフラインにし、%s に移動する必要があります。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10415: ノード %s 上の Oracle Net でエラーが見つかりました ; データベースをオフラインにする必要があります。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10416: ノード %s 上の Oracle Net でエラーが見つかりました。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10421: 適切な認証のための remote_login_passwordfile パラメータを、%s で %s に設定してください。

原因: 初期化パラメータ・ファイル (init.ora) の remote_login_passwordfile パラメータが、オペレーティング・システム認証用に NONE に設定されているか、ユーザー名およびパスワードの認証用に EXCLUSIVE に設定されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10422: オペレーティング・システム認証使用時には、remote_login_passwordfile パラメータを NONE に設定する必要があります。

原因: データベースはオペレーティング・システム認証を使用しています。初期化パラメータ・ファイル (init.ora) の remote_login_passwordfile パラメータを NONE に設定する必要があります。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの remote_login_passwordfile パラメータを NONE に設定します。その後、「はい」をクリックします。操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。パラメータに他の値を使用する場合は、データベースをフェイルセーフにする際にユーザー名およびパスワードを入力します。

FS-10423: %s ファイル (ノード %s) のパラメータを変更して、続行するには「はい」、操作を取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

原因: データベースがオペレーティング・システム認証を使用しているときは、init.ora ファイルの remote_login_passwordfile を NONE に設定する必要があります。データベースがユーザー名およびパスワードの認証を使用しているときは、init.ora ファイルの remote_login_passwordfile を EXCLUSIVE に設定する必要があります。

処置: init.ora ファイルの remote_login_passwordfile パラメータを適切な値に設定します。その後、「はい」をクリックします。操作を中断する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10424: データベース %s がオンラインかどうかをチェックしています。

原因: データベース・インスタンスが稼働中かどうかを調べています。そうでない場合は、起動されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10425: データベース %s で使われるディスクを問い合せています。

原因: データベースによって使用されるディスクを問い合せて、それがクラスタ・ディスクであるかどうかを検証しています。その後、そのディスクをグループに移動、もしくはグループ内でディスクを作成します。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10426: データベース・リソース %s をグループ %s に追加しています。

原因: インスタンスの Oracle データベース・リソースを追加しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10427: データベース・インスタンス %s を TNS サービス名 %s に対して作成中です。

原因: 指定した TNS サービス名に対するデータベース・インスタンスを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10428: リソース %s のグループ %s からの削除を開始します。

原因: 指定したリソースを指定したグループから削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10430: %s: リソース %s の仮想サーバー構成を変更中です。

原因: 指定したリソースの仮想サーバー構成を変更しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10431: %s: リソース %s のリソース情報を削除しています。

原因: 指定したリソースのリソース情報を削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10432: リソース %s はグループ %s から削除されました。

原因: 指定したリソースは指定したグループから削除されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10433: データベース・インスタンス %s をノード %s から削除しています。

原因: 指定したノードのデータベース・サーバー・インスタンスを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10434: データベース・リソース %s をグループ %s から削除しています。

原因: 指定したデータベース・リソースを指定したグループから削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10435: データベース・ディスク %s をディスク・グループ %s に移動しています。

原因: 事前定義済みのグループにデータベース・ディスクを移動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10436: Windows サービス %s の起動に失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスを起動できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10437: Windows サービス %s の作成に失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスを作成できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10438: Windows サービス %s が見つかりませんでした。

原因: 指定した Windows サービスが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10439: ファイル %s の検索に失敗しました。

原因: 指定したファイルが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10440: サービス コントロール マネージャを開くときに失敗しました。

原因: サービス コントロール マネージャが開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10441: Windows サービスの列挙に失敗しました。

原因: Windows サービスのリストを取り出せませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10442: ディレクトリ %s の検索に失敗しました。

原因: 指定したディレクトリが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10443: ディレクトリ %s の作成に失敗しました。

原因: 指定したディレクトリを作成できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10444: 無効なディレクトリ構文が指定されました: %s

原因: ディレクトリ指定の構文が無効です。

処置: ディレクトリ指定の構文を調べます。

FS-10445: Windows サービス %s の問合せに失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスの問合せに失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10446: ファイル %s の作成に失敗しました。

原因: 指定したファイルを作成できません。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10447: ファイル %s のサイズ取得に失敗しました。

原因: 指定したファイルのサイズを取得できません。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10448: ファイル %s からの読み込みに失敗しました。

原因: 指定したファイルに対する読み込み操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10449: ディレクトリ %s が作成されました。

原因: 指定したディレクトリを作成しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

2.10 FS-10450 ~ FS-10499

FS-10450: スタンドアロン・サンプル・データベース %s の削除を開始します。

原因: 指定したサンプル・データベースを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10451: サンプル・データベースでの DBA 権限についてアカウント %s の有効性を検査しています。

原因: Oracle Services for MSCS は、データベース管理者 (DBA) 権限を使用してデータベースにログオンしています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10452: サンプル・データベース %s を起動しています。

原因: サンプル・データベースを起動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10453: サンプル・データベース %s を停止しています。

原因: サンプル・データベースを停止しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10454: サンプル・データベース %s の Oracle Net リスナーおよび TNSNAMES エントリを削除しています。

原因: 指定したサンプル・データベースの Oracle Net リスナーおよび TNSNAMES エントリを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10455: インスタンス %s (サンプル・データベース %s) を削除しています。

原因: 指定したサンプル・データベースのデータベース・インスタンスを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10456: ディスク %s にあるサンプル・データベースのツリー・ビューのエントリを削除しています。

原因: 指定したディスク上のサンプル・データベースに対するツリー・ビューのエントリを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10457: サービス名 %s のサンプル・データベースが削除されました。

原因: サンプル・データベースを正常に削除しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10461: %s: グループ %s の検証を開始します。

原因: 指定したグループの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10462: %s: グループ %s の情報をロードしています。

原因: 指定したグループの情報をロードしています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10463: %s: グループ %s のグループ属性を検証中です。

原因: 指定したグループの属性を検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10464: %s: グループ %s のリソースの属性を検証中です。

原因: 指定したノード上の指定したグループにあるリソースの属性を検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10465: %s: グループ %s のリソースの依存性を検証中です。

原因: 指定したノード上の指定したグループにあるリソースの依存性を検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10466: %s: グループ %s の検証が正常に完了しました。

原因: 指定したノード上の指定したグループの検証が正常に完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10467: プロパティを変更するには Oracle Intelligent Agent をオフラインにする必要があります。エージェントをオフラインにしますか？

原因：エージェントのプロパティを変更しています。プロパティを変更するにはエージェントをオフラインにする必要があります。

処置：Oracle Services for MSCS でエージェントをオフラインにする場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、プロパティは変更されません。

FS-10468: リソース %s はデータベース %s で使用されていますが、グループ %s 内には存在しません。追加しますか？

原因：データベースが使用するディスク・ドライブが、グループ内にありません。

処置：Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10469: ノード %s で Oracle Net にエラーが検出され、データベースをオフラインにする必要があります。修正しますか？

原因：検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置：Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10470: %s のデータベース・インスタンスがノード %s 上に存在しません。Oracle Services for MSCS で作成しますか？

原因：検証操作によって、そのデータベースに対する Oracle データベース・インスタンスが存在しないことがわかりました。

処置：Oracle Services for MSCS で Oracle データベース・インスタンスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10471: Oracle Intelligent Agent のサービス %s がノード %s 上に存在しません。作成しますか？

原因：検証操作によって、指定したノード上のグループに、Oracle Intelligent Agent Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置：Oracle Services for MSCS で Oracle Intelligent Agent Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10472: Oracle Intelligent Agent の Windows レジストリ情報がノード %s 上に存在しません。作成しますか？

原因：検証操作によって、指定したノード上のグループに、Oracle Intelligent Agent の Windows レジストリ情報が存在しないことがわかりました。

処置：Oracle Services for MSCS で Windows レジストリ情報を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10473: ノード %s の Oracle Intelligent Agent の Windows レジストリ情報に誤りがあります。訂正しますか？

原因：検証操作によって、指定したノードの、Oracle Intelligent Agent に対する Windows レジストリ情報が不適切なことがわかりました。

処置：Oracle Services for MSCS で Windows レジストリ情報を訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10474: Oracle データベースのない Oracle Intelligent Agent が見つかりました。グループから削除しますか？

原因：検証操作によって、Oracle データベースを持たない Oracle Intelligent Agent がグループ内で見つかりました。Oracle データベースを持たない Oracle Intelligent Agent を使用できるのは、仮想サーバー・ノードが起動しているか停止しているかを監視する場合にかぎります。

処置：Oracle Services for MSCS で Oracle Intelligent Agent をグループから削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10475: データベースを再検出するには Oracle Intelligent Agent を再起動する必要があります。再起動しますか？

原因：検証操作によって、Oracle Intelligent Agent が Oracle データベースの正しいセットを検出していないことがわかりました。これは、Oracle Intelligent Agent に対する Windows レジストリ情報が間違っている場合に、発生することがあります。

処置：Oracle Services for MSCS でグループの Oracle Intelligent Agent を再起動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。Oracle Intelligent Agent を再起動すると、このグループに対して現在実行されているジョブがすべて取り消されます。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10476: データベースを再検出するのにノード %s でデフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動しますか？

原因： 操作によって、デフォルトの Oracle Intelligent Agent が Oracle データベースの正しいセットを検出していないことがわかりました。これは、サンプル・データベースが作成されたときやサンプル・データベースが削除されたときに発生する場合があります。

処置： Oracle Services for MSCS でデフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動する場合は、メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。デフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動すると、現在実行されているジョブがすべて取り消されます。

FS-10477: Oracle Net エラーです。データベースをオフラインにし、%s に移す必要があります。修正しますか？

原因： 検証操作によって、Oracle Net 構成ファイルに問題が検出されました。

処置： Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10478: バージョン不一致で、%s のデータベース・インスタンスはノード %s で再作成が必要です。修正しますか？

原因： 検証操作によって、データベース・インスタンスに問題が見つかりました。この問題の原因として最も可能性が高いのは、データベースのバージョンとデータベース・インスタンスのバージョンが異なることです。

処置： Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。「はい」をクリックすると、古いデータベース・インスタンスが削除され、新しいインスタンスが作成されます。

FS-10480: %s: グループ %s の %s への移動を開始します。

原因： 別のノードへのグループの移動を開始しています。

処置： これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10481: %s: 移動を行うためのリソース固有の操作を実行中です。

原因： 移動操作の実行に先立つ正常停止の準備として、リソース固有の操作を実行しています。

処置： これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10482: %s: グループ %s を %s に移動しています。

原因: あるノードから別のノードにグループを移動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10483: %s: グループ %s を %s に移動する操作の完了を待機中です。

原因: 開始された移動が完了するのを待機しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10484: %s: グループ %s が %s に正常に移動されました。

原因: 「グループを別のノードに移動」操作が、正常に完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10485: %s: データベース %s のチェックポイントを実行中です。

原因: データベースのチェックポイント操作を実行しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10486: %s: データベース %s を停止しています。

原因: データベース・サーバーを停止しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10487: Oracle Net リスナーがデータベースなしで見つかりました。グループから削除しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle データベースを持たない Oracle Net リスナーがグループ内で見つかりました。Oracle データベースを持たない Oracle Net リスナーという構成は、無効です。

処置: Oracle Services for MSCS で Oracle Net リスナーをグループから削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10488: %s: 操作のロールバックを開始します。

原因: 指定したノードで操作のロールバックを開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10489: %s: 操作のロールバックが完了しました。

原因: 指定したノードでの操作のロールバックが完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10490: %s の Oracle Net リスナーを構成中です。

原因: Oracle Net リスナーの情報を構成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10491: %s の Oracle Net サービス名を構成中です。

原因: 指定したノード上の TNS サービス名を構成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10492: リソース %s はネットワーク名のリソースに依存性を持つ必要があります。リソース %s をリソース %s に依存させますか？

原因: 指定したリソースには必要なネットワーク名への依存性がありません。

処置: Oracle Services for MSCS で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10493: %s: 操作のロールバックを行おうとしたときにエラーが発生しました。

原因: ロールバック操作の最中にエラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。「検証」コマンドを実行してリソースに伴う問題を解決し、操作を再試行します。

FS-10494: %s: CANCEL_ROLLBACK トレース・フラグでロールバックがオフにされました。

原因: トレース・フラグによって、ロールバック・ロジックがオフにされました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10495: 操作のクラスタワイド・ロールバックが完了しました。

原因: 現在の操作にエラーが発生しました。操作がロールバックされました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10496: %s の Oracle Net 移行計画の生成中です。

原因: 指定したデータベースの Oracle Net 移行計画を作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10497: 操作のクラスタワイド・ロールバックを開始します。

原因: 現在の操作にエラーが発生しました。操作が取り消されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10498: 要求に従って操作を取り消しています。

原因: 要求に従って操作を取り消しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10499: Oracle Services for MSCS は静止モードで実行しています。

原因: Oracle Services for MSCS は静止モードで実行していますが、ユーザーからの入力が必要です。

処置: 通常の冗長モードでその操作を実行します。

2.11 FS-10500 ~ FS-10549

FS-10500: %s: クラスタ %s の検証を開始します。

原因: クラスタの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10501: %s: Oracle Services for MSCS のインストールを検証中です。

原因: 全クラスタ・ノード上の Oracle Services for MSCS の検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10502: %s: Oracle ホームを検証中です。

原因: クラスタ上の Oracle ホームの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10503: %s: ネットワーク構成を検証中です。

原因: クラスタ・ネットワークとノード名のマッピングの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10504: %s: クラスタの検証が完了しました。

原因: クラスタの検証が完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10505: %s 上の Oracle Net 構成は、IP アドレス %s (ホーム %s) に対して構成されていません。アドレスをリスナー %s に追加しますか？

原因: 指定したノードは複数の IP アドレスにマップされます。Oracle Net リスナーが、すべての指定した IP アドレスを完全にリスニングするように構成されていないため、指定したノード上のデータベースにクライアントが接続できない可能性があります。

処置: Oracle Services for MSCS で Oracle Net リスナーに IP アドレスを追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10506: リスナーへの IP アドレス %s の追加を Oracle ホーム %s (ノード %s) で開始します。

原因: 指定したノード上の指定したホームで、指定した IP アドレスを Oracle Net リスナーに追加する処理を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10507: ** エラー : IP アドレスを追加後リスナー %s の開始に失敗しました。ロールバックを開始します。

原因: Oracle Services for MSCS で指定したリスナーに IP アドレスを追加した後、そのリスナーが起動できませんでした。

処置: これは通知メッセージです。操作の警告メッセージを参照してください。

FS-10508: ** エラー : リスナー %s の停止に失敗しました。ロールバックを開始します。

原因: 新規 IP アドレスでリスナーを再起動する前に、指定したリスナーを停止するのに失敗しました。

処置: これは通知メッセージです。操作の警告メッセージを参照してください。

FS-10509: リスナー %s に対する変更をロールバックしています。

原因: 指定したリスナーに対する変更がロールバックされています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10510: クラスタ上の %s ネットワークはサブネット %s を使っています。

原因: Microsoft Cluster Service からクラスタ・ネットワーク情報を取得しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10511: %s のクラスタワイドの有効性検査: %s

原因: すべてのノードのホスト名情報を比較しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10512: %s は %s (%s 上) にマップされます。

原因: これは、ホスト上から見た場合の、ホスト名から IP アドレスへのマッピングです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10513: %s は %s (%s 上) にマップされます。

原因: これは、ホスト名から、ホスト上に構成されている 1 つ以上の IP アドレスへのマッピングです。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10514: ** 警告 : IP のマップ中に問題が発生しました。次の警告メッセージを参照してください。

原因: 警告メッセージが生成され、表示されます。

処置: 警告メッセージを参照してください。

FS-10515: %s ホストの IP 変換が矛盾しています。Network Adapter の順序が誤っているようです。マニュアルを参照してください。

原因: ホスト名から IP アドレスへの変換が、すべてのクライアントおよびクラスター・ノードで一貫していません。ホスト名が正しく登録されていない、またはネットワーク・アダプタの順序が正しくありません。複数のネットワーク・アダプタを伴うシステムで、Windows が最初に見るネットワーク・アダプタが、システムの残りの部分に既知の IP アドレスを使用するように構成されていない場合、ネットワークに依存する製品（たとえば、Oracle Intelligent Agent または Oracle Net リスナー）で問題が起きる可能性があります。

処置: この問題の詳細と回避策の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10516: %s ホスト IP 変換に矛盾があり Oracle Services for MSCS が動作できません。ネーム・サービスかホスト・ファイルを調べてください。

原因: クラスタ内の全ノードの IP アドレス構成に誤りがあります。Oracle Services for MSCS の操作中、Oracle データ・サーバーと Oracle Services for MSCS コンポーネントは TCP/IP ネットワーク・トランスポートを使用して相互に通信します。使用される各ホスト名は、関連するすべてのシステム上の正しい IP アドレスにマップされている必要があります。Oracle Services for MSCS は、クラスタのすべてのノードおよび Oracle Fail Safe Manager が稼働しているノードで、指定したホストの IP アドレス・マッピングを比較しました。その結果、一部のノードからは、このホスト名に対して同じ IP アドレスが返されないことが確認されました。この問題は通常、これらのノードに登録されたホスト名と IP アドレスのマッピングの不一致から発生します。

処置: ネーム・サービス (DNS、WINS) または HOSTS ファイルを修正し、関係するすべてのノード (クラスター・ノードおよび Oracle Fail Safe Manager が稼働しているノード) で、ホストを同じ IP アドレスにマップします。

FS-10517: ノード %s のネットワーク情報をロードできません。

原因: ノードのネットワーク情報をロードできません。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10518: ノード %s の Oracle Net 構成が、IP アドレス %s 用に構成されていません。リスナーにアドレスを追加しますか？

原因: 指定したノードは複数の IP アドレスにマップされます。このノードの Oracle Net リスナーが、指定した IP アドレスをリスニングするように構成されていないため、クライアントがデータベースに接続できない可能性があります。

処置: この問題を解決することを強くお勧めします。この問題を解決するには、「クラスタの検証」コマンドを再実行します。

FS-10519: ノード %s の Oracle Net 構成にリスナーが存在しません。IP アドレス %s のリスナーを作成してください。

原因: 指定したノードは複数の IP アドレスにマップされます。Oracle Net 構成にリスナーが含まれていないため、クライアントがデータベースに接続できない可能性があります。

処置: この問題を解決することを強くお勧めします。この問題を解決するには、「クラスタの検証」コマンドを再実行します。

FS-10520: %s では、%s に Oracle があります。

原因: 指定したホストの情報を問い合わせています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10521: Oracle ホーム %s、バージョン %s がノード上に存在します: %s

原因: メッセージには、指定したホームが存在するノードが一覧表示されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10522: ** 警告: バージョン %s の Oracle ホーム %s がノード上に存在します: %s およびノード上に存在しません: %s

原因: Oracle ホームが、クラスタのすべてのノードで同一になっていません。

処置: Oracle を再インストールし、Oracle ホームがクラスタのすべてのノード上で同一になるようにします。

FS-10523: ** 警告: Oracle installation で問題が発生しました。次の警告メッセージを参照してください。

原因: 警告メッセージが生成され、表示されます。

処置: 警告メッセージを参照してください。

FS-10524: Oracle ホームがクラスタの全ノードで同じではありません。Oracle Services for MSCS は特定の操作でエラーになる場合があります。

原因: Oracle ホームが、クラスタのすべてのノードで同一になっていません。クラスタワイド操作のほとんどは、すべてのクラスタ・ノードの、同じ Oracle ホームに適用されます。したがって、これらの操作は、クラスタの各ノード上に同じ Oracle ホームが存在する場合のみに作動します。Oracle ホームと Oracle Services for MSCS の相互作用の詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』および『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

処置: Oracle を再インストールし、Oracle ホームがクラスタのすべてのノード上で同一になるようにします。

FS-10525: ノード %s の Oracle インストール情報をロードできません。

原因: ノード上の Oracle インストール情報をロードしようとしたましたが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10526: クラスタワイド操作の状態をレポートできません - アクセスが拒否されました。

原因: 適切な権限がないため、クラスタ・ノードは Oracle Fail Safe コンソールにメッセージまたはエラーを表示できませんでした。

処置: クラスタのすべてのノード上で「Oracle Services for MSCS Security Setup」を実行します。設定プログラムを実行するには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle - <Oracle_Home>」→「Oracle Services for MSCS Security Setup」の順にクリックします。クラスタの各ノードで同じユーザー・アカウント情報が指定されていることを確認します。

FS-10530: %s に、Oracle Services for MSCS バージョン %s があります。

原因: 指定したバージョンの Oracle Services for MSCS が、指定したノード上にインストールされています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10531: ** 警告: Oracle Services for MSCS のインストールで問題が発生しています。次の警告メッセージを参照してください。

原因: 警告メッセージが生成され、表示されます。

処置: 警告メッセージを参照してください。

FS-10532: Oracle Services for MSCS のバージョンが全クラスタ・ノードで同じではありません。動作しない可能性があります。

原因: Oracle Services for MSCS ソフトウェアが正しくインストールされていません。各クラスタ・ノードに、同じバージョンの Oracle Services for MSCS がインストールされている必要があります。

処置: 全クラスタ・ノードに、Oracle Services for MSCS ソフトウェアを正しく再インストールします。

FS-10533: ノード %s の Oracle Services for MSCS 情報をロードできません。

原因: ノード上の Oracle Services for MSCS 情報をロードしようとしたましたが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を稼働しているシステムで、ホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10534: %s に %s があります。

原因: 指定したリソース DLL は、指定したクラスタ・ノード上にあります。

処置: インストールされた Oracle Services for MSCS に対して、これが予期されている結果であるかどうかを調べます。

FS-10535: Oracle Services for MSCS がこのリソース・タイプのプロパティを変更しました。

原因: Oracle Services for MSCS は、指定したリソース・タイプのプロパティを読み込めないため、適切なリソース DLL を指すようにリソース・タイプ DLL を変更しました。そのリソース DLL は FsResOdbcs.dll という名前です。

処置: Oracle Services for MSCS がインストールされているディレクトリに Oracle リソース・タイプ DLL (FsResOdbcs.dll) が存在し、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認します。すべてのクラスタ・ノードを再起動します。

FS-10536: ノード %s 上の Oracle データベース・リソース DLL を見つけることができません。

原因: Oracle データベース・リソース DLL を見つけられません。

処置: Oracle Services for MSCS がインストールされているディレクトリに、Oracle データベース・リソース DLL である FsResOdbcs.dll が存在することを確認します。存在しない場合は、Oracle Services for MSCS を再インストールします。

FS-10537: クラスタに Oracle データベース・リソース DLL を登録できません。

原因: クラスタに Oracle データベース・リソース DLL を登録できません。

処置: Oracle Services for MSCS がインストールされているディレクトリに Oracle データベース・リソース DLL (FsResOdbcs.dll) が存在し、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認します。

FS-10538: 変更を有効にするには全クラスタ・ノードをリポートする必要があります。

原因: Oracle Services for MSCS は、リソース・タイプのプロパティを読み込めないため、適切なリソース DLL (Oracle データベース・サーバーの場合は FsResOdbcs.dll) を指すようにリソース・タイプ DLL を変更しました。

処置: Oracle Services for MSCS がインストールされているディレクトリに Oracle リソース DLL (FsResOdbcs.dll) が存在し、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認したら、すべてのクラスタ・ノードを再起動します。

FS-10539: グループ %s に対してグループの検証操作の実行を推奨します。

原因: 新規の Oracle Fail Safe がインストールされましたが、クラスタ内に既存の Fail Safe グループがあります。

処置: 指定のグループに対して「グループの検証」操作を実行します。

FS-10540: クラスタの検証に失敗しました。

原因: クラスタを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10541: ** 警告: ノード %s 上に情報がロードできません。

原因: 特定のノード上の情報をロードしようとしたますが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を稼働しているシステムで、ホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を稼働しているシステム上の、ホスト名と IP アドレス間のマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10542: クラスタの検証操作を完全に実行するためにすべてのノードの情報をロードすることができません。

原因: 特定のノード上の情報をロードしようとしたますが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を稼働しているシステムで、ホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を稼働しているシステム上の、ホスト名と IP アドレス間のマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10543: マルチノード・クラスタはローカル・クォーラム・タイプのクォーラム・リソースを持てません。

原因: クラスタ内に 2 つ以上のノードがある場合、クラスタのクォーラム・リソースがクラスタ・ディスクに常駐する必要があります。クラスタのクォーラム・リソースは、ローカル・クォーラムのリソース・タイプを使用しています。

処置: MSCS クラスタ アドミニストレータを使用して、クラスタのクォーラム・リソースを変更します。

FS-10544: %s: クラスタのクォーラム・リソースを検証中です。

原因: クラスタのクォーラム・リソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10545: クラスタのクォーラム・リソース %s は %s に置かれます。

原因: 「クラスタの検証」操作中に、クォーラム・リソースとともにその場所が表示されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10546: ローカル・クォーラムのリソース・タイプを持つリソース %s がクラスタで検出されました。

原因: 「クラスタの検証」操作により、ローカル・クォーラムのリソース・タイプが見つかりました。

処置: ローカル・クォーラム・リソースが不要な場合は、MSCS クラスタ アドミニストレータを使用してリソースを削除します。

FS-10547: Oracle ホームの bin ディレクトリ %s が PATH 環境変数に存在しません。

原因: PATH 環境変数が Oracle インストールと一致していません。

処置: PATH 環境変数を修正して、システムを再起動します。

FS-10548: PATH 環境変数に Oracle Services for MSCS の bin ディレクトリ %s が存在しません。

原因: Oracle Services for MSCS をインストールした後、クラスタ・ノードをリブートする必要があります。ノードがリブートされていない可能性があります。

処置: クラスタ・ノードをリブートします。

FS-10549: Oracle Services for MSCS リソース DLL %s (リソース・タイプ %s) がロードできませんでした。

原因: 指定したリソース DLL をロードできません。

処置: インストールされている Oracle Services for MSCS を調べて、適切な Oracle Services for MSCS コンポーネントがインストールされていることを確認します。

2.12 FS-10550 ~ FS-10599

FS-10550: グループに、異なる Oracle ホームのリソースが含まれています。

原因: グループ内のリソースは、異なる Oracle ホームのリソースです。

処置: その全リソースをグループから削除してから再び追加し、同じ Oracle ホームのリソースのみが含まれるようにします。

FS-10551: このグループの Oracle ホームを判別できません。

原因: Oracle Services for MSCS がその Oracle ホームを判別するために必要な情報が、グループに含まれていません。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10552: クラスタの Oracle ホームの一覧に失敗しました。

原因: クラスタの Oracle ホームを一覧表示できません。

処置: Oracle Services for MSCS (fssvr.exe) が全クラスタ・ノード上で稼働していることを確認します。

FS-10553: クラスタ内の共通 Oracle ホームを見つけることができません。(同じホーム名とデータベース・サーバー・バージョン)

原因: クラスタの全ノードで同じ Oracle ホームを見つけることができません。各クラスタ・ノードに存在している Oracle ホーム名と Oracle ホームのバージョンは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10554: データベース %s は、ノード %s 上に存在しない Oracle ホーム %s に属しています。

原因: クラスタの 1 つのノードにのみ存在する Oracle ホームから、データベースを参照しようとした。クラスタの各ノードに存在する Oracle ホームは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10555: バージョン %s の Oracle ホーム %s がノード %s に存在しません。

原因: 指定した Oracle ホームのバージョンがクラスタの 1 つのノードにのみ存在します。クラスタの各ノードに存在する Oracle ホームは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10556: リソース %s は Oracle ホーム %s に属しています。Oracle ホーム %s のリソースが存在するグループには追加できません。

原因: 1 つのグループには、1 つの Oracle ホームのリソースのみ含むことができます。追加しようとしているリソースは、グループの既存のリソースと同じ Oracle ホームに属していません。

処置: グループには 1 つの Oracle ホームのリソースのみを追加します。

FS-10557: Windows レジストリからの Oracle ホーム情報の読み込みに失敗しました。

原因: Windows レジストリから、Oracle ホーム情報を読み込もうとしました。

処置: Windows レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。

FS-10558: このリソース %s の Oracle ホームを判別できません。

原因: このリソースがどの Oracle ホームに属しているのか、判断できません。

処置: Windows レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。

FS-10559: 指定されたパスの Oracle ホーム情報の処理に失敗しました。

原因: 指定したパスの Oracle ホーム情報を処理できません。

処置: Windows レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。また、指定したホームが Windows パスに含まれていることも確認します。

FS-10560: %s: グループ %s の作成を開始します。

原因: クラスタのグループの作成を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10561: %s: IP アドレス %s とネットワーク名 %s のクラスタ・リソースを作成中です。

原因: グループに IP アドレス・リソースとネットワーク名リソースを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10562: %s : %s の仮想サーバー情報の有効性を検査しています。

原因: 仮想サーバーのネットワーク情報の有効性を検査しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10563: %s : グループ %s が正常に作成され、ノード %s 上でオンラインになっています。

原因: 「グループの作成」操作が正常に完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10565: ノード %s 上の Oracle Net 構成が正しくありません。Oracle Services for MSCS で修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成に問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10566: ノード %s 上の Oracle Net クライアント構成 (TNSNAMES.ORA) が正しくありません。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Net クライアント構成に問題が検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10567: ノード %s はこのデータベースを所有していませんが、Oracle Net 構成でそれを参照しています。参照を削除しますか？

原因: 「スタンドアロン・データベースの検証」操作によって、データベースを所有していないクラスタ・ノード上の Oracle Net 構成内に、そのデータベースへの参照が見つかりました。このため、将来そのデータベースをグループに追加するときに問題が起きる可能性があります。

処置: Oracle Services for MSCS で、その参照を削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10568: ノード %s はこのデータベースを所有していませんが、Oracle Net 構成でそれを参照しています。参照を削除しますか？

原因:「スタンドアロン・データベースの検証」操作によって、データベースを所有していないクラスター・ノード上の Oracle Net クライアント構成ファイル内に、そのデータベースへの参照が見つかりました。Oracle Services for MSCS は、リモート・ノード上の情報を検証できません。したがって、その参照を削除する必要があります。

処置: Oracle Services for MSCS で、その参照を削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Oracle Net の構成に関する問題のトラブルシューティング方法の例は、『Oracle Fail Safe for Windows 概要および管理ガイド』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10569: ノード %s はデータベースを所有していませんが、重複するデータベース・インスタンス %s を所有しています。重複を削除しますか？

原因:「スタンドアロン・データベースの検証」操作により、データベースを所有していないクラスター・ノード上に重複するインスタンスが見つかりました。これは、このデータベースをグループに追加するときに、問題になります。スタンドアロン・データベースをフェイルセーフにするためには、そのデータベース・インスタンスがクラスター内で一意になる必要があります。

処置: Oracle Services for MSCS で、このインスタンスを削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10570: ノード %s で Oracle Net 構成の問題が検出されましたが、修復されていません。

原因: 検証操作によって Oracle Net 構成に問題が見つかりましたが、Oracle Services for MSCS で問題を修復するかどうかを確認されたときに、ユーザーが「いいえ」をクリックしました。検証操作は、この問題を解決しないで続行しようとしています。

処置: 問題を手動で解決するか、検証操作を再実行してプロンプトに対して「はい」をクリックします。

FS-10571: 重複するデータベース・インスタンス %s がノード %s で検出されましたが、削除されていません。

原因: 検証操作によって指定したノード上に重複するデータベース・インスタンスが見つかりましたが、Oracle Services for MSCS で問題を修復するかどうかを確認されたときに、ユーザーが「いいえ」をクリックしました。検証操作は、この問題を解決しないで続行しようとしています。

処置: 問題を手動で解決するか、検証操作を再実行してプロンプトに対して「はい」をクリックします。

FS-10572: Oracle Net リスナー %s は SID %s に対してリスニングできません。この問題を解決するには、SID を削除してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10573: Oracle Net リスナー %s は SID %s に対してリスニングする必要があります。この問題を解決するには、SID を追加してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10574: Oracle Net リスナー %s は SID %s に対してリスニングできません。この問題を解決するには、リスナーを削除してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10575: %s の仮想サーバー情報の有効性検査中にエラーが発生しました。

原因: 仮想サーバー情報の検証に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10576: クラスタワイド操作の所有者ノードを判断するときにエラーが発生しました。

原因: クラスタワイド操作の所有者または起動ノードを判断できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10577: Oracle Net のデフォルト・リスナーは SID %s に対してリスニングします。解決するにはデフォルトのリスナーを作成します。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10579: デフォルト・リスナー・チェックの実行に失敗しました。

原因: デフォルト・リスナー・チェックの実行に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10580: ファイル %s が見つかりませんでした。Oracle Net リスナー %s 用に新規ファイルを作成する必要があります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10581: グループの Oracle Net リスナー %s が見つかりません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10582: Oracle Net リスナー %s に不適切な TCP アドレス・エントリがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10583: Oracle Net リスナー %s に文字列が存在しません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10584: Oracle Net リスナー %s が SID %s をリスニングしていません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10585: 仮想ホスト変更のため、Oracle Net リスナー %s アドレス・リストを変更する必要があります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10586: Oracle Net リスナー %s に不適切な IPC アドレス・エントリがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10587: このリソースの検証は実行できません。別の方法を使用してください。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージを参照してください。

FS-10588: MSCS Cluster Administrator で全データベース・リソースをグループから削除し、スタンドアロン DB の検証を実行します。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: MSCS クラスター アドミニストレータを使用して、グループからすべてのデータベース・リソースを削除します。そのグループの中にあった各データベースに対して、「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを実行します。その後、再び、各データベースをグループに追加します。

FS-10589: データベース初期化ファイル %s に不適切な LOCAL_LISTENER パラメータがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10590: ファイル %s が見つかりません。サービス名 %s を使用可能にするためのファイルを作成してください。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10591: %s のサービス名 %s が不適切な SID 名を持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10592: %s のサービス名 %s が不適切なネットワーク名を持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10593: %s のサービス名 %s が不適切なアドレス・パラメータを持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10594: サービス名 %s が %s に存在しません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10595: サービス名 %s が %s 内で持っているアドレスが多すぎます。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10596: サービス名 %s が %s 内で持っているアドレスが少なすぎます。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10597: TNSNAMES.ORA ファイル内のサービス名 %s に対して OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバーを使用可能にしますか？

原因: OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバー機能のために、サービス名エントリにデータを追加する必要があります。

処置: OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバー機能を使用可能にする場合は、「はい」をクリックします。

FS-10598: データベースの所有者ノードではないため、サービス名 %s は %s 内に存在してはいけません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Oracle Net の有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10599: ファイル %s を構文エラーまたはファイル破損のためパースできません。ファイルは手動で修正する必要があります。

原因: ファイルは、Oracle Net 構文規則では解析できません。

処置: ファイルを手動で修正します。

2.13 FS-10600 ~ FS-10649

FS-10600: Oracle Net 構成ファイルが更新されました : %s

原因: Oracle Net 構成ファイルが更新されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10601: Oracle Net リスナー %s が起動しました。

原因: Oracle Net リスナーが起動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10602: Oracle Net リスナー %s が再起動しました。

原因: Oracle Net リスナーが再起動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10603: Oracle Net リスナー %s が停止しました。

原因: Oracle Net リスナーが停止しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10604: Oracle Net リスナー %s が削除されました。

原因: Oracle Net リスナーが削除されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10605: Oracle Net リスナー %s が作成されました。

原因: Oracle Net リスナーが作成されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10606: データベース・パラメータ・ファイル内のリスナー構成が更新されました : %s

原因: データベース・パラメータ・ファイルのリスナー構成が更新されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10607: エントリ %s が %s に追加されました。

原因: 指定した Oracle Net エントリが、tnsnames.ora ファイルに追加されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10608: エントリ %s が %s 内で更新されました。

原因: 指定した Oracle Net エントリが、tnsnames.ora ファイルで更新されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10609: エントリ %s が %s から削除されました。

原因: 指定した Oracle Net エントリが、tnsnames.ora ファイルから削除されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10610: ファイル %s への書込みに失敗しました。

原因: 指定したファイルに対する書込み操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10611: ファイル %s を読み込むために開こうとして失敗しました。

原因: 指定したファイルを読取りモードで開く操作に失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10612: ファイル %s を書き込むために作成または開こうとして失敗しました。

原因: 指定したファイルを、書込みモードで作成するまたは開く操作に失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10613: ファイル %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したファイルの削除操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10614: %s から %s へのファイルのコピーに失敗しました。

原因: 指定したファイルのコピー操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10615: Windows サービス %s の削除に失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスを削除できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10616: Windows サービス %s を開こうとして失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスを開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10617: Windows サービス コントロール マネージャ・データベース・ロックの取得に失敗しました。

原因: Windows サービス コントロール マネージャのデータベース・ロックは、付与されませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10618: Windows サービス %s の構成の変更に失敗しました。

原因: 指定した Windows サービス構成を変更できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10619: ユーザー %s (ノード %s) を Windows サービス %s に認証するときに失敗しました。

原因: 指定したユーザー名およびパスワードの認証に失敗しました。このユーザー名およびパスワードは、Windows サービスが起動時にログオンするために使用しています。

処置: 有効なユーザー名 (ドメインを含む) およびパスワードを入力してください。副次的なエラーを調べます。

FS-10620: アカウント %s (ノード %s 内) はサービスとしてログオンするユーザー権利を持ちません。

原因: 指定したアカウントには、サービスとしてログオンするユーザー権利がありません。このユーザー権利は、Windows サービスがサービスの起動時にユーザーをログオンするために必要です。

処置: 指定したノードのアカウントにサービスとしてログオンする権利を付与します。

FS-10621: レジストリ・キー %s を開こうとして失敗しました。

原因: 指定したレジストリ・キーを開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10622: レジストリ変数 %s の読み込みに失敗しました。

原因: 指定したレジストリ変数を読み込めませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10623: Windows サービス %s の停止に失敗しました。

原因: 指定した Windows サービスを停止できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10624: ディレクトリ %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したディレクトリを削除できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10625: ディレクトリ %s の常駐するディスクへのアクセスに失敗しました。

原因: このエラーの原因として最も可能性が高いのは、指定したディレクトリが常駐するディスクがオンラインではないことです。

処置: ディスクをオンライン化してから操作を再試行します。

FS-10626: Windows サービス %s が作成されました。

原因: 指定した Windows サービスを作成しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10627: Windows サービス %s が削除されました。

原因: 指定した Windows サービスを削除しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10628: アカウント %s (ノード %s) はサービスとしてログオンするユーザー権利を持ちません。このユーザー権利を付与しますか？

原因: 指定したアカウントには、サービスとしてログオンするユーザー権利がありません。このユーザー権利は、Windows サービスがサービスの起動時にユーザーをログオンするために必要です。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したノードのユーザーにサービスとしてログオンする権利を付与する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。ユーザーに権利を付与しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10629: Windows サービス %s (ノード %s) を削除しますか？

原因: Oracle Services for MSCS は、ユーザーが指定した Windows サービスを削除するかどうかを知る必要があります。

処置: Oracle Services for MSCS で指定した Windows サービスを削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。削除を行わずに続行する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10630: ホストが見つかりません。

原因: このホストは不明です。名前が正式なホスト名または別名ではない、もしくは問い合わせたデータベースにこのホストが存在しない可能性があります。

処置: 有効なホスト名が使用されていることを確認します。

FS-10631: ホストに到達できません。

原因: ホストに到達できないため、ソケット操作に失敗しました。

処置: 有効なホスト名が使用され、そのホストが到達可能であることを確認します。(ホスト名に ping できることを確認します。)

FS-10632: 有効なホスト名ですが、要求されたタイプのデータ・レコードが存在しません。

原因: 要求されたホスト名は有効で、データベース内で見つかりましたが、このホスト名にマップされる IP アドレスがありません。

処置: ホスト名を Oracle Fail Safe または Oracle Real Application Clusters Guard で使用する前に、そのホスト名を解決できることを確認します。ホスト名が、(HOST ファイルまたは WINS か DNS を通じて) IP アドレスにマップされていることを確認します。

FS-10633: 未知のネットワーク・エラー。

原因: 未知の Windows Socket エラーが発生しました。

処置: 問題をネットワーク管理者に報告します。

FS-10634: エラー %d が Windows ソケット関数 %s のコール中に発生しました。

原因: 指定した Windows ソケット関数のコール中に、予期しないエラーが発生しました。

処置: ファイルまたはマニュアルを含め Windows Socket で指定されたエラーを調べます。

FS-10635: ファイル %s を作成しました。

原因: 指定したファイルを作成しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10640: 内部エラー: 単純パーサー: エントリが見つかりません。

原因: 内部でのみ使用されます。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10641: 内部エラー: 単純パーサー: 不正な API の使用

原因: 内部でのみ使用されます。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10644: %s : Oracle ホームを検証中です。

原因: Oracle ホームの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10645: %s にはホーム %s が %s 内にあります。

原因: 特定の Oracle ホームについて報告しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10646: 次の Oracle ホームはすべてのクラスタ・ノードに存在しません: %s

原因: 1つ以上の Oracle ホームが、すべてのクラスタ・ノードに存在しません。このようなホームのリソースは、Oracle Fail Safe を使用しても、可用性を高めることはできません。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールし、全クラスタ・ノード上の可用性を高めるリソースと同じホームに存在するようにします。

FS-10647: リソース・プロバイダ %s を使用可能に設定しました。必要な依存ソフトウェアがインストールされています。

原因: 必要な依存ソフトウェアが検知されたため、指定したリソース・プロバイダが使用可能に設定されています。たとえば、Oracle データベース・リソース・プロバイダを使用するためには、Oracle データベース・サーバーのサポートされているバージョンがインストールされている必要があります。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10648: リソース・プロバイダ %s を使用不可に設定しました。使用を可能にする前に、依存ソフトウェアをインストールしてください。

原因: 必要な依存ソフトウェアが検知されたため、指定したリソース・プロバイダが使用不可に設定されています。たとえば、Oracle データベース・リソース・プロバイダを使用するためには、Oracle データベース・サーバーのサポートされているバージョンがインストールされている必要があります。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10649: %s ソフトウェアは %s ホーム・ディレクトリにインストールされていますが、1つのクラスタ・ノードにのみ存在しています。

原因: 各クラスタ・ノードの少なくとも1つのホームに、同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスタ・ノードの同一ホームに存在するようにします。

2.14 FS-10650 ~ FS-10699

FS-10650: %s : Oracle Services for MSCS リソース・プロバイダの検証中です。

原因: 登録されたリソース・プロバイダの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10651: %s リソースを検証中です。

原因: 指定したリソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10652: %s には、%s バージョン %s が %s にインストールされています。

原因: リソース・プロバイダは、インストール情報を報告しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10653: %s のバージョンが %s ホームにインストールされていますが、すべてのクラスター・ノードで同一ではありません。

原因: クラスタ全体にある同じ名前のホームはすべて、同一バージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアを持っている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアを再インストールして、すべてのホームのバージョンが一致するようにします。

FS-10654: %s ソフトウェアは、複数のクラスター・ノードの同じホームにインストールされていません。

原因: すべてのクラスター・ノードに少なくとも 1 つのホームが存在し、そのホームには同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスター・ノードの同一ホームに存在するようにします。

FS-10655: リソース %s は検証されません。所有者ノード %s では検証データが提供されませんでした。

原因: グループが常駐するクラスター・ノードが検証データを提供しなかったため、指定したクラスター・リソースを検証できません。

処置: 指定したリソースのリソース・プロバイダが所有者ノードで使用可能になっていることを確認します。

FS-10656: %s の最小バージョンが、Oracle ホーム %s にインストールされていません。

原因: Oracle ホームにインストールされているソフトウェアのバージョンが、Oracle Services for MSCS がサポートする最小バージョンよりも低くなっています。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアの最小バージョンをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスター・ノードの同一ホームに存在するようにします。最小バージョンの詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows リリース・ノート』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows リリース・ノート』を参照してください。

FS-10657: %s は %s が %s にインストールされています。

原因: リソース・プロバイダは、バージョン情報を持たないリソース・プロバイダのインストール情報を報告しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10658: %s ソフトウェアは、どのクラスター・ノードにもインストールされていません。

原因: 各クラスター・ノードに少なくとも 1 つの Oracle ホームが存在し、それぞれの Oracle ホームには同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアが各クラスター・ノードの同一 Oracle ホームに存在するようにします。

FS-10659: クラスタ上の %s ソフトウェア構成は、Oracle Services for MSCS では使用できません。

原因: 各クラスタ・ノードの少なくとも 1 つの Oracle ホームに、最小バージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアの最小バージョンをインストールして、そのソフトウェアが各クラスタ・ノードの同一 Oracle ホームに存在するようにします。最小バージョンの詳細は、『Oracle Fail Safe for Windows リリース・ノート』または『Oracle Real Application Clusters Guard for Windows リリース・ノート』を参照してください。

FS-10660: %s: クラスタ情報を収集中です。

原因: ノードのクラスタ情報を収集中です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10661: %s リソース・プロバイダはノード %s のみにインストールされています。

原因: フェイルオーバーするようにリソースを構成するには、クラスタの少なくとも 2 つのノード上にリソース・プロバイダがインストールされている必要があります。

処置: クラスタの少なくとも 2 つのノード上にリソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールします。

FS-10662: %s をすべてのクラスタ・ノードの同じ IP アドレスに解決できません。

原因: ホスト名がクラスタ全体にわたって矛盾なく解決していません。

処置: ホスト・ファイルのホスト・エントリが、すべてのクラスタ・ノード上において同じであることを確認します。

FS-10663: %s は全ノード上で Home0 ではありません。

原因: 少なくとも 1 つのクラスタ・ノードで、Home0 に 8.0.x ライブラリ・ベースの製品がインストールされていますが、他にはインストールされていません。これは、ノードによるインストール順序の違いによって生じます。この環境では、グループにリソースを追加する際にエラーが発生する可能性があります。これは、8.0.x ベースの製品では、インストールされる Oracle ホームによってサービス名が異なる形で導出されるためです。

処置: 「クラスタのダンプ」コマンドを実行して、問題のある製品を含むホームを特定します。全ノード上の Home0 または Home0 ではないホームにインストールされるように、Oracle 製品を再インストールします。

FS-10664: 全てのノード上の Oracle ホーム %s のパスが一致しません。 %s は全てのノードで同じパスにインストールする必要があります。

原因: 指定した製品は、クラスタの全ノードにわたって同じ物理ディレクトリにインストールされていません。

処置: 全ノードの物理的位置が一致するよう製品を再インストールします。

FS-10665: リソース・プロバイダの DLL をチェックしています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10666: Oracle から提供される MSCS リソース DLL をチェックしています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10667: ソフトウェア・インストールをチェックしています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10668: %s リソース・プロバイダはクラスタの 1 つのノードでのみ有効です。

原因: リソースをフェイルオーバーのために構成するには、クラスタの少なくとも 2 つのノードでリソース・プロバイダが有効である必要があります。

処置: リソース・プロバイダをクラスタの複数のノードで有効にします。

FS-10669: %s リソース・プロバイダ DLL %s は、ノード %s で見つかりませんでした。

原因: 指定したリソース・プロバイダ DLL が見つかりませんでした。

処置: Oracle Services for MSCS を再インストールします。

FS-10670: %s リソース・タイプ DLL %s は、ノード %s で見つかりませんでした。

原因: 指定したリソース・タイプ DLL が見つかりませんでした。

処置: Oracle Services for MSCS を再インストールします。

FS-10671: リソース %s は検証されません。 %s リソース・プロバイダがノード %s で有効ではありません。

原因: リソース・プロバイダがノードで有効ではないため、指定したクラスタ・リソースを検証できません。

処置: リソース・プロバイダを有効にします。

FS-10672: ノード %s 上の FORMS60_PATH 値はノード %s 上の FORMS60_PATH 値と違います。ノード %s の FORMS60_PATH を変更しますか？

原因: 2 つの指定したノードで、Windows レジストリ変数 FORMS60_PATH の値が異なります。レジストリ変数 FORMS60_PATH は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FORMS60_PATH にあります。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したノードの FORMS60_PATH レジストリ変数を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10679: FORMS60_PATH Windows レジストリ変数は、ノード %s で定義されていません。

原因: 指定したノードに Windows レジストリ変数 FORMS60_PATH が存在しない、または値が空の状態です。Windows レジストリ変数 FORMS60_PATH は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FORMS60_PATH にあります。

処置: Windows レジストリ・エディタを使用して、FORMS60_PATH レジストリ変数に値を割り当てます。

FS-10680: Oracle Forms Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Forms Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle Forms Server の、指定した最小バージョンをインストールします。

FS-10681: Oracle Reports Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Reports Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle Reports Server の、指定した最小バージョンをインストールします。

FS-10682: Oracle Reports Server エントリ %s が %s (ノード %s) に存在しません。

原因: 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置: サービス・エントリを追加して、検証操作を再実行します。

FS-10683: Oracle Reports Server エントリ %s で %s (ノード %s) に不適切なアドレス・パラメータがあります。

原因: 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server サービス・エントリが検出されました。

処置: サービス・エントリを修正して、検証操作を再実行します。

FS-10684: ポート番号 %d はすでに使われています。

原因: 指定したポート番号は、すでに使用されています。

処置: まだ使用されていないポート番号を指定します。

FS-10685: ポート番号 %d はクラスタ・リソース %s ですでに使われています。

原因: ポート番号は、指定したクラスタ・リソースによってすでに使用されています。

処置: まだ使用されていないポート番号を指定します。

FS-10690: Oracle Forms Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Forms Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置： Oracle Services for MSCS で Oracle Forms Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10691: Oracle Reports Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Reports Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置： Oracle Services for MSCS で Oracle Reports Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10692: Oracle Reports Server エントリ %s は %s（ノード %s）に存在しません。作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置： Oracle Services for MSCS で、指定した tnsnames.ora ファイル内に Oracle Reports Server エントリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10693: Oracle Reports Server エントリ %s は %s（ノード %s）に存在しません。デフォルトのポート %s で作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置： Oracle Services for MSCS で、指定した tnsnames.ora ファイル内に Oracle Reports Server エントリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10694: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) で不適切なアドレス・パラメータを持ちます。変更しますか？

原因: 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server エントリが検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定した tnsnames.ora ファイル内の Oracle Reports Server エントリを訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10695: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) で不適切なアドレス・パラメータを持ちます。デフォルトのポート %s を使いますか？

原因: 検証操作によって、指定した tnsnames.ora ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server エントリが検出されました。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定した tnsnames.ora ファイル内の Oracle Reports Server エントリを訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10697: リソース %s は Oracle Reports Server %s で使用されていますが、グループ %s 内にはありません。追加しますか？

原因: Oracle Reports Server によって使用されるクラスタ・ディスクが、グループにありません。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したリソースをグループに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10698: Oracle Reports Server 構成ファイル %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、構成ファイルがない Oracle Reports Server を検出しました。

処置: Oracle Services for MSCS で、構成ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10699: Oracle Reports Server 構成ファイル %s はノード %s で不適切なパラメータを含んでいます。修正しますか？

原因: 検証操作によって、不適切なパラメータがある Oracle Reports Server 構成ファイルを検出しました。

処置: Oracle Services for MSCS で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

2.15 FS-10700 ~ FS-10749

FS-10701: クラスタ API を使用してグループ %s を開くときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定したグループを開けませんでした。

処置: グループ名を調べて、それがクラスタ内の有効なグループであることを確認します。

FS-10702: クラスタ API を使用してリソース %s を開くときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定したリソースを開けませんでした。

処置: リソース名を調べて、それがクラスタ内の有効なリソースであることを確認します。

FS-10703: クラスタ API を使ってリソース %s を列挙するために開くときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、列挙のために指定したリソースを開けませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10704: グループ %s の状態をクラスタから取得するときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定したグループの状態をクラスタから取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10705: リソース %s の状態をクラスタから取得するときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定したリソースの状態をクラスタから取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10706: リソース %s に対する共通プロパティ・バッファの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースに対するプロパティ・コンポーネントから共通プロパティ・データを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10707: リソース %s に対するプライベート・プロパティ・バッファの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースに対するプロパティ・コンポーネントからプライベート・プロパティ・データを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10708: リソース %s に対するクラスタからのリソース・タイプの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースに対するリソース・タイプを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10711: クラスタ内のリソース %s の作成に失敗しました。

原因: クラスタ内に指定したリソースを作成できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10712: リソース %s を %s に依存させるのに失敗しました。

原因: 指定したリソース間にリソース依存性を作成できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10713: %s が依存するリソースのリストの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースが依存するリソースのリストを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10714: クラスタ内のディスク %s に対するリソース名の取得に失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したディスクのリソース名を取得できませんでした。

処置: 指定したディスクがクラスタ・ディスクであることを確認します。

FS-10715: リソース %s をクラスタ内のグループ %s に移動するときに失敗しました。

原因: 指定したリソースをクラスタ内の指定したグループに移動できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10716: クラスタ内のリソース %s に対するプライベート・プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したリソースのプライベート・プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10717: クラスタ内のリソース %s に対する共通プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したリソースの共通プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10718: クラスタ内のリソース %s に対するプライベート・プロパティの書き込みに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したリソースのプライベート・プロパティを書き込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10719: クラスタ内のリソース %s に対する共通プロパティの書き込みに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したリソースの共通プロパティを書き込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10720: グループ %s の再起動アクション・プロパティの変更に失敗しました。

原因: 指定したグループに対する再起動アクション・プロパティを変更できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10721: グループ %s の再起動アクション・プロパティのリセットに失敗しました。

原因: 指定したグループに対する再起動アクション・プロパティをリセットできませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10722: グループ %s に対する優先所有者属性の設定に失敗しました。

原因: 指定したグループの優先所有者グループ属性を設定するコールが失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10723: クラスタ・リソース・タイプの列挙に失敗しました。

原因: クラスタ・リソース・タイプのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10724: クラスタ内のリソース・タイプ %s に対する共通プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: クラスタ内の指定したリソース・タイプの共通プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10726: リソース %s は失敗状態にあります。

原因: 指定したクラスタ・リソースが失敗の状態を報告しました。

処置: 該当するログ・ファイルまたはトレース・ファイル（あるいはその両方）で追加情報を調べます。

FS-10727: リソース %s をオンラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・リソースは、そのリソースをオンライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10728: リソース %s をオフラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・リソースは、そのリソースをオフライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10729: 依存性 %s のリソース %s からの削除に失敗しました。

原因: クラスタ・リソースの依存性を削除できません。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10730: ネットワーク名 %s はこのクラスタに無効です。

原因: 指定したネットワーク名はこのクラスタでは使用できません。

処置: クラスタで使用可能なネットワーク名を指定します。

FS-10731: ネットワーク名 %s はグループ %s のリソースである必要があります。現在、ネットワーク名はグループ %s に存在します。

原因: 「リソースをグループに追加」操作の際にネットワーク名が依存性として指定されました。ネットワーク名は、リソースを追加しようとしていたグループとは異なるグループに属していました。

処置: リソースを追加しようとしているグループに属するネットワーク名を指定します。

FS-10732: 必要なネットワーク名が指定されませんでした。

原因: ネットワーク名を指定する必要がある操作です。依存ネットワーク名が指定されていない場合、リソースがグループに追加される際にこのエラーは発生します。

処置: ネットワーク名を指定します。

FS-10733: %s: リソース %s をオフラインにしています。

原因: 指定したリソースを停止しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10734: グループ %s をオフラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・グループは、そのグループをオフライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10740: Windows オペレーティング・システムのライブラリが PATH 環境変数の取得に失敗しました。

原因: 環境変数 PATH を取得するための、Windows オペレーティング・システムのライブラリ・コールが何も返しません。

処置: Windows を調べて、環境変数 PATH の値を取得できない理由を特定します。

FS-10741: 環境変数 PATH の値に Oracle ホーム・パスが見つかりません。

原因: 環境変数 PATH の値に Oracle ホームのパスがまったくありません。

処置: 環境変数 PATH が不適切に変更されていないかどうかを確認します。

FS-10749: コンソールへ処理項目を送信する際に COM エラーが返されました。

原因: Oracle Services for MSCS には、Oracle Services for MSCS コンソールへ処理項目を送信する際に COM エラーが返されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.16 FS-10750 ~ FS-10799

FS-10750: ノード %s でローカル・クラス・ファクトリの作成に失敗しました。

原因: そのクラス・ファクトリが作成できません。

処置: Oracle Services for MSCS が全クラスタ・ノードに対する管理者権限を伴ってインストールされていることと、全クラスタ・ノード上で同じアカウントの元で稼働するようにインストールされていることを確認します。使用されているアカウントを調べるには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle-<Oracle_Home>」→「Oracle Services for MSCS Security Setup」の順にクリックします。

FS-10751: ノード %s で、リモート・ノード %s へのクラス・ファクトリの作成に失敗しました。

原因: リモート・ノードに、クラス・ファクトリが作成できません。

処置: Oracle Services for MSCS が全クラスタ・ノードに対する管理者権限を伴ってインストールされていることと、全クラスタ・ノード上で同じアカウントの元で稼働するようにインストールされていることを確認します。使用されているアカウントを調べるには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle-<Oracle_Home>」→「Oracle Services for MSCS Security Setup」の順にクリックします。

FS-10752: COM クラス・ファクトリはオブジェクトのインスタンスを作成できません。

原因: COM クラス・ファクトリは、そのオブジェクトのインスタンスを作成できません。

処置: メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。

FS-10753: COM クラス・ファクトリまたはオブジェクト・インスタンスのどちらかが作成できません。

原因: CoCreateInstance のコールが失敗しました。

処置: メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。

FS-10754: インタフェースを問い合わせるときに COM エラーが発生しました。

原因: オブジェクト・インタフェースを問い合わせるコールが、エラーを返しました。

処置: メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。

FS-10755: %s COM オブジェクトの作成エラー

原因: COM オブジェクトの作成に失敗しました。

処置: メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。

FS-10756: 操作の実行に使用可能な COM ワーカーが存在しません。

原因: 操作の実行に必要な、クラスタ・ノード上の COM ワーカーを見つけることができませんでした。

処置: メッセージに対する Windows イベント ログを調べます。また、すべてのクラスタ・ノードで Oracle Services for MSCS が正しくインストールされているのかも調べます。

FS-10757: ワーカーへ処理項目を送信する際に COM エラーが返されました。

原因: ワーカーへ処理項目を送信する際に COM エラーが返されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10758: スレーブ・サービス名 %s が %s に追加されました。

原因: 指定した Oracle Reports Server スレーブ・サービス名が、指定した tnsnames.ora ファイルに追加されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10759: スレーブ・サービス名 %s が %s で更新されました。

原因: 指定した Oracle Reports Server スレーブ・サービス名が、指定した tnsnames.ora ファイルで更新されました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10760: Oracle Reports Server キャッシュ・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定したキャッシュ・ディレクトリは、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でキャッシュ・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10761: Oracle Reports Server ソース・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定したソース・ディレクトリは、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でソース・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10762: Oracle Reports Server ジョブ・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定したジョブ・ディレクトリは、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でジョブ・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10763: 構成ファイル %s が作成されました。

原因: 指定した Oracle Reports Server 構成ファイルを作成しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10764: ファイル共有 %s へのアクセスの有効性を検査しています。

原因: 指定したファイル共有へのアクセスの有効性を検査しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10765: 構成ファイル %s が削除されました。

原因: 指定した Oracle Reports Server 構成ファイルを削除しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10766: ジョブ・スケジューリング・ファイル %s が削除されました。

原因: 指定した Oracle Reports Server ジョブ・スケジューリング・ファイルを削除しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10767: Windows サービス %s 用のユーザー名およびパスワードを変更しました。

原因: 指定した Oracle Reports Server Windows サービスに対するユーザー名とパスワードを変更しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10768: %s リソース %s はリソース %s に依存します。依存性を追加しますか？

原因: 指定したリソースには必要な依存性が欠落しています。

処置: Oracle Services for MSCS で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10769: スレーブ・サービス名 %s は %s で見つかりませんでした。

原因: 検証操作によって、指定したスレーブ・サービス名が tnsnames.ora ファイル内に見つかりませんでした。

処置: これは警告メッセージです。警告を解除するには、指定したスレーブ・サービス名が含まれるよう tnsnames.ora ファイルを更新します。

FS-10771: Oracle Reports Server リソース %s は 1 つのネットワーク名リソースのみに依存できます。

原因: Oracle Reports Server リソースは、複数のネットワーク名リソースに依存しています。

処置: 1 つのネットワーク名リソースに依存するように Oracle Reports Server リソースを変更し、グループの検証操作を再実行します。

FS-10772: ディレクトリ %s はクラスタ・ディスクに置く必要があります。

原因: 指定したディレクトリは、クラスタ・ディスクに置く必要があります。

処置: 指定したディレクトリがクラスタ・ディスクを使用するように変更します。

FS-10773: ディレクトリ %s はグループ %s と同じノードにあるクラスタ・ディスクを使用する必要があります。

原因: 指定したディレクトリが使用しているクラスタ・ディスクは、グループとして現在同じノード上にありません。

処置: そのクラスタ・ディスクをグループを含むノードに移動するか、またはそのグループをクラスタ・ディスクを含むノードに移動します。

FS-10774: ディレクトリ %s は、他のクラスタ・リソースが依存しているクラスタ・ディスクを使っています。

原因: ディレクトリに対し、他のクラスタ・リソースが依存しているクラスタ・ディスクが指定されています。

処置: 指定したディレクトリが、他のクラスタ・リソースによって依存されていないクラスタ・ディスクを使用するように変更します。

FS-10775: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の初期化に失敗しました。

原因: 指定したリソースの初期化で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10776: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の所有者ノードの判断に失敗しました。

原因: 指定したリソースの所有者を判断しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10777: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のリソース・プロパティの有効性検査に失敗しました。

原因: ユーザー指定のリソース・プロパティの有効性検査で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10778: %s リソース・プロバイダで、クラスタ・リソース %s の構成に失敗しました。

原因: クラスタ・リソースの構成で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10779: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するプロパティ・データの取得に失敗しました。

原因: クラスタからリソース・プロパティ・データを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10780: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するプロパティ・データの設定に失敗しました。

原因: クラスタにリソース・プロパティ・データを設定しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10781: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するスタンドアロン・リソースの検証に失敗しました。

原因: 指定したスタンドアロン・リソースの検証で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10782: %s リソース・プロバイダで、リソース %s をオンラインにしようとして失敗しました。

原因: 指定したリソースのオンライン化で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10783: %s リソース・プロバイダで、リソース %s をオフラインにしようとして失敗しました。

原因: 指定したリソースのオフライン化で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10784: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対する仮想サーバーの構成に失敗しました。

原因: 指定したリソースに仮想サーバーを構成しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10785: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するクラスタ構成の削除に失敗しました。

原因: 指定したリソースのクラスタ構成を削除しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10786: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対する仮想サーバーの構成の削除に失敗しました。

原因: 指定したリソースの仮想サーバー構成を削除しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10787: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するレプリケーション・データの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースのレプリケーション・データを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10788: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するレプリケーション・データの設定に失敗しました。

原因: 指定したリソースのレプリケーション・データを設定しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10789: %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソースのリストの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソース・プロバイダからスタンドアロン・リソースのリストを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10790: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するこの操作の実行は許されていません。

原因: 要求された操作は、指定したリソース上では実行できません。

処置: 指定したリソース上では、その操作を実行しないでください。

FS-10791: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のクラスタ情報収集中に失敗しました。

原因: 指定したリソースのクラスタ情報の収集中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10792: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のクラスタ情報分析中に失敗しました。

原因: 指定したリソースのクラスタ情報の分析中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10793: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のエピソード実行中に失敗しました。

原因: 指定したリソースのクラスタに対するエピソードの実行中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10794: %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソース %s の作成に失敗しました。

原因: スタンドアロン・リソースを作成しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10795: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の有効性検査に失敗しました。

原因: リソースを検査しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10796: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のロールバック処理中に失敗しました。

原因: 操作をロールバックしようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10797: %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソース %s の削除に失敗しました。

原因: スタンドアロン・リソースを削除しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10798: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の所有者情報の分析に失敗しました。

原因: 指定したリソースの所有者情報を分析しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

2.17 FS-10800 ~ FS-10849

FS-10801: 共通プロパティ・バッファの設定に失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントは共通プロパティ・バッファを設定できませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10802: プライベート・プロパティ・バッファの設定に失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはプライベート・プロパティ・バッファを設定できませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10803: アプリケーション・プロパティ・バッファの設定に失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはアプリケーション・プロパティ・バッファを設定できませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10804: 共通プロパティを開くときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントは共通プロパティを開けませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10805: プライベート・プロパティを開くときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはプライベート・プロパティを開けませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10806: アプリケーション・プロパティを開くときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはアプリケーション・プロパティを開けませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10807: 共通プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントは共通プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10808: プライベート・プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはプライベート・プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10809: アプリケーション・プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: プロパティ・コンポーネントはアプリケーション・プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10810: 要求されたプロパティを見つけられません。

原因: プロパティ・コンポーネントは要求されたプロパティを見つけられません。プロパティ名は、要求されたプロパティの正しい名前である必要があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10811: 無効なプロパティ・タイプが指定されました。

原因: 指定したプロパティ・タイプは無効です。有効なプロパティ・タイプは、(FsCoProperty.h に定義されている) eCommon、ePrivate および eApplication です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10815: クラスワイド操作の重複所有者ノード

原因: リソース・プロバイダにより、スタンドアロン・リソースの所有者が複数のノードであると報告されたため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10816: クラスタワイド操作には所有者ノードが必要ですが、指定されていません。

原因: リソース・プロバイダにより所有者ノードが必要であると指定されたにもかかわらず、所有者ノードが見つからなかったため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10817: 無効な所有者状態が指定されました。

原因: 少なくとも1つのリソース・プロバイダが、無効な所有者状態を返したため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10818: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の構成処理の準備中に失敗しました。

原因: 構成処理のためのリソースの準備中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10819: ノード %s はグループ %s の可能所有者ではなく、構成もできません。残っているノードで続行しますか？

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: 指定したノードを構成せずに Oracle Services for MSCS で操作を続行する場合は、「はい」をクリックします。操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10820: ノード %s はグループ %s の可能所有者ではなく、指定された操作に対する構成もできません。

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: グループの可能所有者を変更し、「グループの検証」コマンドを実行してすべての可能所有者グループが構成されていることを確認します。

FS-10821: リソース %s はノード %s 上で常駐し、グループ %s の可能所有者ではないため構成もできません。

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: グループの可能所有者を変更し、操作を再試行します。

FS-10822: ノード %s はリソース・タイプ %s の可能所有者ではありません。

原因: 指定したノードは指定したリソース・タイプの可能所有者ではありません。指定したリソース・タイプのリソース DLL は、MSCS にはロードできません。

処置: リソース DLL が存在し、パスにあることを確認します。リソース DLL のパス位置を更新するためにノードをリブートする必要がある場合があります。

FS-10823: リソース・タイプ %s がノード %s 上で使用可能か判別中のエラー。

原因: 指定したリソース・タイプが指定したノードで使用可能か判別している際に、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10825: XML ドキュメントが無効です。

原因: XML ドキュメントが、正しく形成されていません。無効な形式になっています。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10826: %s 用の XML ドキュメント・スキーマは有効ではありません。

原因: XML ドキュメント・スキーマが無効です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10827: XML コマンドが不明です。

原因: XML コマンドの値が不明です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10828: XML ノードが見つかりません。

原因: コールする側は、存在しないノードを検索しています。このメッセージは、XML ドキュメントを処理しているコードに、オブジェクトが存在しないという情報を提供します。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10829: XML ドキュメントにオブジェクト名が存在しません。

原因: コールする側から渡される XML ドキュメントには、オブジェクト名が必要です。XML ドキュメントが適切な Oracle Services for MSCS スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10830: XML ドキュメントにオブジェクト型が存在しません。

原因: コールする側から渡される XML ドキュメントには、オブジェクト型が必要です。XML ドキュメントが適切な Oracle Services for MSCS スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10831: XML ドキュメントで、指定されたコマンドに対して間違ったオブジェクト型があります。

原因: XML ドキュメントに、XML コマンドがドキュメント内でサポートしていないオブジェクト型があります。XML ドキュメントが適切な Oracle Services for MSCS スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10832: %s は有効な XML コマンド・タグではありません。

原因: XML ドキュメントで、Oracle Services for MSCS プロトコルではサポートされていない無効なコマンド・タグが使用されています。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.18 FS-10850 ~ FS-10899

FS-10851: リソース %s に対するリソース・データの取得に失敗しました。

原因: 指定したリソースに対するリソース・データを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10852: リソース %s に対するリソース・データの設定に失敗しました。

原因: 指定したリソースに対するリソース・データを設定できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10853: レプリケーション用のレジストリ・キー %s の追加に失敗しました。

原因: クラスタを複製するための、指定したレジストリ・キーを追加できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10854: レプリケーション用のレジストリ・キー %s の削除に失敗しました。

原因: クラスタを複製するための、指定したレジストリ・キーを削除できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10860: アカウント %s は、サービスとしてログオンする権利が付与されています。

原因: サービスとしてログオンするユーザー権利を付与しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10861: DLL: %s のロードが次のエラーで失敗しました: %u

原因: 指定した動的リンク・ライブラリ (DLL) をロードできませんでした。

処置: 指定した DLL がそのシステムにインストールされており、DLL を検索するパスも正しく設定されていることを確認します。

FS-10862: セキュリティ初期化ルーチンのロードが次のエラーで失敗しました: %u

原因: セキュリティ初期化ルーチンのアドレスをロードできませんでした。

処置: Windows セキュリティ・パッケージが、そのシステムにインストールされていることを確認します。

FS-10863: Windows セキュリティ・パッケージの初期化に失敗しました。

原因: Windows セキュリティ・パッケージを初期化できませんでした。

処置: Windows セキュリティ・パッケージが、そのシステムにインストールされていることを確認します。

FS-10864: セキュリティ・パッケージ情報の問合せが次のエラーで失敗しました : %u

原因: セキュリティ・パッケージ情報の問合せに失敗しました。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10865: セキュリティ資格証明の取得が次のエラーで失敗しました : %u

原因: 指定されたユーザーのセキュリティ資格証明を取得できません。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10866: ログインの拒否: ユーザー名またはドメインが不明、もしくはパスワードが正しくありません。

原因: 指定されたアカウント情報では、そのユーザーはログオンできません。

処置: ユーザー名、パスワードおよびパスワードなどのアカウント情報が正しいことを確認します。

FS-10867: セキュリティ・コンテキストの初期化が次のエラーで失敗しました : %u

原因: セキュリティ・コンテキストを初期化できません。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10868: ユーザー権利のチェックに失敗しました。

原因: 指定されたユーザーの権利をチェックできませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10869: ユーザー権利の追加に失敗しました。

原因: 指定されたアカウントのユーザー権利を追加できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10870: グループ %s からのユーザー・メンバー情報の取得が次のエラーで失敗しました : %u

原因: 指定されたローカル・グループからユーザー・メンバー情報を取得できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10871: ユーザー %s のローカル・グループ %s への追加が次のエラーで失敗しました : %u

原因: 指定されたローカル・グループにユーザーを追加できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10872: ユーザー %s のローカル・グループ %s からの削除が次のエラーで失敗しました:
%u

原因: 指定されたローカル・グループからユーザー・メンバー情報を取得できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10873: ローカル・グループ %s の作成が次のエラーで失敗しました: %u

原因: 指定されたローカル・グループを作成できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10874: ローカル・グループ %s の削除が次のエラーで失敗しました: %u

原因: 指定されたローカル・グループを削除できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10875: ローカル・グループ %s が存在しません。

原因: 指定されたローカル・グループがシステムに存在しません。

処置: 指定されたローカル・グループがシステムに存在することを確認してください。

FS-10876: ユーザー %s のローカル・グループ %s への追加に失敗しました。

原因: 指定されたローカル・グループにユーザーを追加できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10877: ユーザー %s のローカル・グループ %s からの削除に失敗しました。

原因: 指定されたローカル・グループからユーザーを削除できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10878: データベース・インスタンス %s のオペレーティング・システム認証の構成に失敗しました。

原因: 指定されたデータベース・インスタンスのオペレーティング・システム認証を構成できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10879: 指定された操作のクラスタ・ハンドルが無効です。

原因: 無効なクラスタ・ハンドルのために、クラスタ操作を実行できませんでした。

処置: これは内部でのみ使用されます。問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10890: Oracle Services for MSCS は %s 操作中に失敗しました。

原因: 指定した操作の処理中に、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.19 FS-10900 ~ FS-10949

FS-10900: %s のリソース・プロバイダはノード %s に登録されていません。

原因: リソース・タイプには、Windows レジストリのエントリがありません。

処置: リソース・タイプを Windows レジストリに登録します。

FS-10901: リソース・タイプ %s が Windows レジストリに複数回登録されています。

原因: リソース・タイプには複数のレジストリ・エントリがあります。

処置: 余分な登録を削除します。

FS-10902: オンラインの間はリソース %s に依存性を追加できません。依存性の追加のためにリソース %s をオフラインにしますか？

原因: オンラインのリソースに依存性を追加できません。

処置: Oracle Services for MSCS でリソースをオフラインにし、依存性を追加した後で再びオンラインにする場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。依存性を追加しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10905: %s: スタンドアロン・リソース %s の作成を開始します。

原因: 新規スタンドアロン・リソースの作成を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10906: %s: スタンドアロン・リソースを作成中です。

原因: 新規のスタンドアロン・リソースを作成しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10907: %s: スタンドアロン・リソースの有効性を検査しています。

原因: 新規のスタンドアロン・リソースの有効性を検査しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10908: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に作成されました。

原因: 新規のスタンドアロン・リソースの作成が完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10910: %s: スタンドアロン・リソース %s の削除を開始します。

原因: スタンドアロン・リソースの削除を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10911: %s: スタンドアロン・リソースを削除中です。

原因: スタンドアロン・リソースを削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10912: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に削除されました。

原因: スタンドアロン・リソースの削除が完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10915: %s: スタンドアロン・リソース %s の検証を開始します。

原因: スタンドアロン・リソースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10916: %s: スタンドアロン・リソースの検証

原因: スタンドアロン・リソースを検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10917: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に検証されました。

原因: スタンドアロン・リソースの検証が完了しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

2.20 FS-10950 ~ FS-10999

FS-10950: Windows サービス %s はすでにクラスタ・リソースとなっています。

原因: 指定した Windows サービスは、すでにクラスタ・リソースになっています。

処置: 汎用サービス・タイプのクラスタ・リソースを調べて、指定した Windows サービスのリソースを見つけます。

FS-10951: ユーザーが Windows サービスのイメージ名を指定しましたが、このノードの Windows サービスはイメージ名 %s を既に持っています。

原因: 指定したサービスは存在していますが、指定したイメージ名とは異なるイメージ名を持っています。

処置: サービス名を一意のものに変更するか、指定するイメージ名が既存サービスのイメージ名と一致することを確認します。Windows の「コントロール パネル」で「サービス」を選択して、既存サービスに関連付けられているイメージ名を調べられます。

FS-10952: Oracle Windows サービス %s は既に汎用サービスです。

原因: 指定した Oracle Windows サービスは、すでに汎用サービスになっています。MSCS クラスタ アドミニストレータによって汎用サービスに指定されています。

処置: MSCS クラスタ アドミニストレータを使用して、次のように、指定した Oracle Windows サービス名に対応するリソースを検索して削除します。

1. クラスタ アドミニストレータのツリー・ビューで「リソース」をクリックします。
2. 汎用サービス・タイプのリソースを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
3. 「パラメータ」タブをクリックしてサービス名を参照します。
4. 指定した Oracle Windows サービス名に対応する汎用サービスを見つけるまで、手順 1 ~ 3 を繰り返します。
5. 手順 4 で識別した汎用サービスを削除します。

FS-10953: Windows のサービス %s のイメージ %s がこのノード上に存在しません。

原因: 指定した Windows サービスのイメージがこのノードに存在しません。

処置: 指定した Windows サービスのイメージがこのノードに存在することを確認します。

FS-10980: リソース・プロバイダが、指定された操作に対して機能しません。

原因: リソース・プロバイダが、指定された操作に対して実行する処理がないことをワーカーに通知しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10981: リソース・プロバイダでは、指定された操作に対してエピログのみを実行する必要があります。

原因: リソース・プロバイダは、指定された操作に対してエピログのみを実行する必要があることをワーカーに通知しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10989: リソース・プロバイダ %s は未処理の例外を検出しました。

原因: 処理されていない例外がリソース・プロバイダによって検出されました。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10990: エラー 0x%X がシステム・エラーとしてレポートされていますが、エラー・メッセージが見つかりません。

原因: ソフトウェア・モジュールによって、あるエラーがシステム・エラーとして報告されていますが、それが見つかりません。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10991: エラー 0x%X は Oracle Services for MSCS 機能ではなく機能 %d を使用してレポートされています。

原因: ソフトウェア・モジュールは、Oracle Services for MSCS 機能を指定するはずでしたが、指定していません。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10992: エラー 0x%X は不明な機能 %d を使用してレポートされています。

原因: ソフトウェア・モジュールは、不明な機能を指定しました。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10994: ワーカー・プロセスは、指定された操作について処理を実行する必要がなくなったことを示しています。

原因: ワーカー・プロセスは、指定された操作について処理を実行する必要がなくなったことを示しています。操作の中にこのノードに対して実行する処理がまったくないか、あるいは処理がすでに完了しているかのどちらかです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10995: 現行の操作について取消しオプションをオフにします。

原因: 現行の操作について取消しオプションをオフにしています。現行の操作は、取消しコマンドでリカバリできる時点を過ぎています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10996: ワーカーは未処理の例外を検出しました。

原因: 処理されていない例外がワーカー・プロセスによって検出されました。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10997: FSCMD コマンドは、対話モードでは実行できません。このため、ユーザーは入力できません。

原因: FSCMD コマンドは対話モードでは実行できません。したがって、問合せはクライアントに返されません。そのコマンドは、ユーザー入力がないと完了できません。

処置: Oracle Fail Safe Manager からその操作を実行して、必要な入力をコマンドが要求できるようにします。

FS-10999: 内部プログラミング・エラーが発生しました。

原因: 内部コーディング・エラーが存在します。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.21 FS-11000 ~ FS-11049

FS-11024: Load Balancer データ・ポート %d (ノード %s) はデータ・ポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s で変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたってデータ・ポート・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でデータ・ポート値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11025: Load Balancer 要求ポート %d (ノード %s) は要求ポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s で変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたって要求ポート・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: Oracle Services for MSCS で要求ポート値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11026: Forms Load Balancer のクライアント数 %d (ノード %s) はクライアント数 %d (ノード %s) と一致しません。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたってクライアント数パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11027: Forms Load Balancer Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。

原因: 検証操作によって、指定したノードに Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスが存在せず、ユーザーが Windows サービスを作成しないことを選択したことがわかりました。

処置: Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスを作成し、検証操作を再実行します。

FS-11028: Forms Load Balancer Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置： Oracle Services for MSCS で Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11029: Forms Load Balancer Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。デフォルト・ランタイム値で作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置： Oracle Services for MSCS でデフォルトのランタイム値によって Oracle Forms Load Balancer Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作は続行されません。

FS-11030: Forms Load Balancer Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因： クラスタの複数のノード上に、同じ名前の Oracle Forms Load Balancer Server が存在しています。

処置： スタンドアロン Oracle Forms Load Balancer Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle Forms Load Balancer Server を削除し、Oracle Forms Load Balancer Server を再びグループに追加します。

FS-11031: Forms Load Balancer Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因： Oracle Forms Load Balancer Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置： Oracle Forms Load Balancer Server の、指定した最小バージョンをインストールします。

FS-11032: Forms Load Balancer Server の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因： Oracle Forms Load Balancer Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置： Oracle Forms Load Balancer Server の最小バージョンをインストールします。

FS-11033: Windows サービス %s は Forms Load Balancer Server のサービスではありません。

原因: 指定した Windows サービスは、Oracle Forms Load Balancer Server のサービスではありません。

処置: 有効な Oracle Forms Load Balancer Server サービスを指定します。

FS-11034: データ・ポート %d または要求ポート %d は他のプログラムによって使用されている可能性があります。

原因: データ・ポートまたは要求ポート（あるいはその両方）が他のプログラムによって使用されているため、Oracle Forms Load Balancer Server をオンライン化できなかった可能性があります。

処置: 指定したポートが他のプログラムによって使用されていないことを確認します。

FS-11035: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンをインストールする必要があります。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager の、指定した最小バージョンをインストールします。

FS-11036: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンが 1 つ以上のクラスター・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンを各ノードにインストールする必要があります。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager の、指定した最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11037: アプリケーション構成 ID %s の環境が見つかりません。

原因: 指定したアプリケーション構成 ID を取得できませんでした。

処置: 有効なアプリケーション構成 ID を指定します。

FS-11038: アプリケーション構成 ID %s は Windows サービス %s のアプリケーション構成 ID と一致しません。

原因: 「リソースをグループに追加」操作中に指定されたアプリケーション構成 ID と、Oracle Applications Concurrent Manager Windows サービスに関連付けられたアプリケーション構成 ID が一致しません。

処置: 正しいアプリケーション構成 ID を指定します。

FS-11039: Windows サービス %s は Oracle Applications Concurrent Manager サービスではありません。

原因: 指定した Windows サービスは Oracle Applications Concurrent Manager サービスではありません。

処置: 有効な Oracle Applications Concurrent Manager サービスを指定します。

FS-11040: Oracle concurrent manager のログおよび出力ファイルで使用するディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定したディレクトリが存在しません。

処置: ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11041: データベース・サービス %s に接続しています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11042: アプリケーション構成 ID は Windows サービス %s (ノード %s) で見つけることができませんでした。

原因: 指定した Oracle Applications Concurrent Manager Windows サービスのアプリケーション構成 ID 引数が見つかりませんでした。Oracle Applications Concurrent Manager は正しく構成されていません。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager Windows サービスが正しくインストールされていることを確認します。

FS-11043: Oracle Concurrent Manager Windows サービス %s はノード %s に存在しません。ID %s、ユーザー名 %s を使用して作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Applications Concurrent Manager Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したアプリケーション構成 ID およびユーザー名によって Oracle Applications Concurrent Manager Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11044: Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列はノード %s で見つかりません。接続文字列 %s を使用しますか？

原因：検証操作によって、ジョブ要求のバックグラウンド処理のために Oracle Applications Concurrent Manager がデータベースにアクセスできないことがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager では、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を使用してデータベースに接続しますが、そのレジストリ変数が読み取れませんでした。

処置：Oracle Services for MSCS で、指定したデータベース接続文字列によって CCMCONNSTRING レジストリ変数を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作は続行されません。

FS-11045: Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列 (CCMCONNSTRING) はノード %s で見つかりません。

原因：検証操作によって、ジョブ要求のバックグラウンド処理のために Oracle Applications Concurrent Manager がデータベースにアクセスできないことがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager では、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を使用してデータベースに接続しますが、そのレジストリ変数が読み取れませんでした。

処置：データベース接続文字列値で、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を作成します。レジストリ変数 CCMCONNSTRING は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Oracle¥Applications¥11.0.0¥<appl_config>¥CCMCONNSTRING にあります。

FS-11046: ノード %s の Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列はノード %s のデータベース接続文字列と一致しません。

原因：検証操作によって、Oracle Applications Concurrent Manager が、クラスタのノード全体にわたってデータベース接続文字列パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 CCMCONNSTRING は、データベース接続文字列として使用されます。

処置：これは通知メッセージです。Oracle Applications Concurrent Manager が全クラスタ・ノードで同じデータベースを使用していれば、処理は必要ありません。

FS-11047: リソース %s は Oracle Concurrent Manager %s に使用されますがグループ %s に存在しません。グループに追加しますか？

原因：Oracle Applications Concurrent Manager によって使用されるクラスタ・ディスクが、グループにありません。

処置：Oracle Services for MSCS で、指定したリソースをグループに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11048: Oracle Concurrent Manager の出力ディレクトリ %s はノード %s の値と一致しません。ノード %s に変更しますか？

原因： 検証操作によって、Oracle Applications Concurrent Manager が、クラスタのノード全体にわたってログおよび出力ディレクトリ・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager のログおよび出力ディレクトリの値は、Windows レジストリの次の場所にあります。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥APPLICATIONS¥11.5.0¥
<appl-id>¥APPLCSF

処置： Oracle Services for MSCS でログおよび出力ディレクトリを変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11049: Oracle Reports Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因： クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle Reports Server が存在しています。

処置： スタンドアロン Oracle Reports Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle Reports Server を削除し、Oracle Reports Server を再びグループに追加します。

2.22 FS-11050 ～ FS-11099

FS-11050: Oracle Reports Server の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因： Oracle Reports Server の最小バージョンを各ノードにインストールする必要があります。

処置： Oracle Reports Server の、指定した最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11051: Windows サービス %s は Oracle Reports Server service 用のサービスではありません。

原因： 指定した Windows サービスは Oracle Reports Server サービスではありません。

処置： 有効な Oracle Reports Server サービスを指定します。

FS-11052: Oracle Forms Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因： クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle Forms Server が存在しています。スタンドアロン Oracle Forms Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。

処置： 重複スタンドアロン Oracle Forms Server を削除し、Oracle Forms Server を再びグループに追加します。

FS-11053: Oracle Forms Server の最小バージョンが 1 つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Forms Server の最小バージョンを各ノードにインストールする必要があります。

処置: Oracle Forms Server の、指定した最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11054: Windows サービス %s は Oracle Forms Server service 用のサービスではありません。

原因: 指定した Windows サービスは Oracle Forms Server サービスではありません。

処置: 有効な Oracle Forms Server サービスを指定します。

FS-11055: ノード %s の Forms Server POOL パラメータがノード %s の POOL パラメータと一致しません。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって POOL パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 POOL がプール・パラメータとして使用されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11056: Forms Server モード %s (ノード %s) はモード %s (ノード %s) と一致しません。ノード %s に変更しますか?

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって MODE パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 MODE がプール・パラメータとして使用されます。

処置: Oracle Services for MSCS でモード値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11057: Forms Server ポート %d (ノード %s) はポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s に変更しますか?

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって PORT パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 PORT がプール・パラメータとして使用されます。

処置: Oracle Services for MSCS でポート値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11058: Forms Server HOST パラメータ %s (ノード %s) は依存するネットワーク名 %s と一致しません。変更しますか？

原因： 検証操作によって、Oracle Forms Server が、依存するネットワーク名とは異なる HOST パラメータ値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置： Oracle Services for MSCS でホスト値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作は続行されません。

FS-11059: ノード %s の Forms Server HOST パラメータが %s に変更されました。

原因： 検証操作によって、Oracle Forms Server で、クラスタのノード全体にわたって HOST パラメータに異なる値が使用されていたことがわかりました。HOST パラメータは、クラスタの他のノードと一貫性を持つように変更されました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置： これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11060: Forms Server HOST パラメータ %s は依存するネットワーク名 %s と一致する必要があります。

原因： 検証操作によって、Oracle Forms Server が、依存するネットワーク名とは異なる HOST パラメータ値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置： ネットワーク名と同じになるよう、HOST パラメータを更新します。

FS-11061: Oracle Forms Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。

原因： 検証操作によって、指定したノードに Oracle Forms Server Windows サービスが存在せず、ユーザーが Windows サービスを作成しないことを選択したことがわかりました。

処置： Oracle Forms Server Windows サービスを作成し、検証操作を再実行します。

FS-11062: Oracle Forms Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。デフォルト・ランタイム値で作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle Forms Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置： Oracle Services for MSCS でデフォルトのランタイム値によって Oracle Forms Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作は続行されません。

FS-11063: ディレクトリ %s はノード %s 上のグループ %s のディスクを使用しています。グループ %s をノード %s に移動しますか？

原因: そのディレクトリは、他のノード上のクラスタ・ディスクを使用しています。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したクラスタ・ディスクを含むグループを移動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11064: ディレクトリ %s は依存性を持ったノード %s 上のグループ %s のディスクを使用しています。グループ %s をノード %s に移動しますか？

原因: そのディレクトリは、他のノード上のクラスタ・ディスクを使用しています。このディスクに依存しているリソースがあります。

処置: Oracle Services for MSCS で、指定したクラスタ・ディスクを含むグループを移動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11065: %s: グループ %s の優先所有者ノードへの移動を開始します

原因: グループを使用可能な最初の優先所有者ノードに移動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11066: グループ %s の優先所有者が指定されていません。現行ノードが優先所有者です。

原因: グループの優先所有者が指定されていません。現在のノードは優先所有者です。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11067: グループ %s は移動されません。適切な優先所有者ノードが見つかりません。

原因: 指定したグループに対する適切な優先所有者ノードが見つかりませんでした。したがって、指定したグループは現在のノードに残されます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11070: グループ %s の所有者ノードを判別できません。

原因: 指定したグループの所有者ノードを判別できません。操作を実行するには、少なくとも 1 つの所有者ノードが必要です。

処置: グループの所有者ノードを指定します。

FS-11071: グループ %s の可能所有者リストの導出中にエラーが発生しました。

原因: 指定したグループの可能所有者リストを導出できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11072: グループ %s の可能所有者リストの設定中にエラーが発生しました。

原因: 指定したグループの可能所有者リストを設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11073: ノード %s はグループ %s の可能所有者にはなりません。操作がこのノード上では実行されないためです。

原因: ノードがグループの可能所有者ではないため、このノード上のこのグループに対しては操作は実行されません。

処置: 指定したノードに対して操作を実行するには、グループの可能所有者を変更します。

FS-11074: グループ %s の可能所有者を変更できません。グループ内に変更できるリソースがないためです。

原因: グループの可能所有者は、グループ内のリソースの可能所有者を抽出することにより導出されます。グループにリソースがない場合は、全クラスタ・ノードが可能所有者となります。また、Oracle Services for MSCS では、ディスク・ドライブなどの一部のリソースでは可能所有者を変更しません。このエラーは、グループの可能所有者を変更しようとした時に、グループにリソースがないか、可能所有者を変更できないリソースを持っているかのいずれかの理由で実行できない場合に発生します。

処置: 変更できるリソースを持つグループ上の可能所有者のみを変更します。

FS-11075: ノード %s をリソース %s の可能所有者として追加できません。

原因: 指定したリソースに対して指定したノードを可能所有者として追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11076: ノード %s をリソース %s の可能所有者として削除できません。

原因: 指定したリソースの可能所有者として指定したノードを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11077: ノード %s はグループの所有者で使用不可のため、グループ %s から宛先ノード %s に移動できません。

原因: ノードがグループの可能所有者ではないため、指定したグループを指定した宛先ノードに移動できません。

処置: グループを可能所有者であるノードに移動するか、宛先ノードが含まれるようグループ内のリソースの可能所有者プロパティを変更します。

FS-11078: グループ %s の可能所有者リストのリソース・タイプ導出中にエラーが発生しました。

原因: 指定したグループの可能所有者リストのリソース・タイプを導出できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11079: グループがそのノード上でアクティブなため、可能所有者としてノード %s を削除できません。

原因: グループは指定したノードでアクティブであるため、ノードを可能所有者として削除できません。

処置: グループを別の所有者ノードに移動するか、グループをオフライン化します。

FS-11080: ノードの状態の取得中にエラーが発生しました。

原因: クラスタからノードの状態を取得できません。

処置: クラスタがノード状態を返さなかった場合は、副次的エラーを調べます。

FS-11081: ノード %s は指定された操作に使用できません。操作は継続中です。

原因: 指定したノードでは使用可能でないために、指定された操作は実行できませんでした。操作は残りのノードに対して続行されます。

処置: 指定したクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-11082: 指定された操作に使用できるノードがありません。

原因: 指定したノードがすべて使用可能でないために、指定した操作は実行できません。

処置: 指定したクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-11083: ノード %s は指定された操作に使用できません。操作を継続しますか？

原因: 指定したノードは操作に使用できません。

処置: 操作を続行する場合は、「はい」をクリックします。操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11084: %s はノード %s にインストールされていません。

原因: 指定したノードに Oracle Fail Safe と Oracle Real Application Clusters Guard のどちらもインストールされていません。

処置: ターゲット・ノードに製品のどちらか、あるいは両方をインストールします。

FS-11085: リソース・タイプ %s のリソース・プロバイダがインストールされていないか、ノード %s で無効になっています。

原因: 指定したリソース・プロバイダがインストールされていないか、指定したノードで無効になっています。このため、ノードは指定した操作に使用できません。

処置: 指定したリソース・プロバイダをインストール、もしくは有効にします。

2.23 FS-11100 ~ FS-11199

FS-11100: 無効な構成パスが Oracle HTTP Server リソース・プロバイダに提供されました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 問題（ハードウェアおよび Windows オペレーティング・システムの構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-11101: Oracle HTTP Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の HTTP Server が存在しています。

処置: スタンドアロン HTTP Server は、クラスタの 1 つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle HTTP Server を削除し、Oracle HTTP Server を再びグループに追加します。

FS-11102: 新規 Oracle HTTP Server の Windows サービスを作成するコマンドライン・ユーティリティを実行中に、エラーが発生しました。(%)s

原因: 新規 Oracle HTTP Server Windows サービスを作成するために、Oracle HTTP Server コマンドライン・ユーティリティを実行する際に、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11103: %s ファイルの構文が正しくありません。

原因: コマンド "apache -t <httpd.conf>" が失敗しました。

処置: Oracle Services for MSCS で新規 httpd.conf ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11104: ファイル %s がシステム上に存在しません。Oracle Services for MSCS で新規の httpd.conf ファイルを生成しますか？

原因: 指定したファイルが存在しません。

処置: Oracle Services for MSCS で新規 httpd.conf ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11105: Oracle HTTP Server リソース %s をグループ %s から削除しています。

原因: 指定したリソースを指定したグループから削除しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11106: 構成ファイルをクラスタ・ディスクからプライベート・ディスクにコピー中です。

原因: クラスタ・グループから Oracle HTTP Server リソースを削除しています。この処理中、Oracle Services for MSCS は、クラスタ・ディスクからプライベート・ディスクへと構成ファイルをコピーします。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11107: httpd.conf ファイルが存在しません。

原因: Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリに httpd.conf ファイルがなく、ユーザーは Oracle Services for MSCS による httpd.conf ファイルの作成を拒否しています。

処置: Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリに httpd.conf ファイルを作成した後でこの操作を再試行するか、再試行時に前述の質問に対して「はい」と答えます。

FS-11108: インストール・ディレクトリにある httpd.conf ファイルの構文が正しくありません。

原因: Oracle Services for MSCS は、Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリ内の httpd.conf ファイルを、クラスタ・ディスクへとコピーします。これを実行する前に、Oracle Services for MSCS では、Oracle HTTP Server コマンド (apache -t -f <file>) を使用してその構文をチェックします。

処置: 構文の問題を修正し、操作を再試行するか、前述の質問で「はい」と答えます。

FS-11109: 構成ファイル %s の構文がチェックされています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11110: 構成ファイル %s は正常に作成および変更されました。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11111: Oracle HTTP Server のリソース %s はリソース %s に依存しています。依存性を追加設定しますか？

原因: Oracle HTTP Server リソースには、指定された必要な依存性が欠落しています。

処置: Oracle Services for MSCS で、依存性を Oracle HTTP Server リソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11112: Oracle HTTP Server はクラスタ化されていないリソース IP アドレス %s でリスニングしています。

原因: Oracle HTTP Server は、クラスタ化されていないリソース IP アドレスでリスニングするよう構成されています。

処置: Oracle HTTP Server が同じグループ内のクラスタ・リソース IP アドレスをリスニングするよう、構成ファイルを変更します。構成ファイルを変更した後で、「グループの検証」を再実行し、Oracle Services for MSCS で依存性を設定します。

FS-11113: このノード上の構成ファイル・パス (%s) は所有者ノード (%s) と一致しません。解決しますか？

原因：所有者でないノード上の Oracle HTTP Server サービスの ConfPath レジストリが、グループの常駐するノード上の ConfPath レジストリと一致しません。

処置：グループが常駐するノード上の設定と一致するように ConfPath を変更する場合は、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。ただし、Oracle HTTP Server はこのノード上では稼働しません。

FS-11114: Oracle HTTP Server%s を完全に検証するにはオンラインにする必要があります。オンラインにしますか？

原因：「グループの検証」操作の結果、オンラインではない Oracle HTTP Server リソースがグループ内に見つかりました。Oracle HTTP Server リソースの完全な検証を実行するためには、そのリソースをオンライン化する必要があります。

処置：Oracle HTTP Server リソースをオンライン化するには、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、Oracle HTTP Server リソースの限定的な検証を実行します。

FS-11115: Oracle HTTP Server の Windows サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因：検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle HTTP Server Windows サービスが存在しないことがわかりました。

処置：Oracle Services for MSCS で Oracle HTTP Server Windows サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11116: 適切に指定されていない入力があります。

原因：Oracle ホーム名、HTTP/IP リストまたはサーバー・ルート・ディレクトリが指定されていません。これは、ユーザーが FSCMD を使用している場合に発生する可能性が最も高くなります。

処置：必要な入力をすべて指定して、操作を再試行します。

2.24 FS-11200 ~ FS-11299

FS-11200: ファイル %s は %s にコピーされています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11201: ポート使用をチェックしています。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11202: リソース %s が作成されました。

原因: クラスタ・リソースが正常に作成されました。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11203: ネットワーク名およびディスク・リソースに依存性を設定中です。

原因: これは通知メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11204: ファイル・アクセス・エラーが発生しました。システム・エラー: %s

原因: ファイルにアクセスできません。

処置: ファイルがアクセス可能であることを確認します。

FS-11210: 指定された関数は現行のクラスタ・バージョンではサポートされません。

原因: このバージョンのクラスタ・ソフトウェアではサポートされていないクラスタ・コールを試行しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11215: 不完全な仮想アドレスです。ネットワーク名リソース %s は存在しますが、関連付けされた IP アドレス・リソース %s がありません。

原因: クラスタ・リソースは指定したネットワーク名に対して存在しますが、指定した IP アドレスに対しては存在しません。

処置: IP アドレスのリソースを作成します。

FS-11216: 不完全な仮想アドレスです。IP アドレス・リソース %s は存在しますが、関連付けされたネットワーク名リソース %s がありません。

原因: クラスタ・リソースは指定した IP アドレスに対して存在しますが、指定したネットワーク名に対しては存在しません。

処置: ネットワーク名のリソースを作成します。

FS-11217: 指定のネットワーク名リソース %s が、IP アドレス・リソース %s に依存していません。

原因: 指定したネットワーク名リソースには、指定した IP アドレスへの依存性がありません。

処置: ネットワーク名と IP アドレスの間の依存性を作成します。

FS-11218: リソース %s は、他のリソースがこのリソースに依存しているため、グループ %s に移動できません。

原因: リソースの依存性のため、指定したリソースを指定したグループに移動できませんでした。

処置: 指定したリソースから依存性を削除します。

FS-11220: 仮想アドレスの作成に失敗しました。

原因: 仮想アドレスの作成中にエラーが発生しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-11221: ネットワーク名 %s はすでにクラスタ・リソース %s によって使用されています。

原因: クラスタ・リソースで、すでに指定されたネットワーク名が使用されています。

処置: まだ使用されていないネットワーク名を選択します。

FS-11222: IP アドレス %s はすでにクラスタ・リソース %s によって使用されています。

原因: クラスタ・リソースで、すでに指定された IP アドレスが使用されています。

処置: まだ使用されていない IP アドレスを選択します。

FS-11223: ネットワーク名 %s はクラスタ・ノードの 1 つの名前であり、仮想アドレスでは使用できません。

原因: クラスタ・ノードで、すでに指定されたネットワーク名が使用されています。

処置: まだ使用されていないネットワーク名を選択します。

FS-11224: IP アドレス %s はクラスタ・ノード %s によって使用されており、仮想アドレスでは使用できません。

原因: クラスタ・ノードで、すでに指定された IP アドレスが使用されています。

処置: まだ使用されていない IP アドレスを選択します。

FS-11225: ネットワーク名 %s はクラスタ別名であり、仮想アドレスでは使用できません。

原因: 指定したネットワーク名はすでにクラスタ別名によって使用されています。

処置: まだ使用されていないネットワーク名を選択します。

FS-11226: IP アドレス %s はクラスタ別名 %s によって使用されており、仮想アドレスでは使用できません。

原因: 指定した IP アドレスはすでにクラスタ別名によって使用されています。

処置: まだ使用されていない IP アドレスを選択します。

FS-11260: Oracle MTS Service はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定したノード上のグループに対する Oracle MTS Service が存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Services for MSCS で Oracle MTS Service を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11261: Oracle MTS Service %s が作成されました。

原因: 指定した Oracle MTS Service を作成しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11262: Oracle MTS Service %s が削除されました。

原因: 指定した Oracle MTS Service を削除しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11263: リソース %s は MS DTC リソース上に依存性を持つ必要があります。リソース %s 上にリソース %s の依存性を設定しますか？

原因: 指定したリソースには必要な MSDTC への依存性がありません。

処置: Oracle Services for MSCS で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11264: リソース %s をグループ %s から %s へ移動します。

原因: あるクラスタ・グループから別のグループに MSDTC リソースを移動しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11270: Oracle MTS Service の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle MTS Service の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle MTS Service の、指定した最小バージョンをインストールします。

FS-11271: Oracle MTS Service %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle MTS Service が存在しています。スタンドアロン Oracle MTS Service は、クラスタの 1 つのノードにのみ存在するようにしてください。

処置: 重複しているスタンドアロン Oracle MTS Service を削除し、Oracle MTS Service を再びグループに追加します。

FS-11272: Oracle MTS Service の最小バージョンが 1 つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle MTS Service の最小バージョンを各ノードにインストールする必要があります。

処置: Oracle MTS Service の最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11273: 新規 Oracle MTS Service を作成するためにコマンドライン・ユーティリティを実行中に、エラーが発生しました。: %s

原因: 新規 Windows サービスを作成するため Oracle MTS Service コマンドライン・ユーティリティを実行する際に、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11274: Oracle MTS Service %s をノード %s に作成できませんでした。

原因: 指定した Oracle MTS Service の作成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11275: MSDTC リソースがグループに存在しません。Oracle MTS Service は MSDTC リソースに依存しています。

原因: 指定した Oracle MTS Service の作成または検証に失敗しました。

処置: Oracle MTS Service が追加されるグループに MSDTC リソースが存在することを確認します。

FS-11276: Oracle データベース %s からの Oracle MTS Service 情報の問合せに失敗しました。

原因: ユーザーによる Oracle データベースからの Oracle MTS Service 情報の問合せに失敗しました。

処置: Oracle MTS Service に対して提供された Oracle データベース情報が正しいことを確認します。また、副次的なエラーも調べます。

FS-11277: Oracle データベース %s から Oracle MTS Service のホスト名の取得に失敗しました。

原因: Oracle MTS Service のホスト名を Oracle データベースから取得できません。

処置: Oracle MTS Service に対して提供された Oracle データベース情報が正しく、エラーが発生したノードからデータベース情報を使用してデータベースにアクセスできることを確認します。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11278: Oracle MTS Service の新規サービス名の取得に失敗しました。

原因: 同じ名前のサービスがすでに存在するため、指定されたサービス名を使用できません。Oracle Services for MSCS は Oracle MTS Service の新規サービス名を生成する必要がありますが、その生成に失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-11279: tnsnames.ora ファイルから %s の Oracle データベース・サービス名情報の取得に失敗しました。

原因: tnsnames.ora ファイルからデータベース・サービス名情報を取得できません。このため、クラスタの非所有者ノードに Oracle データベース・サービス名情報を複製できません。

処置: 該当する tnsnames.ora ファイルで Oracle データベース・サービス名情報を定義するか、もしくはサービス名による Oracle データベースへのアクセスをすべての非所有者ノードに付与します。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11280: tnsnames.ora ファイルの %s の Oracle データベース・サービス名情報の更新に失敗しました。

原因: クラスタの非所有者ノードで tnsnames.ora ファイルのデータベース・サービス名情報を更新できません。

処置: 該当する tnsnames.ora ファイルで Oracle データベース・サービス名情報を定義するか、もしくはサービス名による Oracle データベースへのアクセスをすべての非所有者ノードに付与します。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11281: リソース %s のグループ %s から %s への変更に失敗しました。

原因: MSDTC リソースのグループの変更に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.25 FS-11300 ~ FS-11399

FS-11328: Windows サービス %s の依存性を変更することによりシステム再起動後の自動開始が可能となります。

原因: リポート後に自動的に起動するように、指定した Windows サービスの属性が変更されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11329: Windows サービス %s のロード順序グループを変更することによりシステム再起動後の自動開始が可能となります。

原因: リポート後に自動的に起動するように、指定した Windows サービスの属性が変更されています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11330: Real Application Clusters データベースの検出の為に Windows サービス %s が存在しないかまたは開始できません。

原因: 指定した Windows サービスは、Oracle Real Application Clusters データベースの検出に必要です。ただし、その Windows サービスが存在していないか、起動できない状態です。

処置: Oracle Real Application Clusters ソフトウェアが正しくインストールされているか調べます。

FS-11332: グループ %s にはインスタンス %s が含まれ、ノード %s 以外ではオンラインにできません。グループをオンラインにする前に移動しますか？

原因: データベース・インスタンスを含むグループは現行ノードではオンラインにできず、オンラインにする前に優先所有者ノードに移動する必要があります。

処置: グループをオンラインにする前に、インスタンスの優先所有者ノードにグループを移動する場合は「はい」をクリックします。現行ノードでグループをオンラインにする場合は「いいえ」をクリックします。

FS-11333: ノード %s は使用できないため、このノード上で仮想アドレスのフェイルオーバーをテストできません。

原因: 指定したノードが使用できないため、そのノードでは仮想アドレスのフェイルオーバーを正常にテストできません。

処置: 指定したノードが使用可能になったら、フェイルオーバーを正常に動作させるため、仮想アドレスを含むグループをそのノードに手動で移動します。

FS-11334: データベースは、実行環境格納ファイル（レジストリ）にエントリがありません。

原因: 指定したデータベースは、実行環境格納ファイルにエントリがないため、スタンダローン・データベースと見なされます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11335: ノード %s は使用できません。インスタンス %s の Oracle Net 構成情報は更新できません。

原因: 指定したノードはこの操作で使用できません。このため、このインスタンスの Oracle Net 構成情報は更新できません。

処置: tnsnames.ora ファイルを手動で更新して、構成の変更を反映します。

FS-11336: インスタンス %s 上で操作を実行できません。優先所有者ノード %s が使用できません。

原因: インスタンスの優先所有者ノードは使用できません。このため、指定した操作は完了しません。

処置: 優先所有者ノードが使用可能になった後で、操作を繰り返します。

FS-11337: インスタンス %s 上で完全な操作を実行できません。優先所有者ノード %s が使用できません。続行しますか？

原因: インスタンスの優先所有者ノードは使用できません。このため、指定した操作は完了しません。

処置: 指定した操作をできるかぎり Oracle Services for MSCS で続行する場合は、「はい」をクリックします。操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11338: データベース %s は、MSCS で構成されたインスタンスを持たず、現在スタンドアロン・データベースです。

原因: 指定したデータベースは以前は構成済データベースでしたが、現在は MSCS で構成されたインスタンスがないためスタンドアロン・データベースとなっています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11339: Real Application Clusters データベース・インスタンスはグループに 1 つ許可されます。グループ %s には、すでに 1 つ含まれています。

原因: Real Application Clusters データベース・インスタンスはグループごとに 1 つだけサポートされています。指定したグループにはすでにデータベース・インスタンスが含まれているため、データベースの構成に使用できません。

処置: Real Application Clusters データベースの構成に使用する、新しいベース・グループ名を選択します。

FS-11340: SID が %s のデータベースはレジストリに存在しますが、MSCS リソースとして構成されていません。

原因: MSCS リソースとして構成されたデータベースが削除されていますが、リソースに関するメタデータはまだレジストリに存在します。

処置: 指定したオブジェクトについて「検証」コマンドを実行し、MSCS とレジストリの不一致を削除します。

FS-11341: サービス名が %s のデータベースはレジストリに存在しますが、MSCS リソースとして構成されていません。

原因: MSCS リソースとして構成されたデータベースが削除されていますが、リソースに関するメタデータはまだレジストリに存在します。

処置: 指定したオブジェクトについて「検証」コマンドを実行し、MSCS とレジストリの不一致を削除します。

FS-11342: Real Application Clusters データベース %s はレジストリに存在しますがインスタンス情報がありません。検証コマンドを実行します。

原因: Real Application Clusters データベースに関連付けられているデータベース・インスタンス情報が、レジストリから読み込めないか、もしくは存在しません。

処置: 指定したオブジェクトについて「検証」コマンドを実行し、レジストリ内の不一致を削除します。

FS-11343: 操作を実行できません。データベース %s は、プライマリ / セカンダリ・インスタンス・モードではないようです。

原因: プライマリ / セカンダリ・インスタンス・モードにはならないため、指定したデータベースでは操作を実行できませんでした。

処置: プライマリ / セカンダリ・インスタンス・モードになるようにデータベースを構成します。

FS-11344: 操作を実行できません。データベース %s のプライマリ Real Application Clusters データベース・インスタンスが見つかりません。

原因: データベースのプライマリ・インスタンスを判別できないため、指定したデータベースでは操作を実行できませんでした。

処置: プライマリ / セカンダリ・インスタンス・モードになるようにデータベースを構成します。

FS-11345: 操作を実行できません。データベース %s のセカンダリ Real Application Clusters データベース・インスタンスが見つかりません。

原因: データベースのセカンダリ・インスタンスを判別できないため、指定したデータベースでは操作を実行できませんでした。

処置: プライマリ / セカンダリ・インスタンス・モードになるようにデータベースを構成します。

FS-11346: 操作を実行できません。データベース・インスタンス・リソース %s がオンラインではありません。

原因: 指定した操作を実行するためには、指定したデータベース・インスタンス・リソースがオンラインになる必要があります。

処置: 指定したインスタンスをオンラインにします。

FS-11347: インスタンス %s をオンラインにするには、このインスタンスを含むグループ %s を優先ノードに移動する必要があります。移動しますか？

原因: データベース・インスタンスは現行ノードではオンラインにできず、オンラインにする前に優先所有者ノードに移動する必要があります。

処置: 優先所有者ノードにインスタンスを移動してからオンラインにする場合は、「はい」をクリックします。インスタンスのオンライン化を試行せずに操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11348: データベース %s にはインスタンス %s がありますが MSCS で構成されていません。追加インスタンスの構成コマンドを使用してください。

原因: データベースには、MSCS で構成されていないインスタンスがあります。

処置: Real Application Clusters データベースで「追加インスタンスの構成」コマンドを使用して、インスタンスがすべて MSCS で構成されるようにします。

FS-11349: インスタンス %s は MSCS で構成されていませんが、データベース %s の一部です。構成解除コマンドを使用してください。

原因: データベース・インスタンスは MSCS で構成されていますが、指定されたデータベースの一部ではありません。

処置: Real Application Clusters データベースで「構成解除」コマンドを使用して、インスタンスを MSCS から構成解除します。

FS-11350: %s : Real Application Clusters データベース %s の検証を開始します。

原因: 指定した Real Application Clusters データベースの検証を開始しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11351: %s : Real Application Clusters データベース %s を検証中

原因: 指定した Real Application Clusters データベースの属性を検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11352: %s : Real Application Clusters データベース・インスタンス %s の検証中です。

原因: 指定したノード上の指定した Real Application Clusters データベース・インスタンスの属性を検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11353: %s : Real Application Clusters データベース %s の検証が正常に完了しました。

原因: 指定したノード上の指定した Real Application Clusters データベースを正常に検証しました。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11354: インスタンス %s の Windows サービス %s が見つかりませんでした。

原因: 指定したインスタンスに必要な Windows サービスが、存在しません。

処置: 指定したインスタンスの Windows サービスを再作成します。

FS-11355: Real Application Clusters データベース %s の検証に失敗しました。

原因: 指定した Real Application Clusters データベースを検証できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11356: レジストリまたは srvctl から %s の Real Application Clusters データベース情報を収集しようとして失敗しました。

原因: Windows レジストリまたは srvctl ユーティリティから Real Application Clusters データベース情報を収集しようとして失敗しました。

処置: 指定したデータベースについて、srvctl ユーティリティによってレポートされるデータベース情報で問題を修正します。

FS-11357: ノード %s は Real Application Clusters データベース %s の優先所有者ノードではありません。検証は実行されませんでした。

原因: Real Application Clusters データベースの優先所有者ノードのみが構成されるため、検証は優先所有者ノードのみで実行できます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11358: ノード %s は Real Application Clusters データベース・リスナー %s の優先所有者ノードではありません。検証は実行されませんでした。

原因: Real Application Clusters データベース・リスナーの優先所有者のみが構成されるため、検証は優先所有者ノードのみで実行できます。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11359: Real Application Clusters データベース %s には指定のスクリプト・ファイル %s がありますが、ファイルはノード %s に見つかりません。

原因: Real Application Clusters データベースの状態が変更されたときに実行するように指定されたスクリプト・ファイルは、指定したノードではアクセスできません。

処置: 指定されたスクリプト・ファイルが存在し、指定したノードでアクセスできることを確認します。

FS-11360: Oracle Net 構成計画の生成に失敗しました。

原因: Oracle Net 構成計画の生成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11361: Oracle Net 構成計画の実行に失敗しました。

原因: Oracle Net 構成計画の実行に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11362: ノード %s での Oracle Net 構成の変更をロールバックしています。

原因: 指定したノードでの Oracle Net 構成の変更をロールバックしています。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11363: ノード %s での Oracle Net 構成の変更をロールバックしました。

原因: 指定したノードでの Oracle Net 構成の変更をロールバックしました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11364: ロールバックを完了できませんでした。

原因: ロールバックを完了できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11365: ファイル %s のロールバックに失敗しました。

原因: 指定したファイルのロールバックに失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11366: リスナーの Windows サービス %s の停止に失敗しました。

原因: 指定したリスナー Windows サービスの停止に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11367: リスナーの Windows サービス %s の開始に失敗しました。

原因: 指定したリスナー Windows サービスの開始に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11368: リスナーの Windows サービス %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したリスナー Windows サービスの削除に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11369: リスナーの Windows サービス %s の作成に失敗しました。

原因: 指定したリスナー Windows サービスの作成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11370: %s から %s へのファイルの移動に失敗しました。

原因: 指定したファイルを移動する操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-11371: リスナー %s からの SID %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したリスナーからの指定した SID の削除に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11372: リスナー %s への SID %s の挿入に失敗しました。

原因: 指定したリスナーへの指定した SID の挿入に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11373: リスナー %s の作成に失敗しました。

原因: 指定したリスナーの作成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11374: リスナー %s の削除に失敗しました。

原因: 指定したリスナーの削除に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11375: TNS サービス名 %s (アドレスのみ) の追加に失敗しました。

原因: 指定した TNS サービスのアドレスのみの追加に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11376: TNS サービス名 %s の削除に失敗しました。

原因: 指定した TNS サービスの削除に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11377: TNS サービス名 %s の追加に失敗しました。

原因: 指定した TNS サービスの追加に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11378: TNS サービス名 %s の更新に失敗しました。

原因: 指定した TNS サービスの更新に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11379: ファイル %s への local_listener パラメータの追加に失敗しました。

原因: 指定したファイルへの local_listener パラメータの追加に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11380: ファイル %s からの local_listener パラメータの削除に失敗しました。

原因: 指定したファイルからの local_listener パラメータの削除に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11381: Oracle Net 構成にエラーが見つかりました。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成にエラーが見つかりました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11382: Oracle Net 構成に追加または不適切なオプション・パラメータが見つかりました。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成に追加的または不適切なオプション・パラメータが見つかりました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11386: Oracle Services for MSCS でエラーを修正します。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成にエラーが見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でエラーを修正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-11387: Oracle Services for MSCS で、追加または不適切なオプション・パラメータを削除します。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成に追加的または不適切なオプション・パラメータが見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でエラーを修正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-11388: Oracle Services for MSCS で、データベースの service_names パラメータおよび Oracle Net 構成を更新します。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成の更新を必要とする変更が見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS で更新を実行する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-11390: 続行するには「はい」をクリックしてください。エラーを無視する場合は「いいえ」をクリックしてください。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成にエラーが見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でエラーを修正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。エラーを無視する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11391: 続行するには「はい」をクリックしてください。パラメータを保持する場合は「いいえ」をクリックしてください。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成に追加的なパラメータが見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でエラーを修正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。エラーを無視する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11392: 続行するには「はい」をクリックしてください。この操作を取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成にエラーが見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS でエラーを修正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。この操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11393: 変更を適用するには「はい」をクリックしてください。service_names を変更しない場合は「いいえ」をクリックしてください。

原因: 検証操作によって、Oracle Net 構成の更新を必要とする変更が見つかりました。

処置: Oracle Services for MSCS で更新を実行する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。変更を無視する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11396: エラー修正を拒否しました。構成が正しいことを確認する必要があります。

原因: Oracle Net 構成で見つかったエラーを修正するための操作を拒否しています。

処置: 現在のところ処置は必要ありません。現行の操作が続行されます。

FS-11397: オプション・パラメータの削除を拒否しました。構成が正しいことを確認する必要があります。

原因: Oracle Net 構成で見つかったエラーを修正するための操作を拒否しています。

処置: 現在のところ処置は必要ありません。現行の操作が続行されます。

FS-11398: エラー修正を拒否しました。現行の操作は取り消されます。

原因: Oracle Net 構成で見つかったエラーを修正するための操作を拒否しています。

処置: 現在のところ処置は必要ありません。現行の操作が取り消されます。

2.26 FS-11400 ~ FS-11499

FS-11400: 適切な検証を行うには、リソース %s をオンラインにする必要があります。オンラインにしますか？

原因: 指定したリソースがオフラインです。

処置: 指定したリソースをオンラインにする場合は、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、全検証を行わずに操作が続行されます。

FS-11401: リソース %s がオフラインのため、完全な検証を実行できません。

原因: ユーザーは、依存リソースをオンラインにしないことを選択しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11402: リソース %s は操作を完了するためにオンラインにする必要があります。オンラインに設定しますか？

原因: 指定したリソースがオフラインです。

処置: 指定したリソースをオンラインにする場合は、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、全検証を行わずに操作が続行されます。

FS-11403: リソース %s はディレクトリ %s を検証するためにオンラインにする必要があります。オンラインに設定しますか？

原因: 指定したリソースがオフラインです。

処置: 指定したリソースをオンラインにする場合は、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、全検証を行わずに操作が続行されます。

FS-11411: リスナー定義ファイルが見つかりません。

原因: リスナー定義ファイルが存在しません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11412: リスナー %s のエントリが見つかりません。

原因: リスナー・エントリが存在しません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11413: リスナーの Windows サービス %s が見つかりません。

原因: 指定した Windows サービスが存在しません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11414: リスナー %s の TCP アドレス・リストが正しくありません。

原因: 指定したリスナーの TCP アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11415: リスナー %s の TCP アドレス・リストに、不適切なまたは追加のオプション・パラメータが含まれています。

原因: 指定したリスナーの TCP アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11416: リスナー %s の IPC アドレスが正しくありません。

原因: 指定したリスナーの IPC アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11417: リスナー %s の IPC アドレス・リストに、不適切なまたは追加のオプション・パラメータが含まれています。

原因: 指定したリスナーの IPC アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11418: リスナー %s の SID 記述リストが正しくありません。

原因: 指定したリスナーの SID 記述リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11419: リスナー %s の SID 記述リストに、不適切なまたは追加のオプション・パラメータが含まれています。

原因: 指定したリスナーの SID 記述リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11420: TNS サービス・エントリ %s の TCP アドレス・リストが正しくありません。

原因: 指定した TNS サービス・エントリの TCP アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11421: TNS サービス・エントリ %s の TCP アドレス・リストに、不適切なまたは追加のオプション・パラメータが含まれています。

原因: 指定した TNS サービス・エントリの TCP アドレス・リストが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11422: TNS サービス・エントリ %s の接続データが正しくありません。

原因: 指定した TNS サービス・エントリの接続データが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11423: 外部プロシージャの TNS サービス・エントリ %s が正しくありません。

原因: 外部プロシージャの指定した TNS サービス・エントリが不適切です。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11424: TNS サービス・エントリ %s が見つかりません。

原因: TNS サービス・エントリが存在しません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11425: データベースの service_names パラメータ %s が、設定されている service_names パラメータ %s と異なります。

原因: 検証操作によって、データベースの service_names パラメータが変更されていることがわかりました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11430: %s : データベース %s の TNS サービス名エントリを更新中です。

原因: データベースの TNS サービス名エントリを更新しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11431: %s : データベース %s の TNS サービス名エントリを検証中です。

原因: データベースの TNS サービス名エントリを検証しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11432: Oracle Net 構成参照ファイルの書込み: %s

原因: Oracle Net 構成参照ファイルが書き込まれています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11433: ファイル %s の remote_login_passwordfile パラメータの変更に失敗しました。

原因: 指定したファイルの remote_login_passwordfile パラメータの更新に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11434: ファイル %s の sqlnet.authentication_services パラメータの変更に失敗しました。

原因: 指定したファイルの sqlnet.authentication_services パラメータの更新に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11435: %s : %s の Oracle Net サービス名を更新

原因: 指定したノード上の TNS サービス名を更新しています。

処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

